



P4P800 Deluxe

ユーザーガイド

Motherboard

J1296

改訂版 V2

2003年5月

Copyright(C)2003 ASUSTeK COMPUTER INC. All Rights Reserved.

購入者がバックアップの目的で利用する場合を除き、本書中に示されるハードウェア・ソフトウェアを含む、本マニュアルのいかなる部分も、ASUSTeK COMPUTER INC. (ASUS)の文書による明示的な許諾なく、再構成したり、転載・引用・放送・複写、検索システムへの登録、他言語への翻訳などを行うことはできません。

以下の場合、製品の保証やサービスを受けることができません：(1)ASUSが明記していない方法で、修理、改造、交換した場合。(2)製品のシリアル番号が傷つけられていたり、失われていた場合。

ASUSは、明示および暗示を問わず、いかなる保証もなく現状のものとして本書を提供します。ただし、市場の状況や特定の目的のための変更を除きます。ASUSの責任者、従業員、代理人は、本書の記述や本製品から生じるいかなる間接的、直接的、偶発的、二次的な損害（利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の中断などを含む）に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関りなく、責任を負うことはありません。

本書の仕様や情報は、個人の使用目的のためにのみ供給されます。予告なしに内容が変更されることがあります。しかし、この変更はASUSの義務ではありません。本書およびハードウェア、ソフトウェアの間違い・不正確さについて、ASUSは対応義務も責任もありません。

本書中の製品名や企業名は登録商標や著作物の場合があります。本書では、識別、説明、およびユーザーの便宜をはかる目的にのみ使用しており、権利を侵害する目的はありません。

もくじ

ご注意	vi
安全上の注意	vii
本ガイドについて	viii
ASUSサポート情報	x
P4P800 Deluxe仕様のまとめ	xi
第 1 章: はじめに	
1.1 ようこそ!	1-1
1.2 梱包の内容	1-1
1.3 特殊機能	1-2
1.3.1 製品のハイライト	1-2
1.3.2 付加価値ソリューション	1-6
1.4 マザーボードの概要	1-7
1.4.1 主なコンポーネント	1-7
1.4.2 コア仕様	1-8
第 2 章: ハードウェアセットアップ	
2.1 マザーボードの取り付け	2-1
2.1.1 配置方向	2-1
2.1.2 ネジ穴	2-1
2.2 マザーボードのレイアウト	2-2
2.3 続行する前に	2-3
2.4 中央処理装置(CPU)	2-4
2.4.1 概要	2-4
2.4.2 CPUを取り付ける	2-5
2.4.3 ヒートシンクとファンを取り付ける	2-7
2.4.4 CPUファンケーブルを接続する	2-9
2.5 システムメモリ	2-10
2.5.1 概要	2-10
2.5.2 メモリ構成	2-11
2.5.3 DIMMの取り付け	2-14
2.5.4 DIMMの取り外し	2-14
2.6 拡張スロット	2-15
2.6.1 拡張カードの取り付け	2-15
2.6.2 拡張カードの構成	2-15
2.6.3 PCI スロット	2-17
2.6.4 AGPスロット	2-18
2.6.5 Wi-Fiスロット	2-19
2.7 ジャンパ	2-20
2.8 コネクタ	2-23
第 3 章: 基本操作	

もくじ

3.1	初めて起動する	3-1
3.2	ボーカルPOSTメッセージ	3-2
3.3	コンピュータの電源をオフにする	3-4

第 4 章: BIOSセットアップ

4.1	BIOSの管理と更新	4-1
4.1.1	ブート可能なフロッピーディスクを作成する	4-1
4.1.2	AFUDOSを使用してBIOSを更新する	4-1
4.1.3	ASUS EZフラッシュを使用して、BIOSを 更新する	4-3
4.1.4	CrashFree BIOS 2でBIOSを回復する	4-4
4.2	BIOSセットアッププログラム	4-6
4.2.1	BIOSメニュー画面	4-7
4.2.2	メニューバー	4-7
4.2.3	ナビゲーションキー	4-7
4.2.4	メニューアイテム	4-8
4.2.5	サブメニューアイテム	4-8
4.2.6	構成フィールド	4-8
4.2.7	ポップアップウィンドウ	4-8
4.2.8	スクロールバー	4-8
4.2.9	全般ヘルプ	4-8
4.3	メインメニュー	4-9
4.3.1	システムの時間[xx:xx:xxxx]	4-9
4.3.2	システムの日付 [日 xx/xx/xxxx]	4-9
4.3.3	古いタイプのディスク A [1.44M, 3.5 in.] ...	4-9
4.3.4	言語 [英語]	4-9
4.3.5	1次および2次IDE マスタ/スレーブ	4-10
4.3.6	IDE構成	4-11
4.3.7	システム情報	4-13
4.4	詳細メニュー	4-14
4.4.1	ジャンプフリー構成	4-14
4.4.2	CPU 構成	4-17
4.4.3	チップセット	4-17
4.4.4	オンボードデバイス構成	4-19
4.4.5	PCI PnP	4-21
4.4.6	USB 構成	4-22
4.4.7	スピーチ構成	4-24
4.4.8	インスタントミュージック構成	4-25
4.5	電源メニュー	4-26
4.5.1	サスペンドモード [Auto]	4-26
4.5.2	Video on S3 Resumeの再ポスト [No]	4-26
4.5.3	ACPI 2.0のサポート [No]	4-26
4.5.4	ACPI APIC のサポート [Enabled]	4-26
4.5.5	BIOS -> AML ACPI 表 [Enabled]	4-26

もくじ

4.5.6	APM 構成	4-27
4.5.7	ハードウェアモニタ	4-29
4.6	ブートメニュー	4-31
4.6.1	ブートデバイスのプライオリティ	4-31
4.6.2	ハードディスクドライブ	4-32
4.6.3	ブート設定構成	4-32
4.6.4	セキュリティ	4-34
4.7	メニューの終了	4-36
第 5 章: サポートソフトウェア		
5.1	OSのインストール	5-1
5.2	サポートCDについて	5-1
5.2.1	サポートCDの起動方法	5-1
5.2.2	ドライバメニュー	5-2
5.2.3	ユーティリティメニュー	5-3
5.2.4	ASUS サポート情報	5-4
5.2.5	その他の情報	5-5
5.3	ソフトウェア情報	5-7
5.3.1	ASUS Update	5-7
5.3.2	ASUS MyLogo2TM	5-8
5.3.3	ASUS PC Probe	5-10
5.3.4	ASUS インスタントミュージック	5-14
5.3.5	Winbond Voice Editor	5-17
5.3.6	SoundMAX® 4 XL ソフトウェア	5-21
5.4	RAID 0 / RAID 1 / RAID 0+1 / JBOD 構成	5-25
5.4.1	ハードディスクの取り付け	5-26
5.4.2	VIA® Tech RAID BIOS ユーティリティに入る ..	5-27
5.4.3	アレイの作成	5-28
5.4.4	アレイの削除	5-32
5.4.5	スペアの作成/削除	5-32
5.4.6	ブートアレイの選択	5-33
5.4.7	シリアル番号の表示	5-33
5.5	シリアルATA構成用のIntel® RAID	5-34
5.5.1	BIOS 構成	5-34
5.5.2	シリアルATA (SATA) ハードディスクを取り付ける	5-34
5.5.3	RAIDセットの作成、削除、再設定	5-35
5.5.4	RAID ボリュームの作成	5-35
5.5.5	RAID ボリュームの削除	5-36
5.5.6	RAID データのリセット	5-37
5.6	Makedisk.exeの使用	5-38
5.7	3Com® Virtual Cable Tester™(VCT) テクノロジ	5-39

クイックリファレンスカード

ご注意

Federal Communications Commission Statement

This device complies with FCC Rules Part 15. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with manufacturer's instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment to an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.



The use of shielded cables for connection of the monitor to the graphics card is required to assure compliance with FCC regulations. Changes or modifications to this unit not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate this equipment.

Canadian Department of Communications Statement

This digital apparatus does not exceed the Class B limits for radio noise emissions from digital apparatus set out in the Radio Interference Regulations of the Canadian Department of Communications.

This class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

安全上の注意

電氣的安全性について

- ・ 本製品について作業を行う場合は、感電防止のため、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品に周辺機器を接続する場合は、本製品および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。可能ならば、関係するすべての機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品にケーブルを接続する場合は、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 電源延長コードや特殊なアダプタを用いる場合は専門家に相談してください。これらは、短絡事故の原因になる場合があります。
- ・ 電源装置が故障していないか、正しい電圧を出力しているか確認してください。電源装置に異常がある場合は、電源装置のメーカーにご相談ください。
- ・ 電源装置は、ご自分で修理しようとししないでください。修理はメーカーまたは専門家に依頼してください。

操作上の注意

- ・ 作業を行う前に、本製品に付属しているすべてのマニュアル・ドキュメントをお読みください。
- ・ 電源を入れる前に、ケーブルの接続を確認してください。また電源コードに損傷がないことを確認してください。
- ・ マザーボード上にクリップやネジなどの金属を落とさないようにしてください。短絡事故の原因になります。
- ・ 埃・湿気・高低温を避けてください。湿気のある場所で本製品を使用しないでください。
- ・ 本製品は安定した場所に設置してください。
- ・ 本製品を修理する場合は、代理店などの専門家に依頼してください。

本ガイドについて

本書は、ASUS P4P800 マザーボードを使用する場合に必要な情報について説明したユーザーガイドです。

本ガイドの構成

本書は、以下の章から構成されています。

- ・ 第 1 章: はじめに
P4P800マザーボードの主な特徴について説明します。また、最新技術や特別仕様についての解説があります。
- ・ 第 2 章: ハードウェアセットアップ
システムを構築するために必要なハードウェア情報です。マザーボードのスイッチ・ジャンパ・コネクタについて詳しく説明します。
- ・ 第 3 章: 基本操作
電源の入れ方と切り方、および起動(POST)時のトラブル対処について説明します。
- ・ 第 4 章: BIOSセットアップ
BIOSセットアップを用いたマザーボードの設定方法を説明します。BIOSパラメータの詳しい解説があります。
- ・ 第 5 章: サポートソフトウェア
添付のサポートCDに収録されているソフトウェアの説明です。

本ガイドの表記について

本書では重要な注意事項について、以下の記号(アイコン)を用いています。表示内容をよく理解して必ずお守りください。



警告: 感電やけがなどの人身事故を防ぐために必ず守らないといけない注意事項です。



注意: 装置や部品の故障や破損を防ぐために必ず守らないといけない注意事項です。



重要: 作業を正しく完了するために必ず守らないといけない注意事項です。



注: 作業を正しく完了するために必要なヒントと情報です。

詳細情報

本書に記載できなかった最新の情報は以下で入手できます。また、BIOSや添付ソフトウェアの最新版があります。必要に応じてご利用ください。

1. ASUS ウェブサイト

ASUSのハードウェア・ソフトウェア製品に関する最新情報があります。各国や地域に対応したサイトがあります。URLは次ページを参照してください。

2. 追加ドキュメント

パッケージ内容によっては、追加のドキュメントが同梱されている場合があります。注意事項や代理店・販売店が追加した最新情報などです。これらは、本書がサポートする範囲には含まれていません。

ASUSサポート情報

ASUSTeK COMPUTER INC. (アジア・太平洋)

住所: 150 Li-Te Road, Peitou, Taipei, Taiwan 112
電話(代表): +886-2-2894-3447
Fax(代表): +886-2-2894-3449
Email(代表): info@asus.com.tw

テクニカルサポート

MB/その他 (電話): +886-2-2890-7121 (英語)
ノートPC (電話): +886-2-2890-7122 (英語)
デスクトップ/サーバー (電話): +886-2-2890-7123 (英語)
サポートFax: +886-2-2890-7698
Webサイト: www.asus.com

ASUS COMPUTER INTERNATIONAL (アメリカ)

住所: 44370 Nobel Drive, Fremont, CA 94538, USA
Fax(代表): +1-510-608-4555
Email(代表): tmd1@asus.com

テクニカルサポート

サポートFax: +1-502-933-8713
総合サポート: +1-502-995-0883
Webサイト: www.asus.com
サポートEmail: tsd@asus.com

ASUS COMPUTER GmbH (ドイツ・オーストリア)

住所: Harkortstr. 25, 40880 Ratingen, BRD, Germany
Email(代表): sales@asuscom.de (for marketing requests only)
Fax(代表): +49-2102-9599-31

テクニカルサポート

サポートホットライン: MB/その他: +49-2102-9599-0
サポートホットライン: ノートPC (電話): +49-2102-9599-10
サポート (Email): www.asuscom.de/kontakt (オンラインサポート)
Webサイト: www.asuscom.de
サポートFax: +49-2102-9599-11

P4P800 Deluxe 仕様のまとめ

CPU	最大3.06 GHzまでのIntel® Pentium® 4に対応したSocket 478 Intel® Hyper-スレッドテクノロジーのサポート Intel® Prescott CPUのサポート
チップセット	ノースブリッジ: Intel 82865PE サウスブリッジ: Intel ICH5R w/ RAID 0 のサポート
フロントサイドバス(FSB)	800/533/400 MHz
メモリ	4GBメモリまでの4 x 184ピンDDR DIMM Socket 最大4GBのバッファなしPC3200/2700/2100 非ECC DDR デュアルチャネルメモリアーキテクチャ
拡張カードスロット	1 x AGP 8X (1.5V のみ) 5 x PCI 1 x WiFiスロット
記憶装置	サウスブリッジ (ICH5R)によってサポート - 2 x UltraDMA100が4台のドライブをサポート - 2 x シリアル ATA (RAID 0機能付) VIA® 6410 RAID コントローラによってサポート - 2 x UltraDMA 133がRAID 0で4台のドライブをサポート、RAID 1, RAID 0+1 および RAID JBOD
IEEE 1394	VIA 6307 2 x IEEE 1394 ポート
AI オーディオ	ADI AD1985 6チャンネルオーディオ CODEC 1 x S/PDIF アウト
AI ネット	3COM 3C940 Gbit PCIコントローラ
AI BIOS	AI BIOSソリューション: ASUS CrashFree BIOS 2 ASUS Q-Fan Technology ASUS POST Reporter™
AIオーバークロック	インテリジェントなCPU周波数チューナー ASUS JumperFree 調節可能なCPU V _{CORE} 、メモリとAGP 電圧 100MHz から 400MHzまで1MHz刻みで、 SFS (ステップレス周波数選択) C.P.R. (CPU パラメータリコール)
特殊機能	ASUS POST Reporter ASUS MyLogo 2 インスタントミュージック ASUS EZ Flash 多言語 BIOS

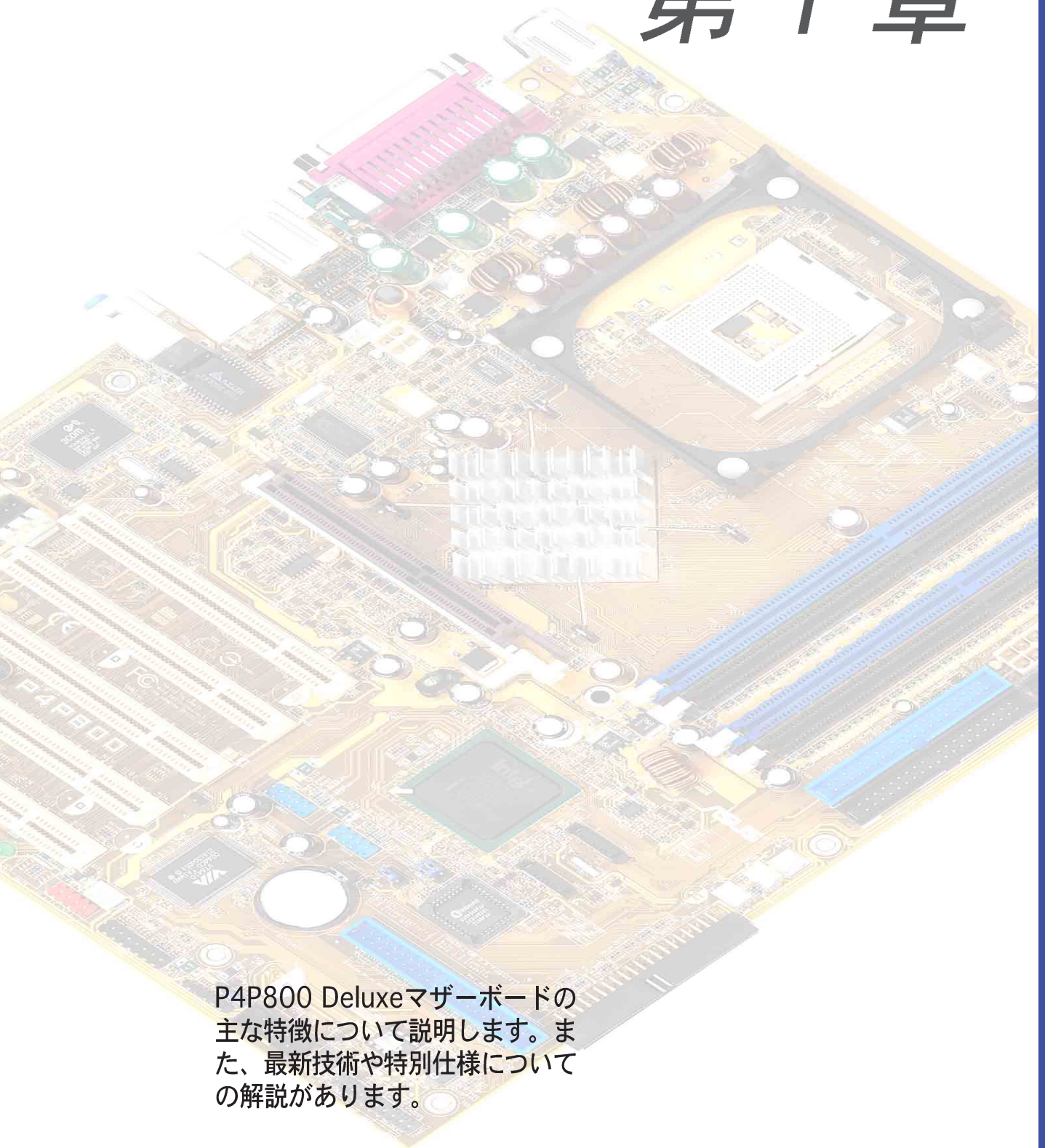
(次ページに続く)

P4P800 Deluxe 仕様のまとめ

背面 I/O パネル	1 x パラレルポート 1 x シリアルポート 1 x PS/2 キーボードポート 1 x PS/2 マウスポート 4 x USB 2.0/USB 1.1 ポート 1 x RJ-45 ポート (オプション) 1 x S/PDIFアウトポート 1 x IEEE 1394 ポート ラインイン/ラインアウト/マイクポート
内部 I/O	4つの追加USBポート用[2 x USB 2.0/1.1 コネクタ CPU/シャーシ/電源ファンコネクタ 20ピン/4ピン ATX 12V 電源コネクタ シャーシ侵入 1 x IEEE 1394 コネクタ GAME コネクタ S/PDIF アウトコネクタ CD/AUX/モデムオーディオコネクタ フロントパネルオーディオコネクタ
BIOS 機能	4Mb Flash ROM, AMI BIOS, PnP, DMI2.0, ACPI, SM BIOS2.3, CrashFree BIOS 2, 多言語 BIOS, ASUS EZ Flash, ASUS MyLogo2, ASUS インスタントミュージック
工業規準	PCI 2.3, USB 2.0, PCI 2.2
管理可能性	DMI 2.0, WOL/WOR by PME, WO_USB, WO_KB/MS, シャーシ侵入
フォームファクタ	ATX フォームファクタ: 12 in x 9.6 in
サポート CDの内容	デバイスドライバ ASUS PC プローブ ASUS Live更新 Trend Micro™ PC-cillin 2002 ウィルス除去ソフトウェア

* 仕様は、将来予告なしに変更することがあります。

第1章



P4P800 Deluxeマザーボードの
主な特徴について説明します。また、
最新技術や特別仕様についての
解説があります。

はじめに

本章の内容

1.1 ようこそ!	1-1
1.2 梱包の内容	1-1
1.3 特殊機能	1-2
1.4 マザーボードの概要	1-7

1.1 ようこそ!

ASUS® P4P800 Deluxe マザーボードをお買い上げいただきありがとうございます!

ASUS P4P800 Deluxe マザーボードはホストに新機能と最新テクノロジーを提供して、ASUSの高品質マザーボードの長い製品ラインにもう一つの標準を作り上げました!

本マザーボードはIntel® 82865PEとICH5Rチップセットを搭載した478ピンパッケージにIntel® Pentium® 4プロセッサを組み込んで最速の800MHz FSBをサポートしながら新しいベンチマークを設定して、効率的なデスクトッププラットフォームのソリューションとなっています。

PC3200/2700/2100 DDR SDRAMを搭載した4GBまでのシステムメモリ、AGP 8Xスロットを介した高解像度グラフィックス、シリアルATAのサポート、RAID、IEEE 1394、USB 2.0、および6チャンネルオーディオ機能をサポートするP4P800 Deluxeは、パワーコンピューティングの世界で前進するための完璧な手段となっています!

マザーボードの取り付け、およびマザーボードにハードウェアデバイスの取り付けを開始する前に、下に一覧する付属品が梱包にあるかチェックしてください。

1.2 梱包の内容

P4P800 Deluxeの梱包に、次の付属品があるかチェックしてください。

- ✓ ASUS P4P800 Deluxe マザーボード
- ✓ ASUSサポート CD
- ✓ 2 x SATA ケーブル
- ✓ UltraDMA/66/100 IDEドライブ用80コンダクタリボンケーブル
- ✓ 40コンダクタIDE ケーブル
- ✓ 3.5フロッピードライブ用リボンケーブル
- ✓ I/O シールド
- ✓ 予備ジャンパキャップの袋
- ✓ ユーザーガイド
- ✓ 参照カード (ユーザーガイドの最後のページ)
- ✓ クイックセットアップガイド (小売ボックスのみ)
- ✓ ジャンパとコネクタスティッカ (小売ボックスのみ)
- ✓ WinDVD Suite ソフトウェア
- ✓ インスタントミュージックキーボードラベル (小売ボックスのみ)



付属品が足りないときや破損しているときは、販売店にご連絡ください。

1.3 特殊機能

1.3.1 製品のハイライト

最新のプロセッサ テクノロジ

本マザーボードは478ピンサーフェスマウントZIFソケットを介して、最新のIntel® Pentium® 4プロセッサをサポートします。512KB L2キャッシュを搭載したPentium 4プロセッサは、800/533/400 MHzシステムバスを組み込んで、Intelハイパースレッドテクノロジーとニューパワー設計を採用しながら、3.2+GHzまでのコア周波数を可能にしています。詳細は2-4ページをご覧ください。

本マザーボードは次世代のIntel Prescott CPUが発売された暁には、このCPUもサポートします。

デュアルチャネルDDRメモリのサポート

デュアルチャネルDDRメモリアーキテクチャを採用したこのマザーボードは、システムメモリのバンド幅を2倍にするソリューションを実現して、システム性能を高めています。また、PC3200/2700/2100 ECCまたは非ECC DDR DIMMを使用して4GBまでのシステムメモリをサポートしながら、最新の3Dグラフィックスやマルチメディア、インターネットアプリケーションに対して最大6.4GB/秒のデータ転送速度を提供します。2-10ページをご覧ください。

シリアル ATAソリューション、RAID 0 サポート

マザーボードは、パラレルATA記憶装置インターフェイスの革新的な後継インターフェイスである、シリアルATA (SATA)仕様に準拠する2つのインターフェイスをサポートします。シリアルATA仕様により、低いピンカウント、低減された電圧要求、最大150 MB/秒のデータ転送速度を持つ、薄くて柔軟性に富むケーブルが可能になります。SATAをサポートする内蔵のIntel® ICH5Rコントローラをオンボードで搭載した本マザーボードは、SATAドライブを使用してRAID 0構成をサポートします。

AIネットソリューション

3Com® 3C940 Gigabit PCI LAN コントローラチップセットはボード上に搭載されて、LANオンマザーボード(LOM)アプリケーション用のシングルチップソリューションを実現しています。3C940コントローラは32ビット10/100/1000BASE-T Gigabitイーサネットメディアアクセスコントロール (IEEE 802.3準拠)と物理層トランシーバソリューションを統合して、高性能ネットワークアプリケーションをサポートします。コントローラはネット診断ユーティリティ、VCT (仮想ケーブルテスター)を組み込んで、100メートルまでの離れた場所からケーブル障害をインテリジェントに診断し報告します。この機能により、安定したネットワーク接続を簡単に維持することができます。

AGP 8X のサポート

本マザーボードは最新のグラフィックアーキテクチャ、AGP 8X インターフェイス(a.k.a. AGP 3.0)をサポートして、旧タイプのAGP 4Xの2倍にあたる2.1GB/秒のバンド幅を提供しています。

AI オーディオソリューション

SoundMAX-class ADI AD1985 AC '97オーディオCODECは6チャンネル5.1サラウンドサウンド出力、ステレオマイク入力、可変サンプルレート変換(SRC)、94-dB SNRを持つプロ品質の103-dB出力、およびアナログ列挙法機能をサポートします。SoundMAX 4 XLソフトウェアはAudioESPTM (Audio Enumeration and Sensing Process)を採用して、オーディオポートに差し込まれた周辺装置をインテリジェントに検出し、互換性のないデバイスがあればそれを識別できるようにします。

AI BIOS ソリューション

AI BIOSは、次のASUSの3つのインテリジェントなソリューションを組み合わせたものです: CrashFree BIOS2、Q-Fan、POST Reporter。

デュアルチャネルUltraATA 133 RAID サポート

このマザーボードは高性能VIA® VT6410 IDE RAIDコントローラを組み込んで、RAID 0、RAID 1、RAID 0+1、JBODをサポートし、バランスの取れたハードディスク性能とデータ保護を実現しています。

IEEE 1394 のサポート

ボード上のIEEE 1394インターフェイスは、IEEE 1394aに準拠する幅広い範囲の周辺装置やデバイスに、高速かつ柔軟性に富むPC接続性を提供しています。IEEE 1394により、コンピュータ、周辺装置、ビデオカメラ、VCR、プリンタ、TV、デジタルカメラなどの家庭用電化製品の間でインターフェイスを取る、簡単で、低コスト、高いバンド幅の非同期（リアルタイム）データを通して400Mbpsまでの転送速度を可能にします。2-32ページをご覧ください。

USB 2.0 テクノロジー

本マザーボードはユニバーサルシリアルバス(USB) 2.0仕様を実装して、USB 1.1の12 Mbpsのバンド幅からUSB 2.0の高速480 Mbpsまで、接続速度を劇的に上げています。USB 2.0はUSB 1.1と下位互換性を持っています。2-30をご覧ください。

C.P.R. (CPU パラメータリコール)

マザーボードのC.P.R.機能により、オーバークロックのためにシステムがハングアップした場合、BIOSのデフォルト設定を自動的に再設定することができます。オーバークロックのためにシステムがハングアップしたとき、C.P.R.はシステムシャーシを開かずにRTCデータを消去します。システムをシャットダウンして再ブートすると、BIOSはそれぞれのパラメータに対するBIOSデフォルト設定を自動的に復元します。

ASUS POST Reporter™

本マザーボードはASUS POST Reporter™ と呼ばれる新しいエキサイティングな機能を提供し、パワーオンセルフテスト(POST)の間に親しみやすい音声メッセージと警告を出して、システムのブートステータスとブートエラーがあればその原因を通知します。バンドリングされたWinbond Voice Editorソフトウェアにより、異なる言語で音声メッセージをカスタマイズすることができます。

ASUS MyLogo2™

マザーボードに搭載されたこの新機能により、カスタマイズ可能なブートロゴでシステムに自分のスタイルを追加することができます。5-8ページをご覧ください。

ASUS 多言語BIOS

多言語BIOSにより、利用可能なオプションから希望する言語を選択できます。ローカライズされたBIOSメニューでは、簡単かつ素早く構成することを可能にしています。サポートされる言語については、ASUSのWebサイトにアクセスしてください。

ASUS EZ Flash BIOS

ASUS EZ Flashを使うと、オペレーティングシステムをロードする前でもシステムBIOSを簡単に更新できます。DOSベースのユーティリティやフロッピーディスクからブートする必要はありません。

ASUS Qファンテクノロジー



ASUS Qファンテクノロジーはシステムローディングに従ってファン速度をスマートに調節し、静かで、熱を発生させない、効率的な操作を確保します。

CrashFree BIOS 2



この機能により、BIOSコードやデータが破損したとき、サポートCDやブート可能なフロッピーディスクからオリジナルのBIOSデータを復元することが可能になります。この保護により、交換用のROMチップを買う必要がなくなります。4-4ページをご覧ください。

ASUS J-Panel



このオプションのデバイスは、ASUSマザーボード用に設計されており、フロントI/Oコネクタを追加できるように、USB、S/PDIF、またはIntelフロントパネルオーディオコネクタを装備しています。

ASUS インスタントミュージック



この独特な機能により、オペレーティングシステムに入らなくてもオーディオファイルを再生することができます。ASUSインスタントミュージックの特殊機能キーを押すだけで、音楽をお楽しみいただけます!

1.3.2 付加価値ソリューション

柔軟なクロック設定

- ・ ASUS JumperFree™ 機能により、BIOSでクロック設定が可能です。
- ・ C.P.R. (CPUパラメータリコール)機能搭載。
- ・ CPUの V_{CORE} 電圧、DDRメモリ電圧、AGP電圧を変更することができます。
- ・ Stepless Frequency Selection (SFS) により、システムクロックを 100MHz から 400MHz まで 1MHz 単位で設定できます。

温度、ファン、電圧の監視

CPU 温度は過熱と損傷を防ぐために、ASIC (Winbond Super I/O内に統合)によって監視されます。毎分のシステムファン回転(RPM)は障害を検出するために適時監視されます。システムの電圧レベルは、重要なコンポーネントに対し電流の安定供給を確保するために監視されます。

シャージ侵入検出

マザーボードはWinbond ASIC. Aを通して、シャージ侵入監視をサポートします。シャージ侵入イベントは保護を強化するためにCMOSに記憶されます。

ASUS 更新

このユーティリティにより、使い勝手のよいインターフェイスを通してマザーボードBIOSを更新できます。インターネットに接続したら最寄りのASUS FTPサイトにアクセスして、マザーボード用の最新BIOSバージョンを入手してください。

1.4 マザーボードの概要

マザーボードを取付ける前に、物理構成と利用可能な機能に精通しておく
と、マザーボードの取り付けと将来のアップグレードが容易になります。
マザーボード仕様に対する十分な知識があれば、ボードとそのコンポーネ
ントを損傷する恐れのあるミスを避けることができます。

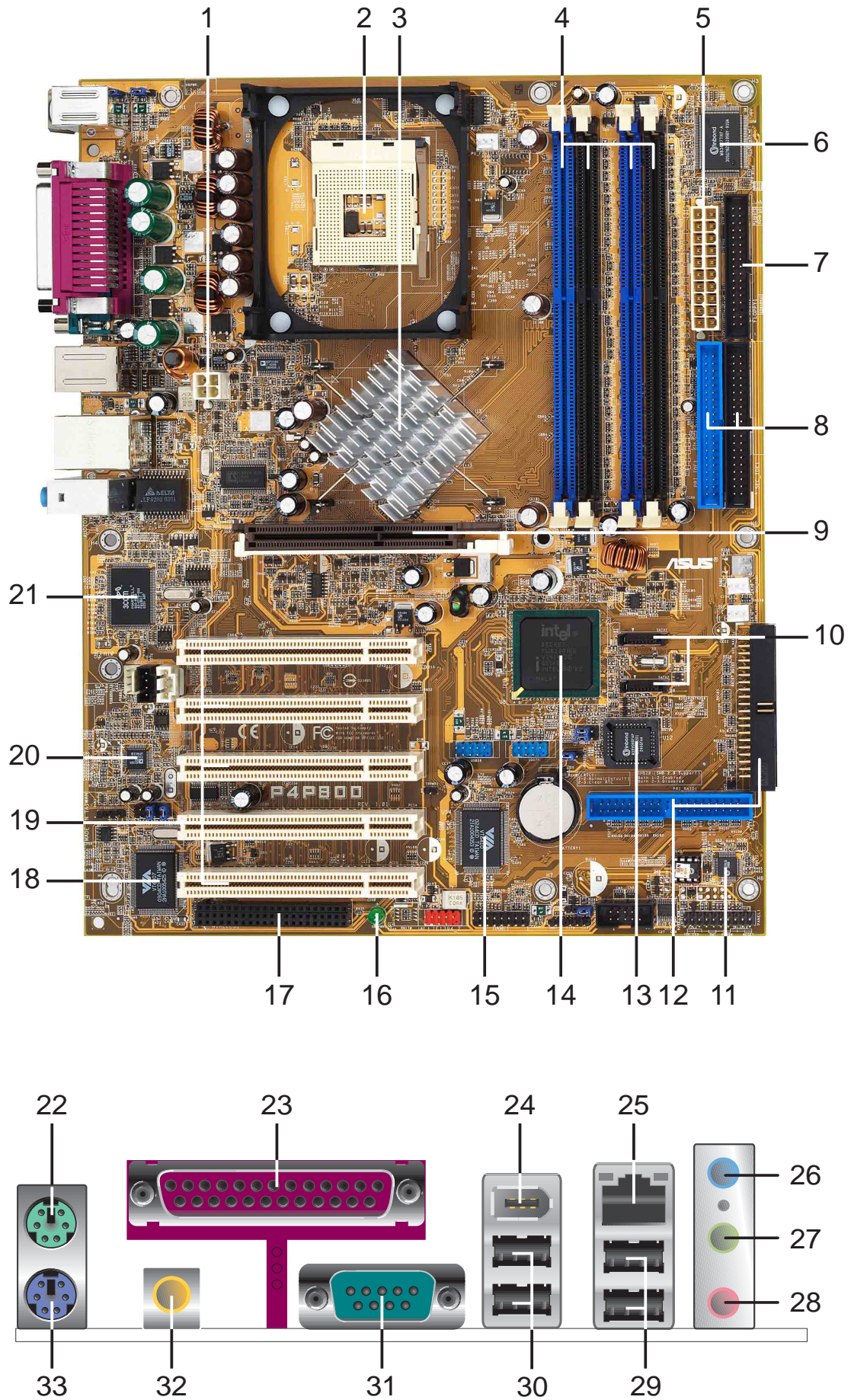
1.4.1 主なコンポーネント

次は、1-7ページの図で指摘した、P4P800 Deluxeマザーボードの主なコ
ンポーネントです。

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. ATX12V電源コネクタ | 18. IEEE 1394コントローラ |
| 2. CPUソケット | 19. PCIスロット |
| 3. ノースブリッジコントローラ | 20. オーディオCODEC |
| 4. DDR DIMM ソケット | 21. Gigabit LANコントローラ |
| 5. ATX電源コネクタ | 22. PS/2マウスポート |
| 6. Super I/Oコントローラ | 23. パラレルポート |
| 7. フロッピーディスクコネクタ | 24. IEEE 1394ポート |
| 8. IDEコネクタ | 25. RJ-45ポート |
| 9. AGPスロット | 26. ラインインジャック |
| 10. SATAコネクタ | 27. ラインアウトジャック |
| 11. スピーチコントローラ | 28. マイクジャック |
| 12. RAIDコネクタ | 29. USB 2.0ポート3および4 |
| 13. フラッシュROM | 30. USB 2.0ポート1および2 |
| 14. サウスブリッジコントローラ | 31. シリアルポート |
| 15. ATA133 RAIDコントローラ | 32. S/PDIFアウトポート |
| 16. スタンバイ電源LED | 33. キーボードポート |
| 17. Wi-Fiスロット | |



各コンポーネントの仕様については1-8ページをご覧ください。コン
ポーネントの詳細については、第2章を参照してください。



1.4.2 コア仕様

- 1** ATX12V電源コネクタ。この電源コネクタは、ATX 12V 電源装置から出る4ピン12Vプラグを接続します。
- 2** CPU ソケット。A 478ピンサーフェスマウント。それぞれ6.4GB/秒、4.3GB/秒、and 3.2GB/秒のデータ転送速度を可能にする、800/533 /400MHz システムバスを搭載したIntel® Pentium® 4プロセッサ用ゼロインサージョンフォース (ZIF)ソケット。Intel Prescott CPUが発表された時点には、ソケットはこのCPUをサポートします。
- 3** ノースブリッジコントローラ。Intel® 82865PE メモリコントローラ Hub(MCH)はCPUインターフェイス、DDRインターフェイス、AGPインターフェイス、Hubインターフェイスを提供します。MCHはこれらのインターフェイス間で情報の流れを管理します。Intel® Pentium 4/Celeronプロセッサで使用するよう設計されたMCHは、800/533/400 MHz周波数を持つプロセッサインターフェイス、デュアルチャネルモードで最大6.4GB/秒のバンド幅を持つシステムメモリアインターフェイス、8X Fast Writeプロトコルをサポートする1.5V AGPインターフェイス仕様3.0を提供します。
- 4** DDR DIMM ソケット。これらの4つの184ピンDIMM ソケットは、バッファなしECCまたは非ECC PC3200/PC2700/PC2100 DDR DIMMを使用して、最大4GBのシステムメモリをサポートします。
- 5** ATX 電源コネクタ。この20ピンコネクタはATX 12V 電源装置に接続します。電源装置は+5V スタンバイリード(+5VSB)上に少なくとも1Aがなければなりません。
- 6** Super I/O コントローラ。このWinbond 83627THF Low Pin Count (LPC)インターフェイスは、広く使用されているSuper I/O機能を提供します。チップセットは360K/720K/1.44M/2.88M フロッピーディスクドライブ、マルチモードパラレルポート、2つの標準互換UART、フラッシュROMインターフェイスに対して、高性能フロッピーディスクコントローラをサポートします。このコントローラは、PCヘルスマonitoringに対してASICを統合します。
- 7** フロッピーディスクコネクタ。このコネクタは、フロッピーディスクドライブ用に付属のリボンケーブルを提供しています。コネクタの片側には、フロッピーディスクケーブルを間違えて差し込むことがないように溝が刻んであります。
- 8** IDE コネクタ。これらのデュアルチャネルバスマスタIDEコネクタウルトラ DMA/100/66、PIO モード3 & 4 IDE デバイスをサポートします。1次 (青) および2次 (黒) コネクタにはどちらも、IDEリボンケーブルを間違えて挿入しないように溝が刻んであります。
- 9** AGP スロット。このアクセラレーテッドグラフィックスポート (AGP) スロットは、3Dグラフィカルアプリケーション用に1.5V AGP 8X モードのグラフィックスカードをサポートし、最大2.1GB/秒のバンド幅を提供します。
- 10** SATAコネクタ。これらの2つの7ピンコネクタは、シリアルATAデバイス用の薄いケーブルに対応しています。
- 11** スピーチコントローラ。このWinbond 83791S + W55F10 スピーチコントローラは、構成可能なボイカルPOST警告に対して、ASUS POST Reporter™をサポートします。

- 12 RAIDコネクタ。2チャンネルのUltra DMA/133 ハードディスクドライバ RAID 0/RAID 1/RAID 0+1/JBOD を構築可能です。
- 13 フラッシュROM。この4Mbファームウェアハブ(FWH)には、プログラム可能なBIOS プログラムが含まれています。
- 14 サウスブリッジコントローラ。第5世代のIntel I/O コントローラハブ(ICH5R)はサブシステムで、2チャンネルのATA/100バスマスタIDE コントローラ、最大8つのUSB 2.0/1.1ポート、I/O APIC, LPC インターフェイス、AC' 97 2.2インターフェイス、PCI 2.2インターフェイスなど、さまざまなI/O 機能を統合しています。ICH5R には、これらのインターフェイスを有効に利用するために必要なアービトレーションとバッファリングも含まれています。
- 15 ATA133 RAIDコントローラ コントローラ。VIA® VT6410 IDE RAID コントローラは高性能RAID 0、RAID 1、RAID 0+1、JBOD RAID方式を提供します。
- 16 スタンバイ電源LED。このLEDは、マザーボードにスタンバイ電源が供給されていれば点灯します。このLED は、装置にプラグを差し込んだり装置からプラグを抜く前に、システム電源をオフにするように注意を促すものとして機能します。
- 17 Wi-Fi スロット。Wi-Fi (ワイヤレスフィデリティ)スロットは、ワイヤレスネットワーキングに対してWi-Fi装置を接続し、2.4 GHzバンドで11Mbpsの転送 (5.5、2、1 Mbpsにフォールバック) を可能にします。Wi-FiネットワークはIEEE 802.11b (以降)として知られる無線テクノロジーを使用して、高速で信頼性の高いワイヤレス接続を提供します。
- 18 IEEE 1394 コントローラ。VIA® VT6307コントローラチップセットは、2つの低電源IEEE 1394コネクタをサポートし、1394デバイス間で100Mbps、200Mbps、400Mbpsのデータ転送を可能にします。
- 19 PCI スロット。これらの5つの32ビットPCI 2.2拡張スロットは、133MB/秒の最大スループットを持つSCSIやLANカードのような、バスマスタPCIカードをサポートします。
- 20 オーディオCODEC。AD1985 AC' 97 2.3ステレオオーディオ CODECは6チャンネルオーディオ機能を提供します。CODECはサラウンドサウンド出力、可変サンプルレート変換、アナログ列挙法機能、およびその他の主要なオーディオテクノロジーをサポートして、完全に統合されたオーディオソリューションを実現します。
- 21 LAN コントローラ。3Com® 3C940 Gigabit PCI LANコントローラは単一チップソリューション、またはLAN オンマザーボード (LOM) およびネットワークインターフェイスカード (NIC) アプリケーションです。コントローラは32ビットインターフェイスを提供し、1000/100/10 Mbpsのデータ転送速度をサポートします。
- 22 PS/2 マウスポート。この緑色の6ピンコネクタはPS/2マウス用です。

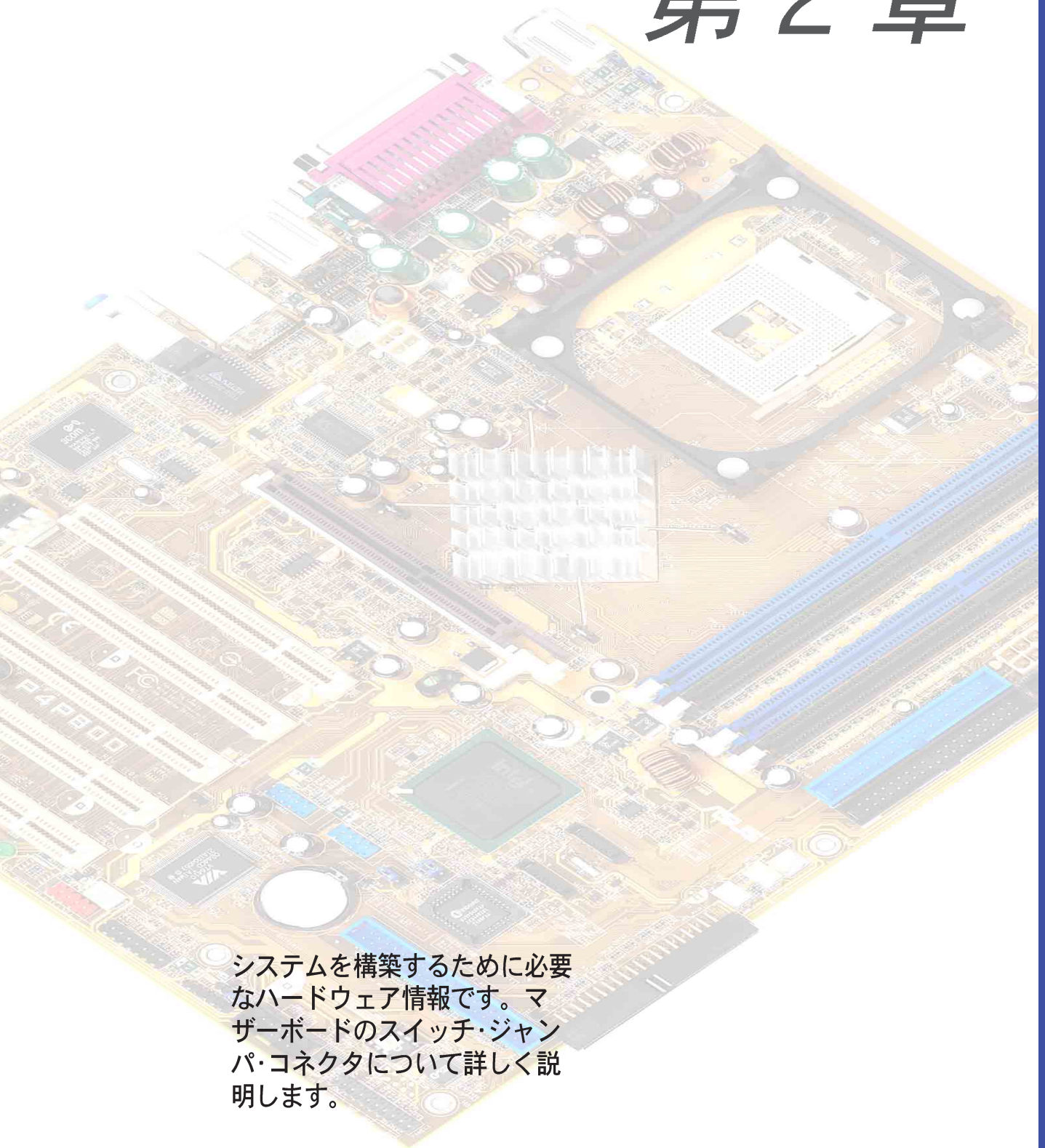
- 23** パラレルポート。この25ピンポートはパラレルプリンタ、スキャナ、またはその他のデバイスを接続します。
- 24** IEEE 1394 ポート。この6ピンポートはビデオカメラ、VCR、プリンタ、デジタルカメラのようなIEEE 1394準拠デバイスを接続します。
- 25** RJ-45 ポート。このポートにより、ネットワークハブを通して構内通信網(LAN)に接続できます。
- 26** ラインインジャック。このラインイン (ライトブルー) ジャックは、テーププレーヤーまたはその他のオーディオソースに接続されます。6チャンネルモードで、このジャックの機能はリアスピーカーアウトになります。
- 27** ラインアウトジャック。このラインアウト (ライム色) ジャックはヘッドフォンまたはスピーカーを接続します。6チャンネルモードで、このジャックの機能はフロントスピーカーアウトになります。
- 28** マイクジャック。このMic (ピンク色) ジャックはマイクを接続します。6チャンネルモードで、このジャックの機能は低音/センターになります。

リアパネルオーディオポート機能のバリエーション

	ヘッドフォン/ 2スピーカー	4スピーカー	6スピーカー
ライトブルー	ラインイン	リアスピーカーアウト	低音/センター
ライム	ラインアウト	フロントスピーカ ーアウト	フロントス ピーカーアウト
ピンク	Micイン	Micイン	リアスピーカーアウト

- 29** USB 2.0ポート 3 および 4。これらの4ピンユニバーサルシリアル(USB)ポートは、USB 2.0デバイスを接続するために利用できます。
- 30** USB 2.0 ポート 1 および 2。これらの4ピンユニバーサルシリアルバス(USB)ポートは、USB 2.0デバイスを接続するために利用できます。
- 31** シリアルポート。この9ピンCOM1ポートはポインティングデバイスまたはその他のシリアルデバイス用です。
- 32** S/PDIFアウトポート。このコネクタはS/PDIFデバイスをサポートし、5.1チャンネルサラウンドサウンドと3D オーディオを提供します。
- 33** PS/2キーボードポート。この紫色のコネクタはPS/2キーボード用です。

第2章



システムを構築するために必要なハードウェア情報です。マザーボードのスイッチ・ジャンパ・コネクタについて詳しく説明します。

ハードウェアセットアップ

本章の内容

2.1	マザーボードの取り付け	2-1
2.2	マザーボードのレイアウト	2-2
2.3	続行する前に	2-3
2.4	中央処理装置(CPU)	2-4
2.5	システムメモリ	2-10
2.6	拡張スロット	2-15
2.7	ジャンパ	2-20
2.8	コネクタ	2-23

2.1 マザーボードの取り付け

マザーボードを取付ける前に、シャーシの構成を調べてマザーボードがシャーシにフィットするかどうかを確認してください。マザーボードは、ATXフォームファクタを使用し、12 inches x 9.6 inchesを測定します。



マザーボードの取り付けまたは取り外しを行う前に、必ず電源コードを抜いてください。そうしないと、負傷したりマザーボードコンポーネントが損傷することがあります。

2.1.1 配置方向

マザーボードを取付けるとき、マザーボードがシャーシに正しい向きで配置されていることを確認してください。外部ポートのあるエッジは、下の図に示すようにシャーシの背面にあります。

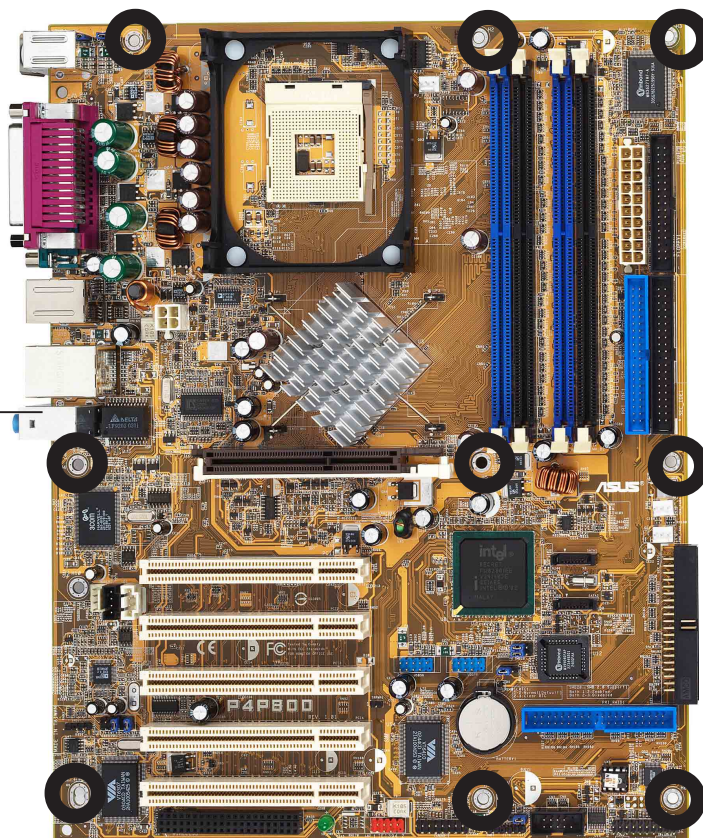
2.1.2 ネジ穴

9本のネジを円で示された穴に取り付け、マザーボードをシャーシに固定します。

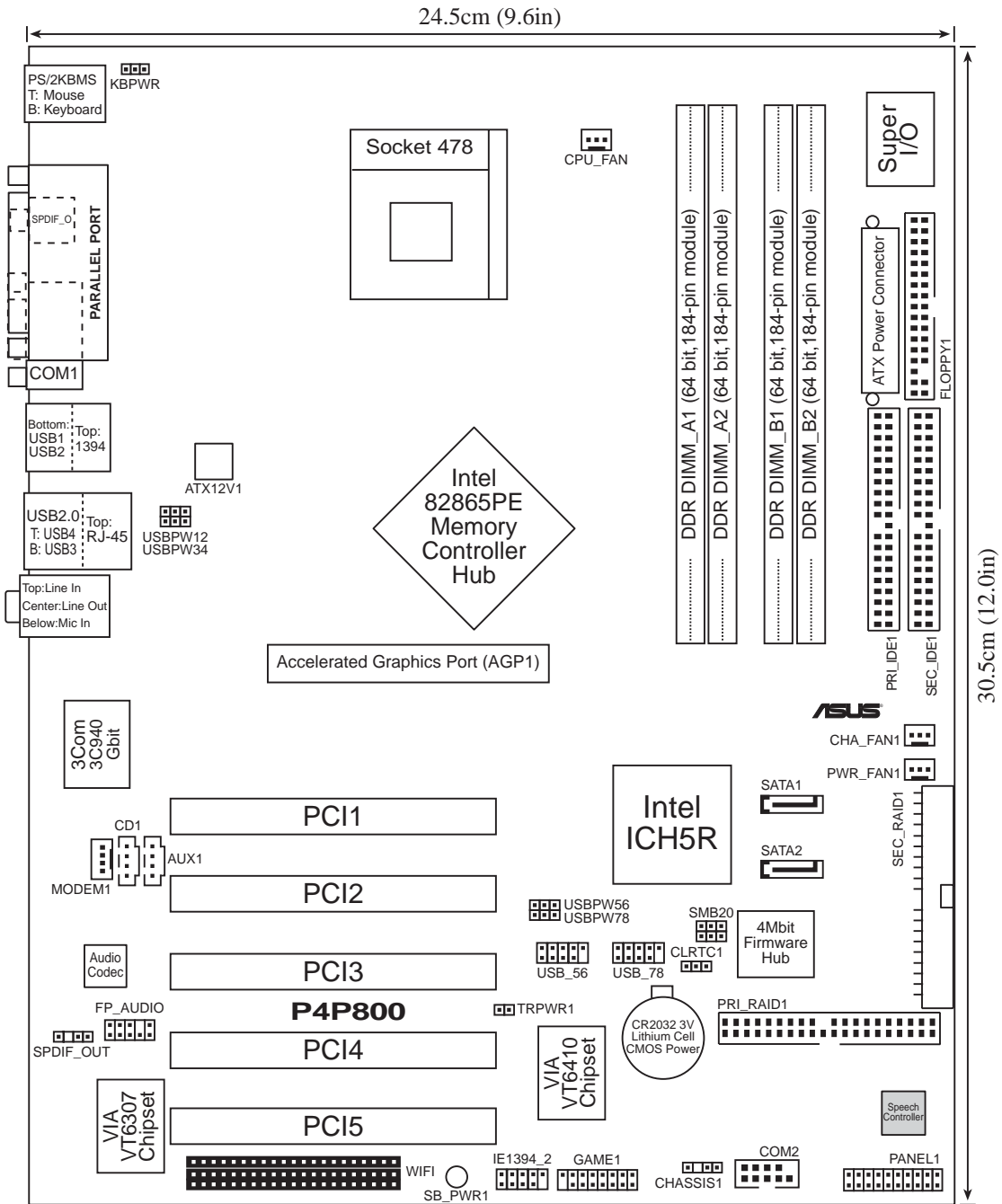


ネジをきつく締めすぎないでください! マザーボードが損傷する原因となります。

この面をシャーシ背面に向けて置いてください。



2.2 マザーボードのレイアウト



2.3 続行する前に

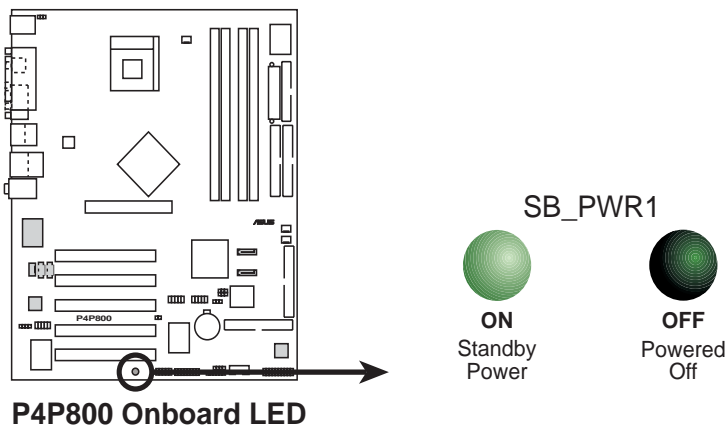
マザーボードコンポーネントを取付ける前に、またはマザーボード設定を変更する前に、次の注意事項を守ってください。



1. コンポーネントに触れる前に、コンセントから電源コードを抜く。
2. コンポーネントを取り扱う前は、静電気で損傷しないように、アースされたリストバンドを使用するか、安全にアースされた物体または電源装置のケースなどの金属物体に触れる。
3. ICに触れないように、コンポーネントを持つときは端をつかむ。
4. コンポーネントを取り外すときは、必ずアースされた静電気防止パッドの上に置くか、またはコンポーネントに付属する袋の中に入れる。
5. コンポーネントの取り付け/取り外しを行う前に、ATX電源装置の電源がオフになっていることを、または電源コードが電源装置から抜いてあることを確認する。そうしないと、マザーボードや周辺装置、コンポーネントなどが損傷する原因となります。



緑色のLED(SB_PWR)が点灯していると、システムはオン、スリープモード、またはソフトオフモードのいずれかになっており、マザーボードコンポーネントを取り外したりプラグを抜く前に、必ずシステムをシャットダウンし電源ケーブルを抜く必要があります。

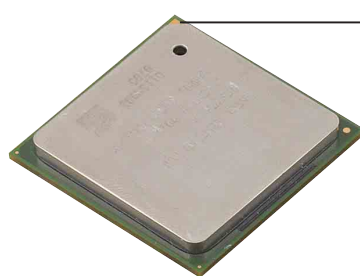


2.4 中央処理装置(CPU)

2.4.1 概要

マザーボードには、サーフェスマウント478ピンゼロインサクションフォース (ZIF)ソケットが付属しています。ソケットは512KB L2キャッシュを搭載した478ピンパッケージのIntel® Pentium® 4プロセッサ用に設計されています。Pentium 4プロセッサはIntel® NetBurst™ マイクロアーキテクチャ、ハイパースレッドテクノロジー、800/533/400MHzのシステムバスを採用しています。これらの属性を組み合わせると、高いコア周波数、整数命令の高速実行、6.4GB/秒までのデータ転送速度が可能になって、システムパフォーマンスが向上します。Intel Prescott CPU が発表された暁には、ソケットはこのCPU もサポートします。

図に示すように、CPUには隅に金色の三角形のマークがあることに注意してください。このマークは、プロセッサのピン1がCPU ソケットの特定の隅にぴったり合う必要があることを示しています。



金色のマーク

Intel® ハイパースレッドテクノロジーに関する注意



1. マザーボードは、ハイパースレッドテクノロジーを搭載した Intel Pentium 4 CPUをサポートします。
2. ハイパースレッドテクノロジーは、Windows XPおよびLinux 2.4.x (kernel)以降のバージョンの元でのみサポートされています。Linuxの元では、ハイパースレッドコンパイラを使ってコードをコンパイルしています。他のオペレーティングシステムを使用している場合、BIOSでハイパースレッドテクノロジーアイテムを無効にして、システムの安定性と性能を確保してください。
3. WinXP Service Pack 1をインストールすることをお勧めします。
4. サポートされているオペレーティングシステムをインストールする前に、BIOSでハイパースレッドテクノロジーアイテムを有効にしているか確認してください。
5. ハイパースレッドテクノロジーに関する詳細については www.intel.com/info/hyperthreading にアクセスしてください。

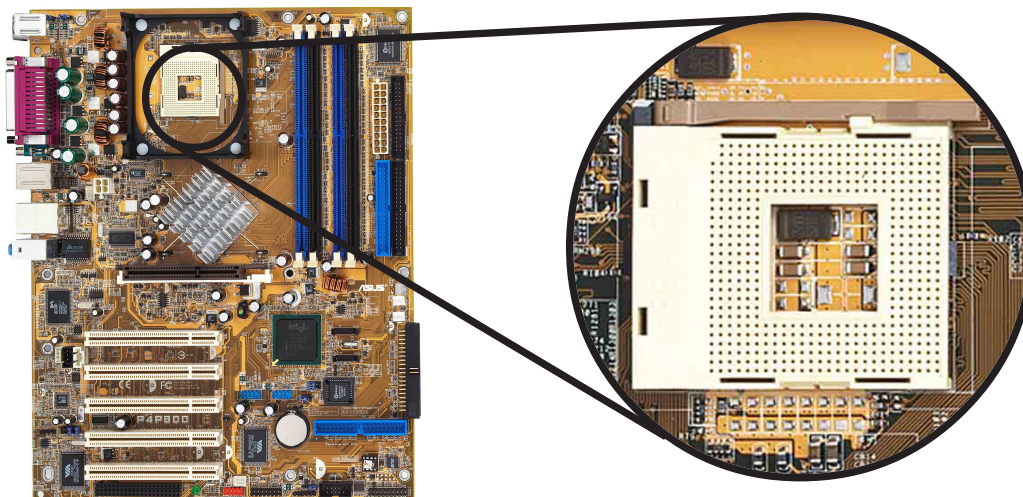
本マザーボードで、ハイパースレッドテクノロジーを使用する方法。

1. ハイパースレッドテクノロジーをサポートするIntel Pentium 4 CPU を購入します。そのCPUを取付けます。
2. システムの電源をオフにし、BIOSセットアップに入ります (第4章をご覧ください)。詳細メニューで、ハイパースレッドテクノロジーアイテムが有効に設定されていることを確認します。アイテムは、ハイパースレッドテクノロジーをサポートするCPUを取り付けている場合のみ、表示されます。
3. コンピュータをリブートします。

2.4.2 CPUを取り付ける

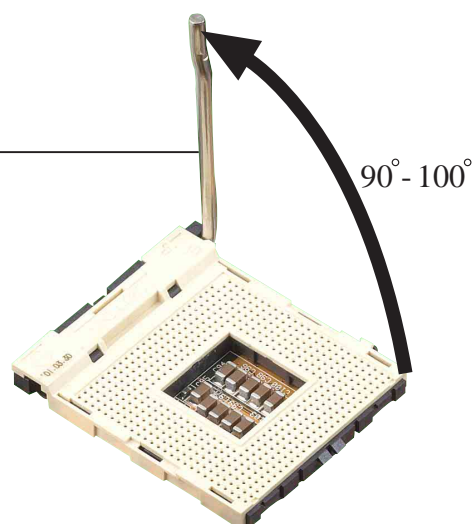
次の手順に従って、CPUを取付けます。

1. マザーボードで、478ピンZIFソケットを探します。



2. レバーを横側に押し、ソケットのロックを解除し、90°-100°の角度まで持ち上げます。

ソケットレバー

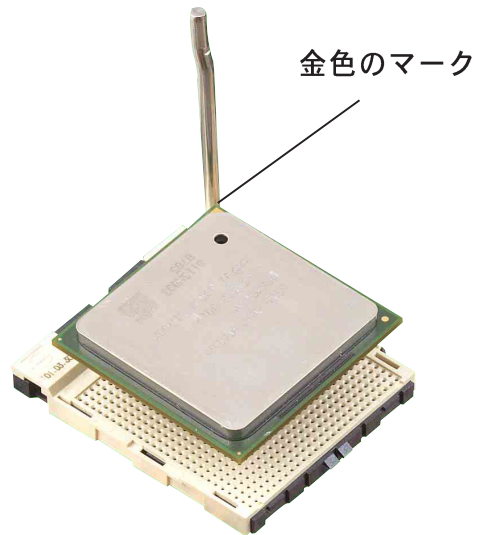


ソケットレバーが90°-100°の角度に持ち上げられていることを確認してください。そうでないと、CPUは完全にフィットしません。



CPUをソケットに間違って取り付けると、ピンが曲がりCPUがひどく損傷する原因となります!

3. CPUを、そのマークが付いたコーナーがソケットレバーの台に一致するように、ソケットの上に配置します。
4. CPUが適切な位置にフィットするまで、ソケットにそっと差し込みます。



CPUは1つの方向にしか正しくフィットしません。CPUをソケットに差し込むときに無理に力を入れないでください。ピンが曲がったり、CPUが損傷する原因となります。

5. CPUを適切な場所に取り付けたら、ソケットレバーを押し下げてCPUを固定します。レバーがサイドタブでカチッと鳴ると、ロックされたことを示します。



2.4.3 ヒートシンクとファンを取り付ける

Intel® Pentium® 4プロセッサは、最適の熱状態と性能を確実にするには、特別に設計されたヒートシンクとファンアセンブリを必要とします。



箱入りIntel Pentium 4プロセッサをお求めになると、梱包にはヒートシンク、ファン、リテンションメカニズムが含まれています。

CPUを単体でお求めになる場合、Intel公認のヒートシンクとファンのみを使用していることを確認してください。

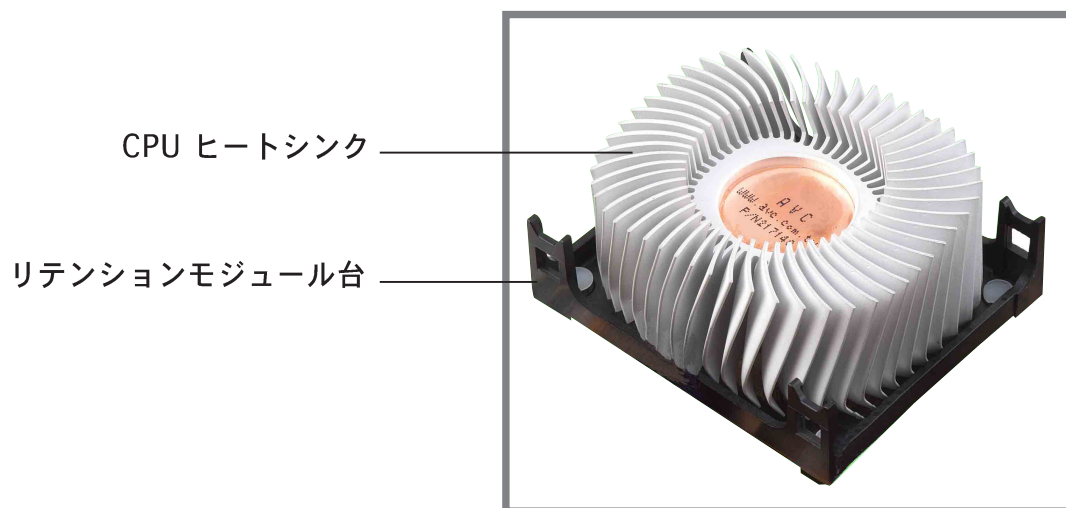
以下の手順に従って、CPUヒートシンクとファンを取り付けてください。

1. 取り付けたCPUの上部に、ヒートシンクがリテンションモジュール台に正しくフィットしていることを確認しながら、ヒートシンクを配置します。



リテンションモジュール台は、購入されたマザーボードにすでに取り付けられています。

CPUまたはマザーボードコンポーネントを取り付けるとき、リテンションモジュール台を取り外す必要はありません。

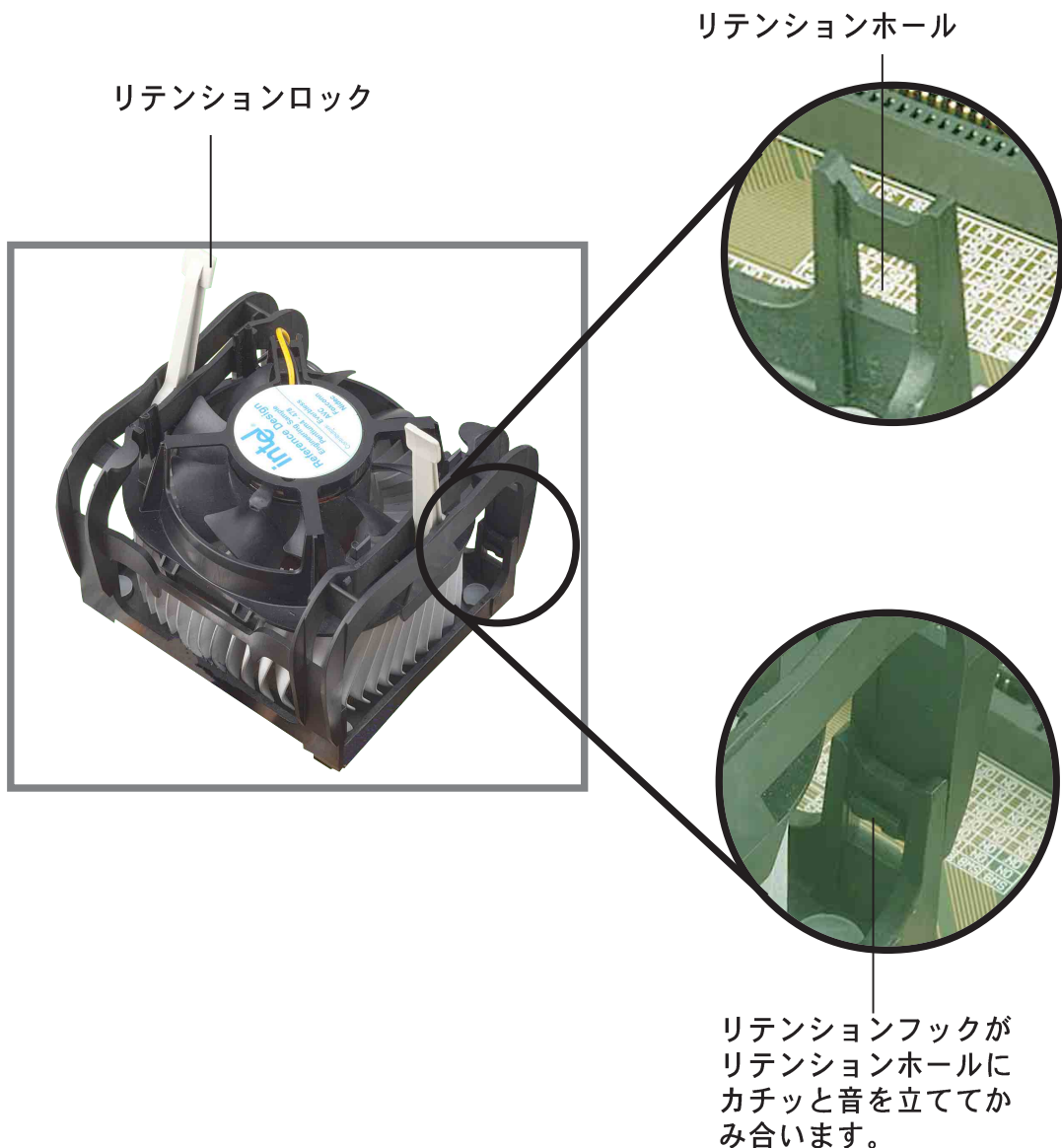


箱入りIntel Pentium 4プロセッサパッケージには、CPUヒートシンクとリテンションメカニズム用の取り付け説明書が付属しています。本項の説明書がCPUのマニュアルと同じでない場合、後者の方に従ってください。

2. ヒートシンクの上部のリテンションメカニズムとファンの位置を合わせます。リテンションメカニズムの4つのフックの位置がモジュール台の各隅の穴に揃ったら、カチッと音を立ててかみ合います。



ファンとリテンションメカニズムアセンブリが、ヒートシンクやモジュール台に完全にフィットしていることを確認してください。そうでないと、穴にフックをはめ込むことができません。



リテンションメカニズムをモジュール台にフィットさせている間、リテンションロックを上を持ち上げていてください。

- リテンションメカニズムのロックを押し下げて、ヒートシンクとファンをモジュール台に固定します。



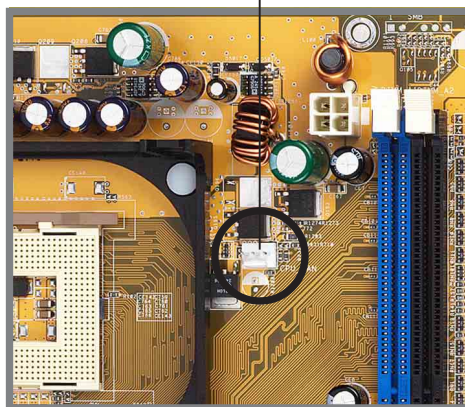
固定されると、リテンションロックは反対方向を向きます。



2.4.4 CPUファンケーブルを接続する

ファン、ヒートシンク、リテンションメカニズムを適切な位置に取り付け
たら、CPUファンケーブルをCPU_FANとラベルされたマザーボードのコ
ネクタに接続します。

CPU ファンコネクタ
(CPU_FAN)



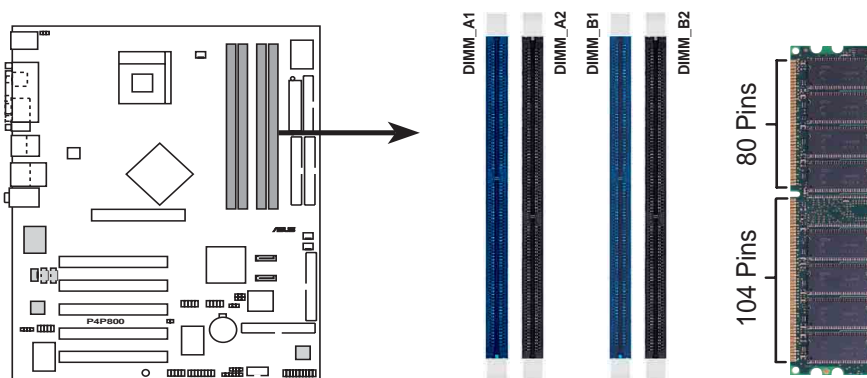
CPUファンコネクタの接続を忘れないでください! このコネクタを接続
しないと、ハードウェア監視エラーが発生する原因となります。

2.5 システムメモリ

2.5.1 概要

このマザーボードには、4つのダブルデータレート(DDR)デュアルインラインメモリモジュール(DIMM)ソケットが付属しています。これらのソケットは、184ピンのバッファなしECCまたは非ECC PC3200/PC2700/PC2100 DDR DIMMを使用して最大4GBのシステムメモリをサポートし、最大6.4GB/秒のデータ転送速度を可能にしています。

次の図は、DDR DIMMソケットの位置を説明しています。



P4P800 184-Pin DDR DIMM Sockets

DDRテクノロジーに関する注

DDR SDRAM テクノロジは、シングルデータレート(SDR) SDRAM. DDRとして知られるメインストリームPC66、PC100、PC133メモリから発展したものです。しかし、DDRメモリには1つのクロックサイクルで2つのデータ操作を実行する機能があり、これによってSDRメモリのスループットを2倍にしています。

DDR DIMM はSDR DIMMと同じ物理的寸法を持っていますが、SDR DIMMが168ピンなのに対して184のフットプリントしかありません。また、DDR DIMMはシングルノッチですが、SDR DIMMはダブルノッチです。従って、DDR DIMM はSDRと下位互換性がなく、DDR DIMM用に特別に設計されたソケットのみに取り付ける必要があります。



青いDIMMスロットを先に使用するようにお勧めします。

2.5.2 メモリ構成

本項のメモリ構成を使用して、64MB、128MB、256MB、512MB、1GB DDR DIMMをDIMMソケットに取り付けることができます。

重要な注



1. 推奨する構成以外のDDR DIMMを取り付けると、メモリサイジングエラーとシステムブートエラーが起こる原因となります。表1の推奨構成をご使用ください。
2. デュアルチャネル構成では、各チャネルに対して同一の（同じタイプとサイズの）DDR DIMMペアのみを取り付けてください。
3. 常に同じCASレイテンシを持つDIMMを取り付けてください。最適の互換性を得るには、同じベンダーからメモリモジュールを入手することをお勧めします。
4. メモリ周波数がCPU FSB（フロンとサイドバス）に一致していることを確認してください。表2を参照してください。
5. 任意の3つのソケットに取付けられたDIMMは、シングルチャネルモードで機能します。
6. 4つのソケットが全て1GB DIMMに取り付けられているとき（合計4GB）、ICH5Rリソース割当によりシステムは（4GBより少し少ない）3+GBしか検出できません。

表 1 推奨するメモリ構成

モード	ソケット			
	DIMM_A1 (青)	DIMM_A2 (黒)	DIMM_B1 (青)	DIMM_B2 (黒)
シングルチャンネル	(1) 取付け済み	-	-	-
	(2) -	取付け済み	-	-
	(3) -	-	取付け済み	-
	(4) -	-	-	取付け済み
デュアルチャンネル	(1) 取付け済み	-	取付け済み	-
	(2) -	取付け済み	-	取付け済み
	(3) 取付け済み	取付け済み	取付け済み	取付け済み

* 全く同じDDR DIMMペアのみを使用してください。

* デュアルチャンネル構成(3)の場合、次を行ってください。

・ 4つのソケット全てに同一のDIMMを取り付ける

または

・ DIMM_A1 と DIMM_B1 (青いソケット) に同一のDIMMペア
およびDIMM_A2 と DIMM_B2 (黒いソケット) に同一のソケット
を取り付ける

表 2 メモリ周波数/CPU FSB 同期

CPU FSB	DDR DIMM タイプ	メモリ周波数
800 MHz	PC3200/PC2700*/PC2100	400/333*/266 MHz
533 MHz	PC2700/PC2100	333/266 MHz
400 MHz	PC2100	266 MHz



*800MHz CPU FSBを使用しているとき、PC2700 DDR DIMMはチップセットの制限により320MHz (333MHzではなく) でのみ動作しません。

2.5.2.2 DDR 推奨ベンダーリスト (QVL)

次の表は、このマザーボードで使用するためにテストされ認可を得た、PC3200と2700 (DDR400 and DDR333)メモリモジュールの一覧を表示しています。

サイズ	ベンダー	モデル	ブランド	コンポーネント	最大 DIMMs
256MB	A DATA	MDGA5F3G315B1EC2	A DATA	ADD8608A8A-5B	1, 2
256MB	A DATA		Winbond	W942508BH-5	1, 2
256MB	Apacer		Samsung	K4H560838D-TCC4	1
512MB	Apacer		Samsung	K4H560838D-TCC4	1
256MB	GEIL		GEIL	GL3LC32G88TG-5A	1
128MB	Infineon	HYS64D16301GU-5-B	Infineon	HYB25D256160BT-5B	2, 4
256MB	Infineon	HYS64D32300GU-5-B	Infineon	HYB25D256800BT-5B	1, 2, 4
512MB	Infineon	HYS64D64320GU-5-B	Infineon	HYB25D256800BT-5B	1
256MB	Kingmax	MPXB62D-68KX3	Kingmax	KDL684T4AA-50	A1
512MB	Kingston	9905193-003	Winbond	W942508BH-5	A1B1
256MB	MICRON	MT16VDDT3264AG-403B5	MICRON	MT46V16M8-5ESB	1
256MB	MICRON	MT16VDDT3264AG-403B5	MICRON	MT46V16M8-5TESB	1, 2
512MB	Samsung	M368L322ETM-CCC	Samsung	K4H560838E-TCCC	A1, A1B1, A1A2, B1B2
512MB	Transcend	69960 Y0303	Samsung	K4H560838D-TCC4	1
512MB	Transcend	TS64MLD64V4F	Mosel	V58C2256804SAT5	1, 2, 4
512MB	Winbond	W9451TGCD5-5	Winbond	W942508CH-5	A1, A1B1

DIMM サポート表

コード	説明
1	1つのDIMMだけがスロットをサポートします
2	2つのDIMMがスロットをサポートします
4	全てのスロットをサポートします
A1	スロットA1のみをサポートします
A2	スロットA2のみをサポートします
B1	スロットB1のみをサポートします
B2	スロットB2のみをサポートします
A1A2	スロットA1とA2のみをサポートします
B1B2	スロットB1とB2のみをサポートします
A1B1	スロットA1とB1のみをサポートします



最高のシステム性能を得るために、ASUS推奨のベンダーからのみDDR DIMMをお求めください。



上で一覧された、テストされ認可を得たDDR400とDDR333 DIMMだけを使っていることを確認してください。サードパーティが製造したほかのDDR DIMMは、このマザーボードに適合しないことがあります。最新の認可を得たベンダーのDDR 400とDDR333モジュール一覧については、ASUSのWebサイト(www.asus.com)にアクセスしてください。

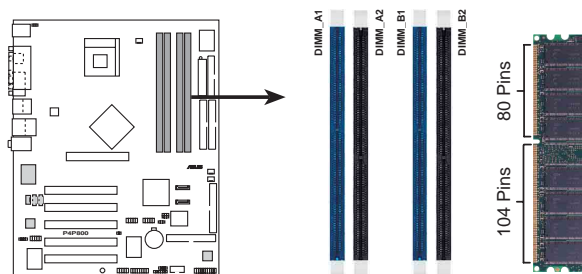
2.5.3 DIMMの取り付け



DIMMまたはその他のコンポーネントの増設または取り外しを行う前に、電源装置を抜いていることを確認してください。そうしないと、マザーボードとコンポーネントがひどい損傷をこうむる原因となります。

次の手順に従って、DIMMを取り付けてください。

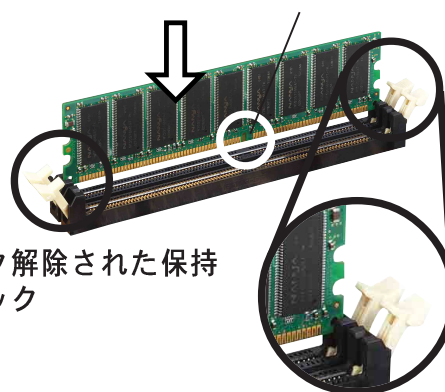
1. マザーボードのDIMMソケットの位置を確認します。



DDR DIMMノッチ

2. 保持クリップを外側に押して、DIMMのロック解除を行います。
3. DIMMのノッチがソケットの裂け目に一致するようにDIMMをソケットに合わせます。

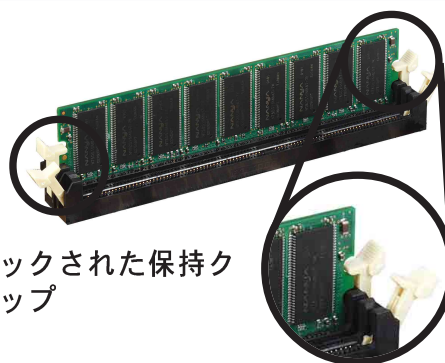
ロック解除された保持クリップ



DDR DIMMには、一方向にのみフィットするようにノッチが付いています。DIMMが損傷する原因となるので、DIMMをソケットに無理に押し込まないでください。

4. 保持クリップがカチッと音を立てて適切な位置に閉まりDIMMが正しく取り付けられるまで、DIMMをソケットにしっかりと挿入します。

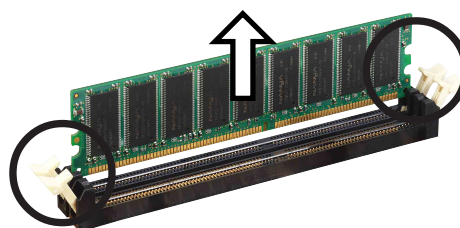
ロックされた保持クリップ



2.5.4 DIMMの取り外し

次の手順に従ってDIMMを取り外します。

1. 保持クリップを外側に同時に押し、DIMMのロック解除を行います。



保持クリップを押すとき、指でDIMMを軽く支えます。DIMMは余分な力を加えると弾き飛ばされて損傷をこうむることがあります。

2. ソケットからDIMMを取り外します。

2.6 拡張スロット

将来、拡張カードを取り付ける必要が生じる場合があります。マザーボードには5つのPCIスロット、1つのアクセラレーテッドグラフィックスポート(AGP) Proスロット、Wi-Fiスロットがあります。以下で、サポートされるスロットと拡張カードを説明します。



拡張カードの増設または取り外しを行う前に、電源コードを抜いていることを確認してください。そうしないと、負傷したりマザーボードコンポーネントが損傷する原因となります。

2.6.1 拡張カードの取り付け

次の手順に従って、拡張カードを取り付けます。

1. 拡張カードを取り付ける前に、カードに付属するマニュアルを読みカードに必要なハードウェア設定を行ってください。
2. システム装置のカバーを取り外します（マザーボードがシャーシにすでに取り付けられている場合）。
3. 使用するスロットの反対側にあるブラケットを取り外します。将来使用するために、ネジは捨てずに保存してください。
4. カードコネクタをスロットに合わせ、カードがスロットに完全に取り付けられるまでしっかり押します。
5. カードを取り外したネジでシャーシに固定します。
6. システムのカバーを元に戻します。

2.6.2 拡張カードの構成

拡張カードを取り付けた後、ソフトウェア設定を調整してカードを構成します。

1. システムの電源をオンにし、必要なBIOS設定を行います。BIOSセットアップの詳細については、第4章をご覧ください。
2. IRQをカードに合わせます。次ページの表を参照してください。
3. 拡張カードのソフトウェアデバイスをインストールします。

標準の割り込み割当

IRQ	優先順位	標準機能
0	1	システムタイマ
1	2	キーボードコントローラ
2	N/A	プログラム可能割当
3*	11	通信ポート (COM2)
4*	12	通信ポート (COM1)
5*	13	サウンドカード (LPT2の場合もあります)
6	14	フロッピーディスクコントローラ
7*	15	プリンタポート (LPT1)
8	3	システムCMOS/リアルタイムクロック
9*	4	ACPIモード (使用時)
10*	5	PCIステアリング用IRQホルダ
11*	6	PCIステアリング用IRQホルダ
12*	7	PS/2互換マウスポート
13	8	数値データプロセッサ
14*	9	1次 IDE チャンネル
15*	10	2次 IDE チャンネル

* これらのIRQは、通常ISAまたはPCIデバイスで利用できます。

このマザーボード用のIRQ割当

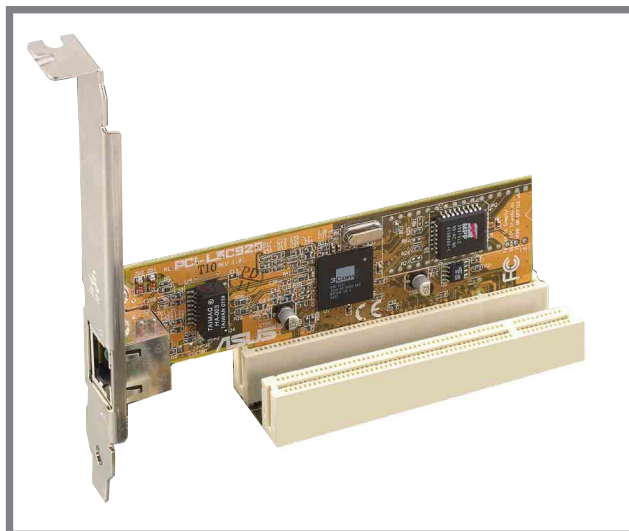
	A	B	C	D	E	F	G	H
PCIスロット1	—	—	—	—	—	共有	—	—
PCIスロット2	—	—	—	—	—	—	共有	—
PCIスロット3	—	—	—	—	—	—	—	共有
PCIスロット4	—	—	—	—	共有	—	—	—
PCIスロット5	—	—	—	—	—	共有	—	—
AGP スロット	使用済み	—	—	—	—	—	—	—
オンボードUSB 1.1/2.0コントローラ	—	—	—	—	共有	共有	共有	共有
オンボードLAN	—	—	—	—	—	—	共有	—
オンボードRAID	—	—	—	—	—	—	—	共有
オンボード1394	—	—	—	—	共有	—	—	—
オンボードオーディオ	—	—	使用済み	—	—	—	—	—



共有スロットでPCIカードを使用しているとき、デバイスがIRQの共有をサポートしていることを、またはカードがIRQ割当を必要としないことを確認してください。そうでないと、2つのPCIグループの間で競合が発生し、システムが不安定になったりカードを操作できなくなったりします。

2.6.3 PCI スロット

このマザーボードには、5つの32ビットPCIスロットがあります。スロットはLANカード、SCSIカード、USBカード、およびPCI仕様に準拠するその他のカードなどのPCIカードをサポートします。次の図は、PCIスロットに取り付けられたLANカードを示しています。



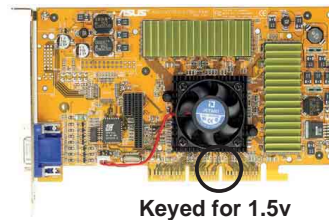
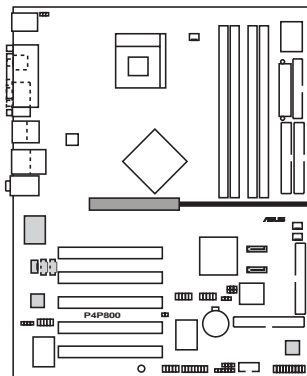
1. PCI 5スロットとWi-Fiスロットは同時に使用できません。
2. 長いPCIカードを取付けるとき、PCIスロット1、2または5に取り付けることをお勧めします。PCIスロット3と4に取り付けられた長いPCIカードは、SATAおよびゲームコネクタとインターフェイスを取ることができます。

2.6.4 AGP スロット

このマザーボードには、+1.5V AGPカードのみをサポートするアクセラレーテッドグラフィックスポート(AGP)スロットが搭載されています。AGPカードをご購入になるとき、+1.5V仕様に準拠するカードを求めていることを確認してください。カードのゴールデンフィンガーのノッチは、マザーボードのAGPスロットに確実にフィットするためのものです。



このマザーボードには、1.5V AGPカード以外のカードを取り付けないでください! 3.3V AGP カードはこのマザーボードでサポートされていません。



P4P800 Accelerated Graphics Port (AGP)



ATi 9500 または 9700 Pro Series VGAカードを取り付ける場合、最適の性能とオーバーロックの安定性を得るには、カードバージョン PN xxx-xxxxx-30以降のみを使用してください。



2.6.5 Wi-Fiスロット

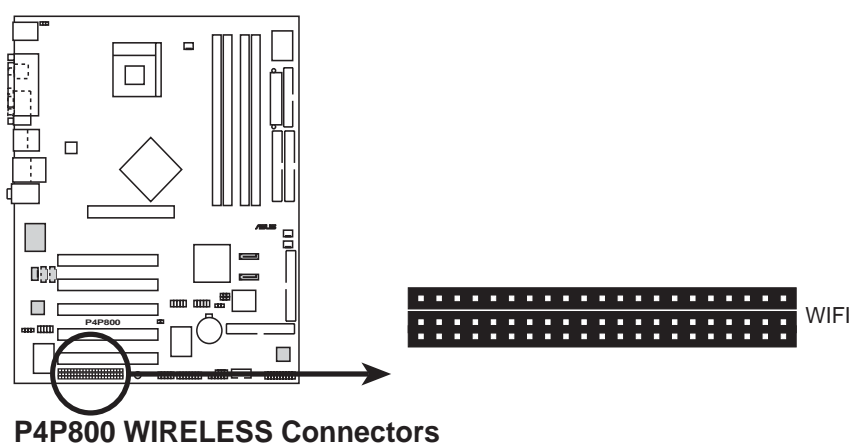
Wi-Fi (Wireless Fidelity) スロットは利用可能なとき、ASUS Wi-Fiモジュールをサポートします。製品の更新については、ASUSのWebサイト (www.asus.com)にアクセスしてください。

Wi-Fiスロットは、2.4 GHz周波数バンドで動作するワイヤレスデバイス用の米電気電子技術者協会(IEEE) 802.11b標準に準拠しています。

IEEE 802.11b標準には、3つの無線テクノロジー、つまり直接シーケンス拡散スペクトラム、周波数ホッピング拡散スペクトラム、赤外線に対する規定が含まれています。11 Mbps標準に準拠するデバイスは、直接シーケンス拡散スペクトラムの場合、最高11 Mbpsのデータ転送速度で動作します。

IEEE 802.11b仕様は、2.4 GHz周波数バンドを14の重複する操作チャンネルに割り当てます。各チャンネルは異なるセットの周波数に対応しています。同じバンド幅で複数の802.11bワイヤレスPCIカードを操作している場合、中央周波数間の距離は障害を避けるために少なくとも25 MHzなければなりません。

802.11bワイヤレスPCIカードで利用できるチャンネル数は、国によって異なります。米国の場合、802.11b標準は直接シーケンスデバイスに対して11の操作チャンネルを割り当てます。チャンネル1、6、11は独立しており、互いに重なり合うことはありません。



PCI 5スロットとWi-Fiスロットは、同時に使用できません。

2.7 ジャンパ

1. RTC RAM (CLRTC1)の消去

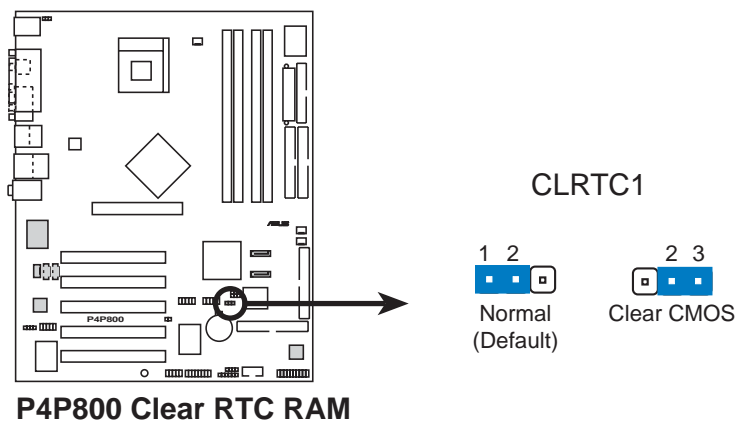
このジャンパによって、CMOSのリアルタイムクロック(RTC) RAMを消去できます。CMOS RTC RAM データを消去することによって、CMOSメモリの日、時間、システムのセットアップパラメータを消去できます。CMOSのRAMデータは、システムパスワードなどのシステムセットアップ情報を含み、オンボードのボタンセルバッテリーによって電源を供給されます。

RTC RAMを消去するには、次の手順を実行します。

1. コンピュータの電源をオフにし、電源コードを抜きます。
2. ボード上のバッテリーを取り外します。
3. ピン1-2 (デフォルト) からピン2-3にジャンパキャップを移します。ピン2-3に約5~10秒間キャップをかぶせ、それからキャップをピン1-2に戻します。
4. バッテリーを交換します。
5. 電源コードを差し込み、コンピュータの電源をオンにします。
6. ブートプロセスの間、キーを押し下げBIOSセットアップに入ったらデータを再入力します。



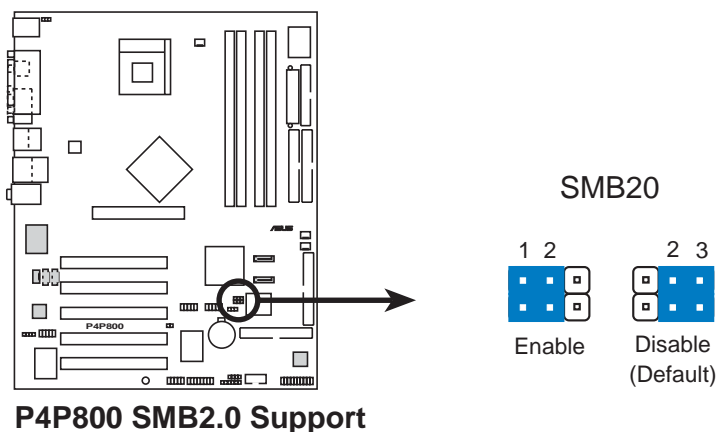
RTC RAMを消去するとき以外は、CLRTC1ジャンパのキャップをデフォルトの位置から取り外さないでください。キャップを取り外すと、システムのブートエラーの原因となります!



オーバークロックによりシステムがハングアップしたとき、RTCを消去する必要はありません。オーバークロックによるシステムエラーの場合は、C.P.R (CPUパラメタリコール) 機能を使用してください。システムをシャットダウンしてリブートすると、BIOS はパラメータ設定をデフォルト値に自動的にリセットできます。

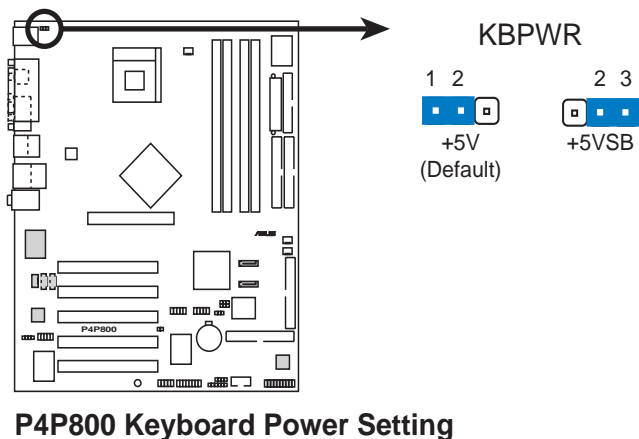
2. SMB2.0 (6-1ピンSMB20)

このジャンパにより、PCIスロット用にSMバスサポートの有効/無効を切り替えることができます。このジャンパをピン1-2に設定すると、SMバスサポートが有効になります。ジャンパは、デフォルト設定では無効になっています。



3. キーボード電源 (3-ピンKBPWR)

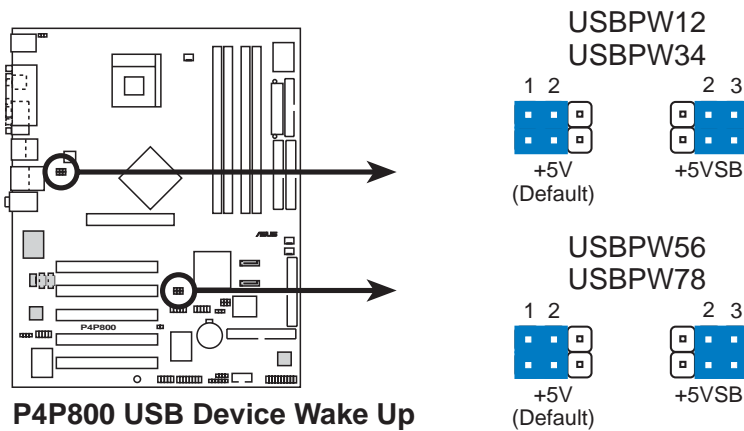
このジャンパにより、キーボード呼び起こし機能の有効/無効を切り替えることができます。キーボードのキーを押したときにコンピュータを呼び起こしたい場合、このジャンパをピン2-3 (+5VSB)に設定してください (デフォルト値は[Disabled])。この機能は、+5VSBリード上で少なくとも1Aを、またBIOSで対応する設定をサポートできるATX電源装置を必要とします (4.5.1 コントロールの起動をご覧ください)。



4. USBデバイスの呼び起こし (3ピンUSBPW12、USBPW34、USBPW56、USBPW78)

これらのジャンパを+5Vに設定すると、接続されたUSBデバイスを使用して、コンピュータをS1スリープモード（停止したCPU、リフレッシュしたDRAM、低パワーモードで実行するシステム）から呼び起こします。+5VSBに設定すると、S3とS4スリープモード（CPUへの電源なし、遅いリフレッシュのDRAM、低下した電源モードにある電源装置）から呼び起こします。

USBPW12 とUSBPW34ジャンパはリアUSBポート用です。
USBPW56 とUSBPW78 ジャンパは内部USBヘッダ用で、前面USBポートに接続することができます。



1. USB デバイスの呼び起こし機能は、各USBポートに対して+5VSB リードに500mAを提供できる電源装置を必要とします。この電源装置がなければ、システムは起動できません。
2. 消費される全電流は、標準状態でもスリープモードでも、電源容量(+5VSB)を超えることはできません。

2.8 コネクタ

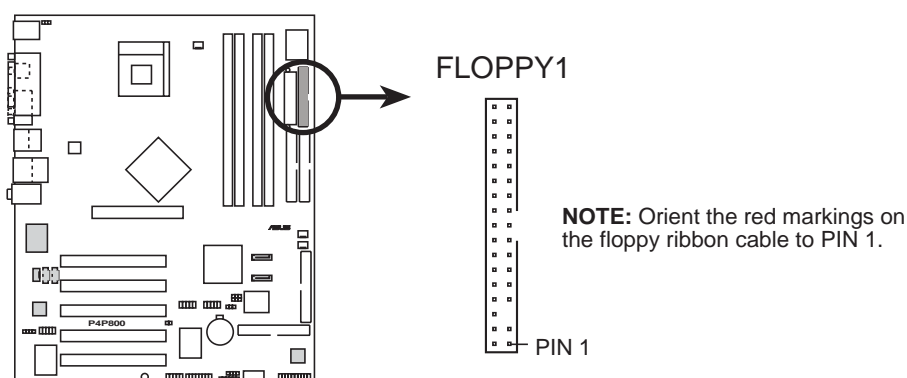
本項では、マザーボードの内部コネクタを図を示して説明します。



赤いストライプのあるリボンケーブルは、常にコネクタのピン1に接続してください。ピン1は通常、ハードドライブとCD-ROMドライブの電源コネクタのすぐ傍にありますが、フロッピーディスクドライブの反対側にある場合もあります。

1. フロッピーディスクドライブコネクタ (34-1ピンフロッピー)

このコネクタは、付属のフロッピードライブのリボンケーブルをサポートします。マザーボードに一方の端を接続したら、もう一方の端をフロッピードライブに接続してください(ピン5プラグでリボンケーブルを使用しているとき、間違っても挿入しないようにピン5は取り外されます)。



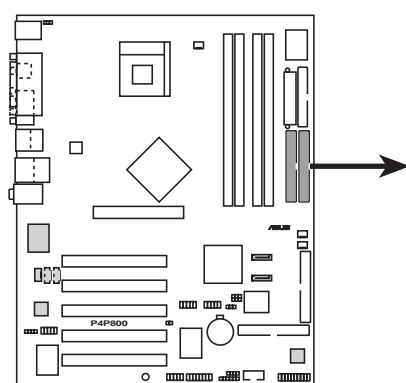
P4P800 Floppy Disk Drive Connector

2. IDE コネクタ (40-1ピン PRI_IDE1, SEC_IDE1)

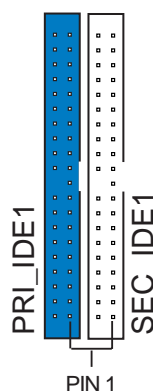
このコネクタは、付属の UltraDMA/100/66 IDEハードディスクリボンケーブルをサポートします。ケーブルの青いコネクタを1次（推奨）または2次コネクタに接続してから、グレーのコネクタを UltraDMA/100/66スレーブデバイス（ハードディスクドライブ）に、黒いコネクタをUltraDMA/100/66マスタデバイスに接続します。非UltraDMA/100/66デバイスを2次IDEコネクタに接続するように推奨します。2台のハードディスクを取り付ける場合、ジャンパを設定することによって、2台目のドライブをスレーブドライブとして構成する必要があります。ジャンパ設定については、ハードディスクのマニュアルを参照してください。BIOSは特定デバイスの起動をサポートします。2台のハードディスクを2本のリボンケーブル（1本は1次IDEコネクタ用、もう1本は2次IDEコネクタ用）で両方ともマスタデバイスとして構成することができます。



1. 各IDEコネクタのピン20はUltraDMAケーブルコネクタのカバーされた穴に一致するように取り除かれます。これによって、ケーブルを接続するときに方向を間違えることはなくなります。
2. UltraDMA/100/66ケーブルの青いコネクタの傍にある穴は故意に付けられたものです。



P4P800 IDE Connectors



NOTE: Orient the red markings (usually zigzag) on the IDE ribbon cable to PIN 1.



UltraDMA100/66 IDE デバイスの場合、80コンダクタIDEケーブルを使用してください。UltraDMA/66ケーブルはマザーボードの梱包に含まれ、UltraDMA100もサポートしています。

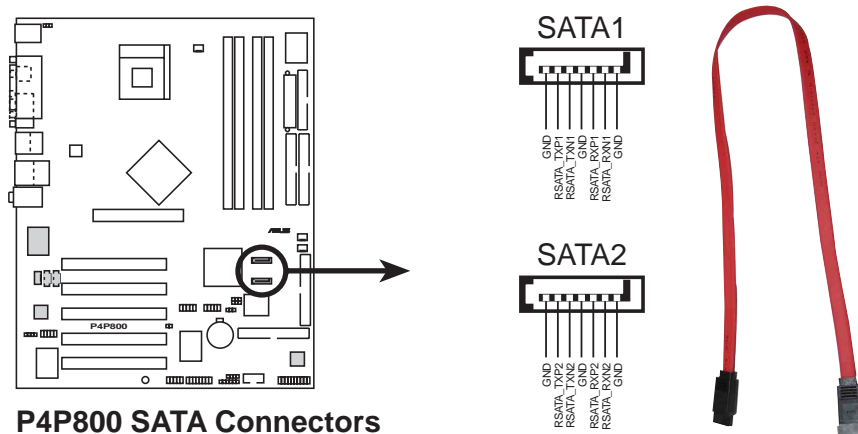


古いタイプのOSを使用するときの注意

- ・ 古いタイプのオペレーティングシステム（例、MS-DOS、Windows 98/ME/NT4.0）をインストールする場合、P-ATA と S-ATAデバイスを構成する方法については2-26ページを参照してください。
- ・ 古いタイプのOSの場合、ハードディスクがUDMAモードをサポートしていれば、システムプロパティのデバイスマネージャでDMAモードを手動で設定してください。

3. シリアルATA コネクタ (7ピンSATA1、 SATA2)

これらの次世代コネクタは、1次内部記憶装置用に薄いシリアルATAケーブルをサポートします。現在のシリアルATAインターフェイスにより、133 MB/s (Ultra ATA/133)を組み込んだ標準の平行ATAよりも高速な、150 MB/秒までのデータ転送速度を可能にしています。



P4P800 SATA Connectors

シリアルATAソリューションに関する重要な注：

- ・ 古いタイプのオペレーティングシステム(Win 98、inME、WinNT、DOS)環境でSATAを使うと、ICH5RサウスブリッジチップセットのIDEチャンネルの1つが無効になります。正しい設定については、BIOS項をご覧ください。
- ・ シリアルATAケーブルは小さくて柔軟性に富むため、ケース内部での配線を簡単に行うことができます。シリアルATAケーブルの下側のピンカウントにより、平行ATAインターフェイスの幅広で、平らなフラットリボンケーブルが原因で起こる問題が取り除かれます。
- ・ シリアルATA RAID ドライバはWinXPでのみ利用できます。
- ・ RAID 0のみがサポートされています。
- ・ シリアルATAドライブと接続のホットプラグサポートは、本マザーボードではサポートされていません。

パラレル ATA およびシリアルATAデバイス構成

次はIntel ICH5仕様がサポートするパラレルATAとシリアルATAデバイス構成です。

ネイティブなIDEモードが可能なオペレーティングシステム(OS)はWindows 2000/XPです。ICH5はこれらのOSを使って、最大6つのデバイスをサポートします。

古いタイプのIDE互換モード OS はMS-DOS、Windows 98/Me/NT4.0です。ICH5 はこれらのOSを使って、最大4つのデバイスをサポートしません。

オペレーティングシステム	P-ATA		S-ATA	
	1次 (2デバイス)	2次 (2デバイス)	ポート0 (1デバイス)	ポート1 (1デバイス)
1. Windows 2000/XP	✓	✓	✓	✓
2. Windows 98/Me/NT4.0				
Configuration A	✓ (1次)	—	✓ (2次)	✓
Configuration B	—	✓ (2次)	✓ (1次)	✓
Configuration C	✓ (1次)	✓ (2次)	—	—

凡例:

✓ サポート
— 無効

BIOSで要求されるIDE の構成設定

上のP-ATAとS-ATAのデバイス構成については、次の表を参照して適切なBIOS設定を行ってください。BIOSアイテムの詳細は、をご覧ください「4.3.6 IDE構成」。

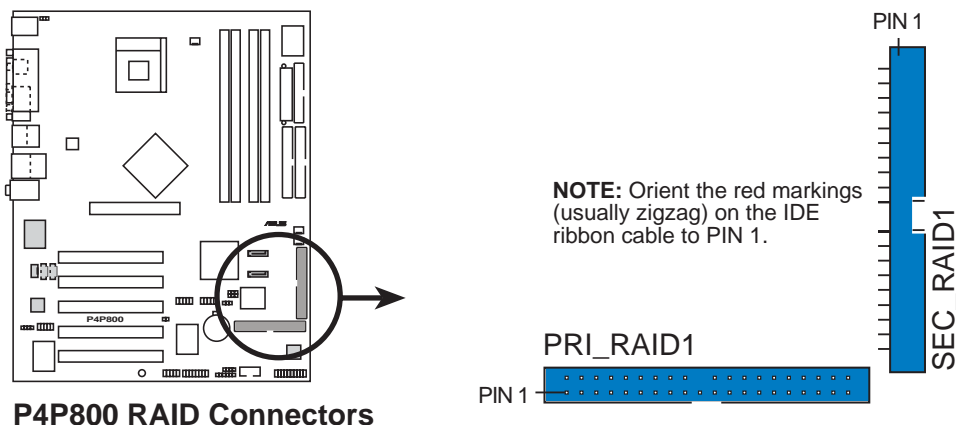
BIOSアイテム	Windows 2000/XP	Windows 98/Me/NT4.0		
		A	B	C
オンボードIDE操作モード	拡張モード	互換モード	互換モード	互換モード
拡張モードサポートオン	-	-	-	-
IDEポート設定	-	-	-	-



古いタイプのオペレーティングシステム(Windows 98、98SE、Me、NT、DOS)でシリアルATAハードディスクを使用している場合、適切なBIOS設定に調整しているか確認してください。詳細な設定情報については、4-11ページの「4.3.6 IDE構成」を参照してください。

4. RAID ATA/133/100/66/33 コネクタ (40-1ピンPRI_RAID1, SEC_RAID1)

このコネクタはオンボードVIA® 6410コントローラを通して、RAID 0、RAID 1、RAID 0 + 1またはJBOD構成のどれかをサポートします。RAID機能を使用するとディスクアレイ構成をセットアップして、追加IDEデバイスをサポートできます。

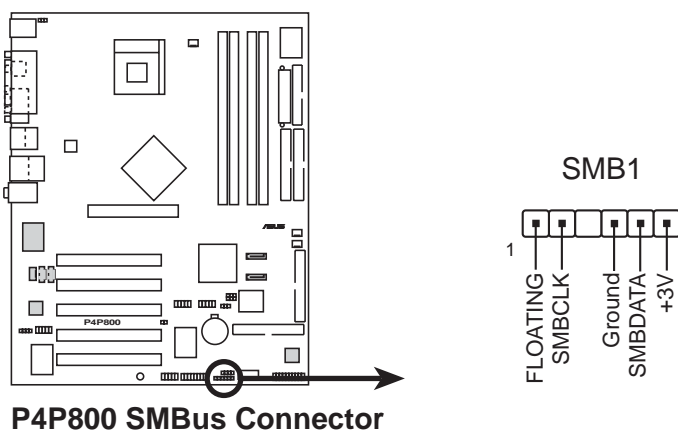


RAID機能に関する重要な注:

- ・ デフォルトで、PRI_RAIDコネクタに接続するドライブは、ディスクアレイとしてではなく、独立したドライブとしてATA133/100/66/33プロトコルに従います。
- ・ RAID/SATA コントローラチップセットは、CD-ROMやDVD-ROMなどのATAPIデバイスをサポートしません。
- ・ RAID機能は、Microsoftオペレーティングシステムでのみサポートされます。

5. SMBus コネクタ (6-1 ピン SMB1)

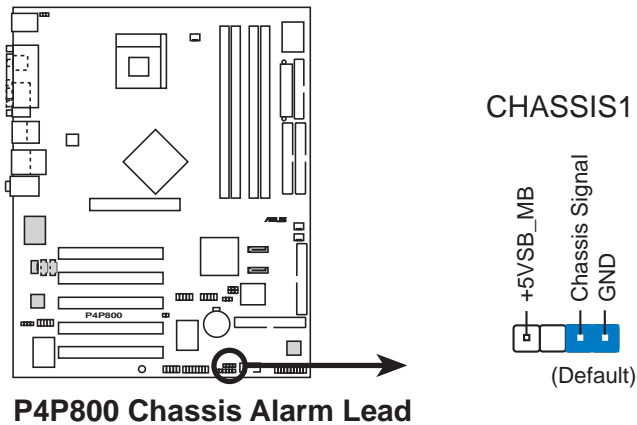
このコネクタによって、SMBus (システム管理バス) デバイスを接続できます。デバイスはSMBusインターフェイスを使用して、ホストSMBusホストおよび他のSMBusデバイスと通信を行います。



6. シャーシ侵入コネクタ (4-1 ピンシャーシ1)

このリードは侵入検出機能で設計されたシャーシ用です。これはシャーシ侵入センサーまたはマイクロスイッチなどの、外部検出メカニズムを必要とします。シャーシコンポーネントを取り外すとき、センサーは高レベルの信号を引き起こしてこのリードに送信し、シャーシ侵入イベントを記録します。

デフォルトで、「シャーシ信号」および「アース」とラベルされたピンは、ジャンパキャップによって短くなっています。シャーシ侵入検出機能を使いたい場合、ピンからジャンパキャップを取り外してください。

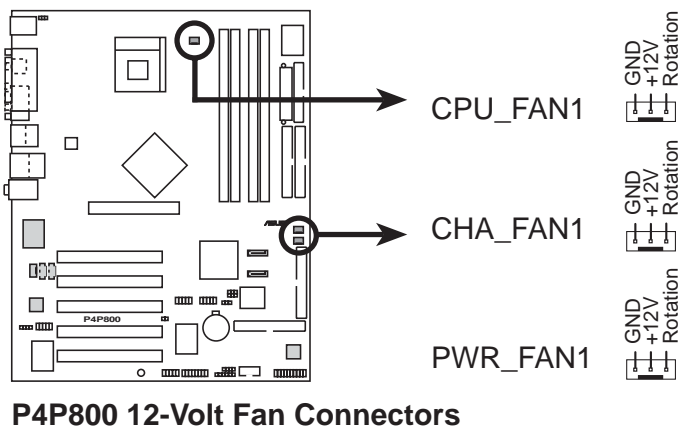


7. CPU、シャーシ、電源ファンコネクタ (3ピンCPU_FAN1, PWR_FAN1, CHA_FAN1)

ファンコネクタは350mA~740mA (8.88W 最大)の、または+12Vで合計1A~2.22A (26.64W 最大)のクーリングファンをサポートします。各ケーブルの黒いワイヤがコネクタのアース用ピンにぴったり合っていることを確認しながら、ファンケーブルをマザーボードのコネクタに接続してください。



ファンケーブルをファンコネクタに接続するのを忘れないでください。システム内に十分な通気がないと、マザーボードコンポーネントが損傷することがあります。これらはジャンパではありません!。ファンコネクタにジャンパキャップをかぶせないでください!



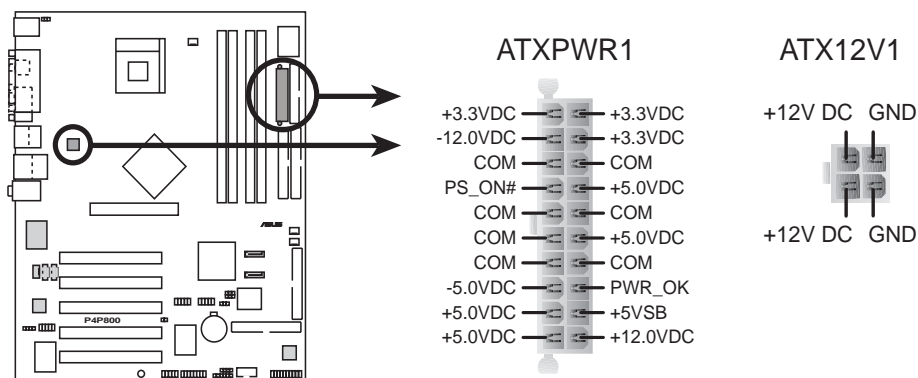
8. ATX 電源コネクタ (20ピン ATXPWR, 4ピン ATX12V)

これらのコネクタはATX 12V電源装置に接続します。電源装置から出るプラグは、一方向でのみこれらのコネクタにフィットするように設計されています。適切な方向を探し、コネクタが完全にフィットするまでしっかり押し下げます。

20ピンATXPWR1コネクタだけでなく、このマザーボードは、4ピンATX +12V電源プラグを接続して、CPUに十分な電力を提供する必要があります。



1. 4ピンATX +12V電源プラグの接続を忘れないでください。そうしないと、システムは起動できません。
2. お使いのATX 12V電源装置が+12Vリードで8Aを、および+5ボルトのスタンバイリード(+5VSB)で少なくとも1Aを提供できることを確認してください。推奨する最小のワット数は230W、または完全に構成されたシステムの場合は300Wです。適切な電流が供給されていないと、システムは不安定になったり起動できなくなります。



P4P800 ATX Power Connector

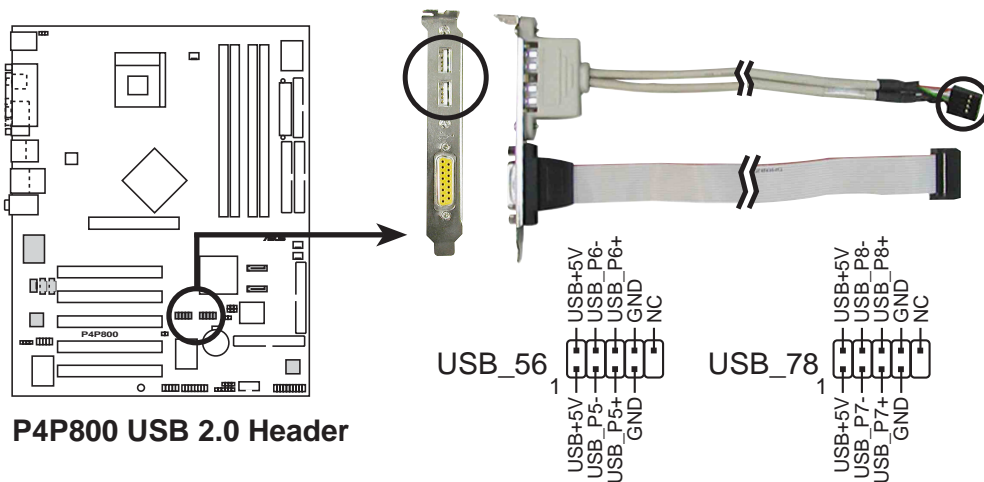
9. USB ヘッド (10-1 ピン USB56, USB78)

リアパネルのUSBポートが適切でない場合、追加USBポートに対して2つのUSBヘッドを利用できます。USBヘッドは、最大480 Mbpsの接続速度をサポートするUSB 2.0仕様でコンパイルされます。USB 1.1での従来の12 Mbpsを上回る速度によって、より高速なインターネット接続、双方向型のゲーム、高速周辺装置の同時実行が可能になります。

このヘッドにオプションのUSB 2.0/GAMEモジュールを接続してください。モジュールは2つのUSB 2.0ポートを搭載して、高解像度カメラ、スキャナ、プリンタなどの次世代USB周辺装置をサポートします。



USB 2.0機能を使用する前に、ドライバをインストールする必要があります。



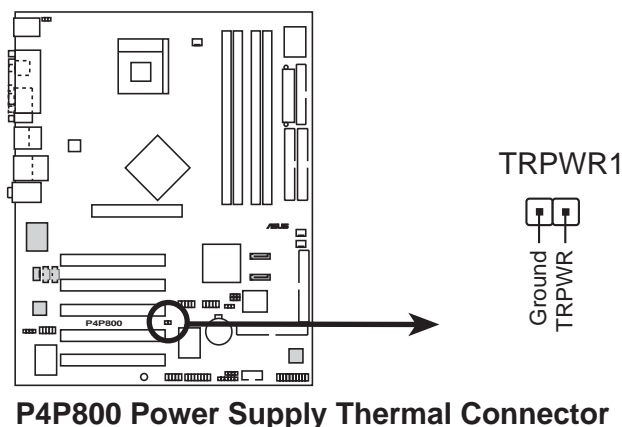
1394ケーブルをUSB56またはUSB78コネクタには絶対に接続しないでください。マザーボードが損傷する原因となります!



USB 2.0/GAMEモジュールは別個にお買い求めください。

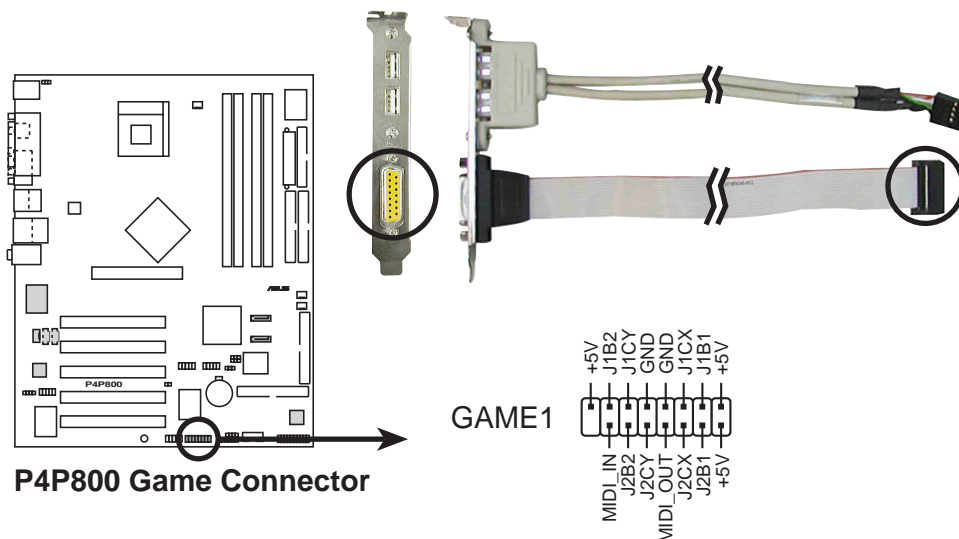
10. 電源装置の熱コネクタ (2ピン TRPWR1)

お使いの電源装置に熱関し機能が搭載されている場合、その熱センサーケーブルをこのコネクタに接続してください。



11. GAME/MIDI コネクタ (16-1 ピンゲーム1)

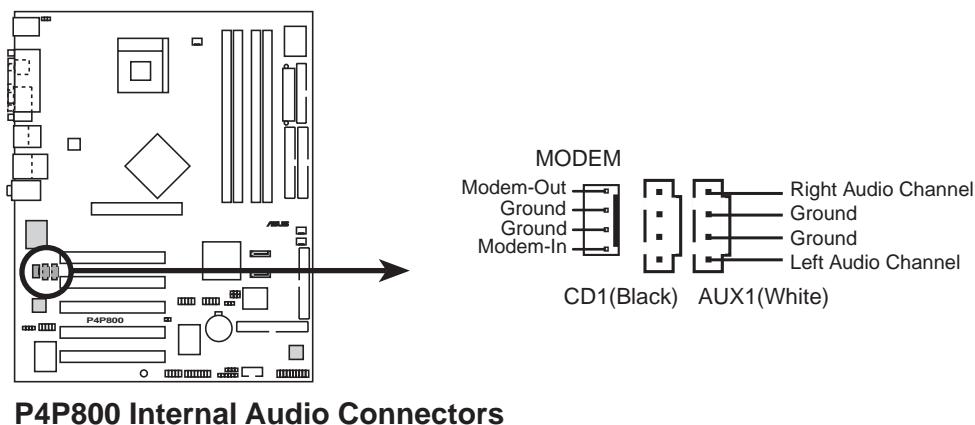
このコネクタはオプションのゲーム/MIDIモジュールをサポートします。ゲーム/MIDIケーブルをこのコネクタに接続してください。モジュールのゲーム/MIDIポートはゲームをプレーする場合にはジョイスティックやゲームパッドを、オーディオファイルを編集する場合にはMIDIデバイスを接続します。



USB 2.0/GAMEモジュールは別個にお買い求めください。

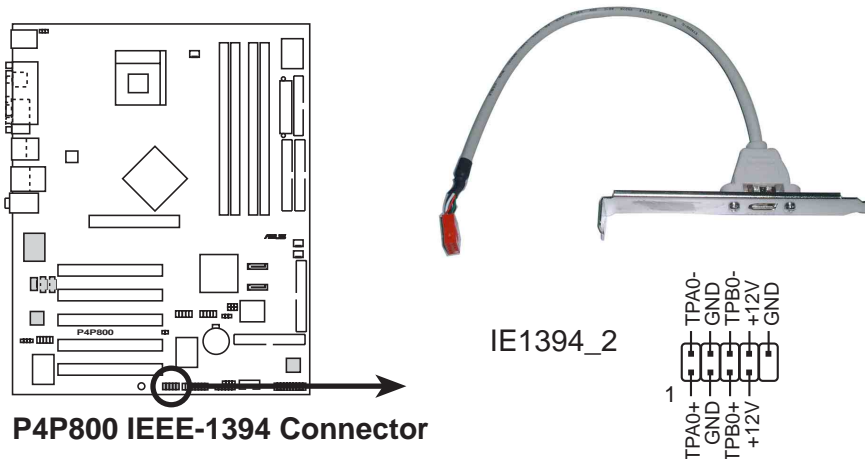
12. 内部オーディオコネクタ (4ピン CD1, AUX1, MODEM)

これらのコネクタによって、CD-ROM、TVチューナー、MPEGカードなどのサウンドソースからステレオオーディオ入力を受信できます。モデムコネクタによって、オンボードオーディオは同様のコネクタを持つボイスモデムカードとインターフェイスを取ることができます。また、オーディオとボイスモデムカード間のmono_in（電話など）とmono_out（スピーカーなど）の共有が可能になります。



13. IEEE 1394 コネクタ (10-1 ピン IE1394_2[Orange]) (1394モデルのみ)

このコネクタは、オプションの1394モジュール用です。モジュールから出る10-1ピン1394ケーブルプラグをこのコネクタに接続します。1394準拠の内部ハードディスクをこのコネクタに接続することもできます。



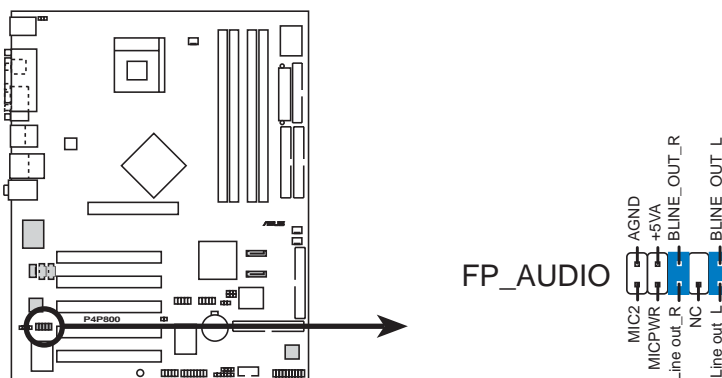
USB ケーブルをIEEE 1394 (orange)コネクタに、絶対に接続しないでください。マザーボードを損傷させる原因となります!



1394モジュールは別個にお買い求めください。

14. フロントパネルオーディオコネクタ (10-1 ピン FP_AUDIO)

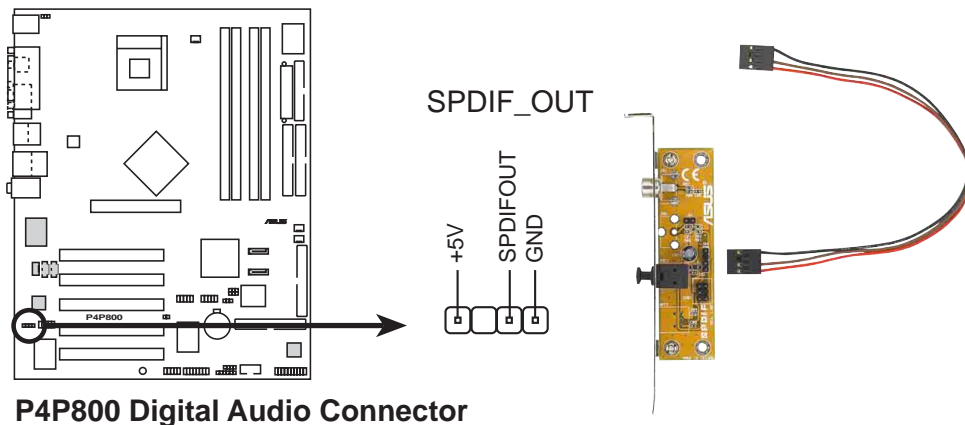
これはIntelフロントパネルのオーディオケーブル用のインターフェイスで、オーディオデバイスの簡単な接続と制御を可能にしています。デフォルトで、LINE OUT_R/BLINE_OUT_RとラベルされたピンとLINE OUT_L/BLINE_OUT_Lピンは、ジャンパキャップにより短くなっています。キャップの取り外しは、フロントパネルのオーディオケーブルを接続するときのみ、行ってください。



P4P800 Front Panel Audio Connector

15. デジタルオーディオコネクタ (6-1 ピン SPDIF_OUT2)

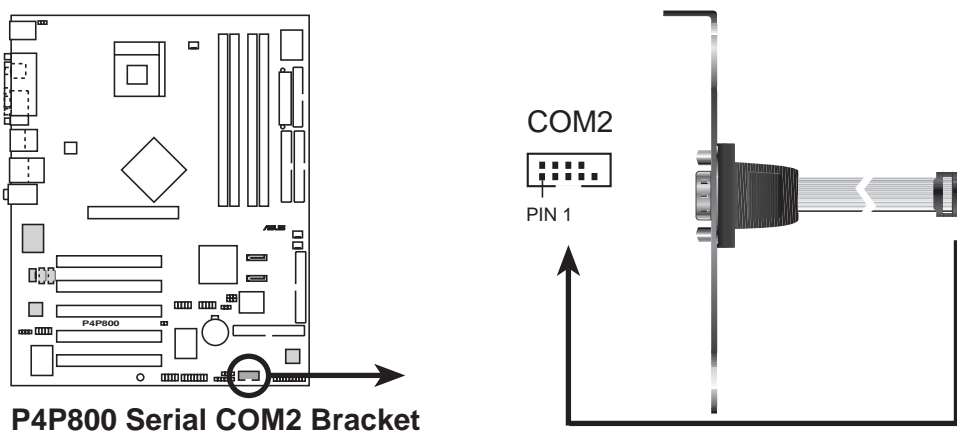
リアパネルのS/PDIFアウトポートだけでなく、S/PDIFアウトコネクタもS/PDIFオーディオモジュールに対して利用することができます。S/PDIFオーディオケーブルの一方の端をこのコネクタに接続し、もう一方の端をS/PDIFモジュールに接続します。



S/PDIFモジュールは別個にお買い求めください。

16. シリアルポート 2 コネクタ (10-1 ピン COM2)

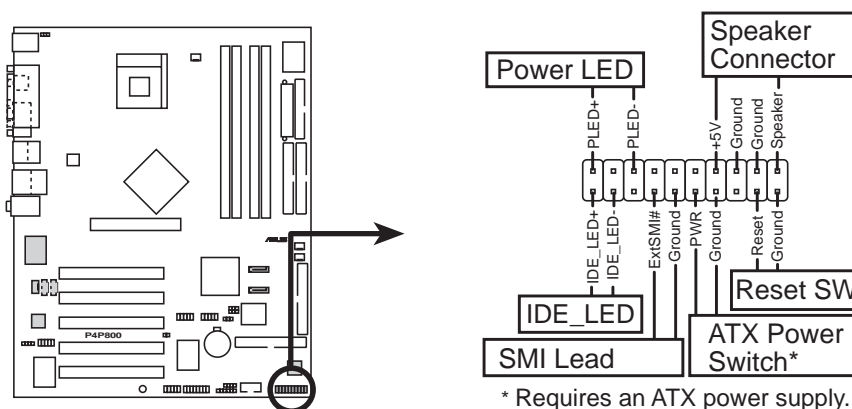
このコネクタはオプションのシリアルポートブラケットを使用して、2番目のシリアルポートを提供しています。ブラケットケーブルをこのコネクタに接続してから、ブラケットをシステムシャーシ背面にあるスロット開口部に取り付けます。



シリアルポートブラケット(COM2)は別個にお買い求めください。

17. システムパネルコネクタ (20ピン PANEL)

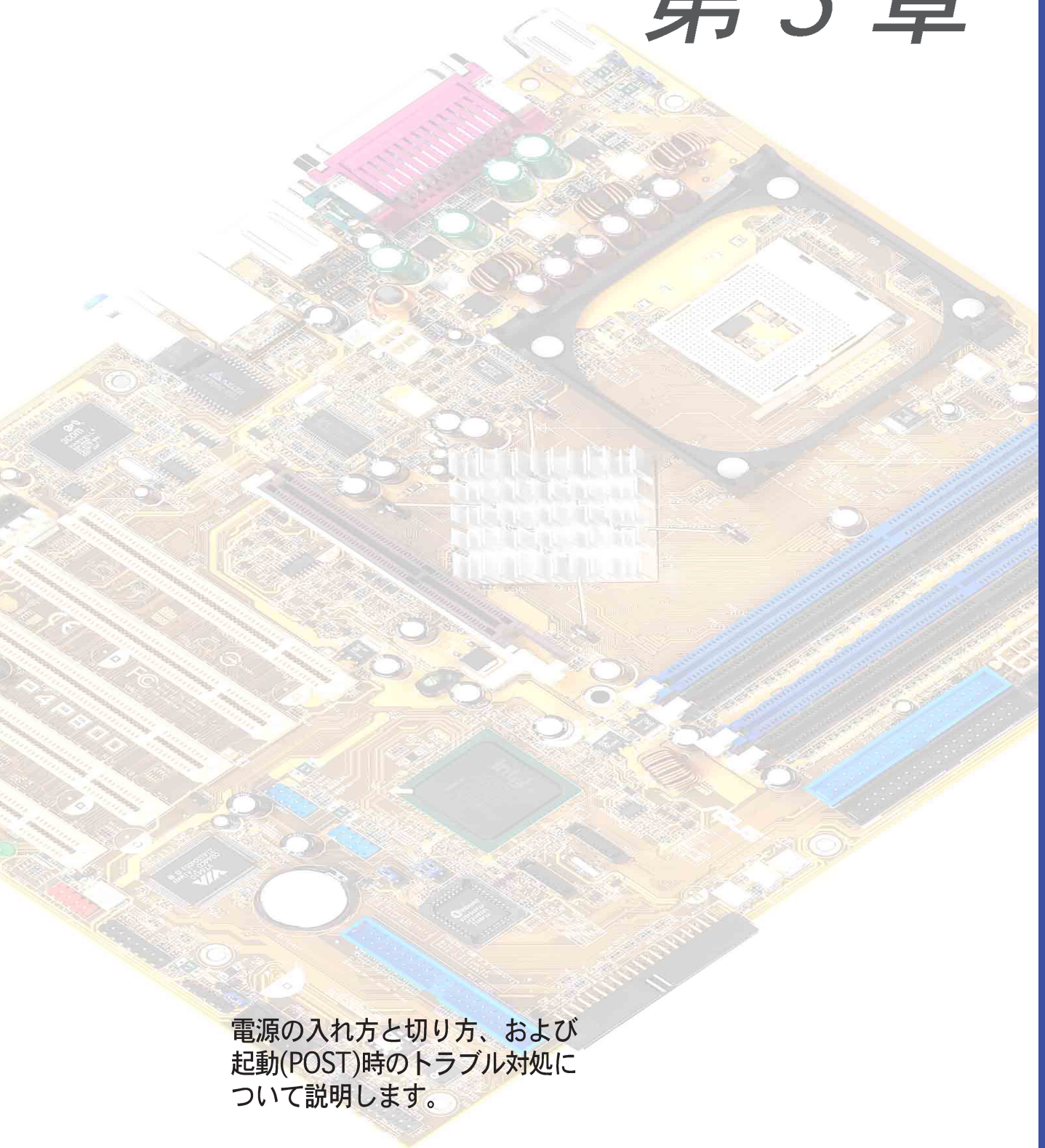
このコネクタは、複数のシステムフロントパネル機能を提供します。



P4P800 System Panel Connectors

- ・ システム電源 LED リード (3-1 ピン PLED)
この3-1 ピンコネクタはシステム電源に接続します。LED はシステムの電源をオンにすると点灯し、システムがスリープモードに入ると点滅します。
- ・ システム警告スピーカーリード (4ピン SPKR)
この4ピンコネクタはケースにマウントされたスピーカーに接続され、システムビープ音と警告を鳴らします。
- ・ システム管理割り込みリード (2ピン SMI)
この2ピンコネクタによって、システムを手動でサスペンドモード、または「グリーン」モードにすることができます。この場合、システムアクティビティは直ちに縮小して電力を節約し、一部のシステムコンポーネントの寿命を伸ばします。ケースにマウントされたサスペンドスイッチをこの2ピンコネクタに接続します。
- ・ ATX 電源スイッチ / ソフトオフスイッチリード (2ピン PWRBTN)
このコネクタは、システム電源を制御するスイッチに接続します。電源スイッチを押すとシステムはBIOSまたはOS設定に従って、オンとスリープ、またはオンとソフトオフの間で切り替わります。オンモードになっている間に電源スイッチを4秒以上押すと、システムはオフになります。
- ・ スイッチリードのリセット (2ピンリセット)
この2ピンコネクタは、ケースにマウントされたリセットスイッチに接続し、システム電源をオフにすることなくシステムをリブートします。
- ・ ハードディスクアクティビティリード (2ピンIDE_LED)
この2ピンコネクタはHDD LEDケーブル用です。IDEコネクタのどれかに接続されているデバイスの読み込みまたは書き込みアクティビティにより、IDE LEDが点灯します。

第3章



電源の入れ方と切り方、および
起動(POST)時のトラブル対処に
ついて説明します。

基本操作

本章の内容

- 3.1 初めて起動する 3-1
- 3.2 ボーカルPOSTメッセージ 3-2
- 3.3 コンピュータの電源をオフにする 3-4

3.1 初めて起動する

1. 全ての接続を行った後、システムケースのカバーを元に戻します。
2. 全てのスイッチがオフになっていることを確認してください。
3. 電源コードを、システムシャーシの背面にある電源コネクタに接続します。
4. 電源コードを、サージプロテクタに装備されているコンセントに接続します。
5. 次の順序で装置の電源をオンにします:
 - a. モニタ
 - b. 外部SCSI装置(チェーンの最後の装置からオンにする)
 - c. システム電源
6. 電源をオンにすると、システムのフロントパネルケースの電源LEDが点灯します。ATX電源装置の場合、システムLEDはATX電源スイッチを押したときに点灯します。モニタが「グリーン」標準に準拠している場合、または「電源スタンバイ」機能を搭載している場合、システムLEDがオンになった後にモニタLEDが点灯するか、オレンジ色になったり緑色になったりします。それから、システムは電源オンテストを実行します。テストの実行中は、BIOSがビープ音を出したり（次のBIOSビープコード表をご覧ください）、画面に追加メッセージが表示されます。電源をオンにしてから30秒たっても画面に何も表示されない場合、システムは電源オンテストに失敗した可能性があります。ジャンパ設定と接続をチェックするか、販売店に連絡してアドバイスを求めてください。
7. 電源オン時に、<Delete>を押し下げているとBIOSセットアップに入ります。第4章の指示に従ってください。

3.2 ボーカルPOSTメッセージ

本マザーボードはWinbondスピーチコントローラを組み込んで、ASUS POST Reporter™と呼ばれる特殊機能をサポートします。この機能はボーカルPOSTメッセージを表示して、システムイベントと起動ステータスを通知する警報を出します。起動エラーの場合、問題の特定の原因が聞こえます。

これらのPOSTメッセージは、梱包に付属するWinbond Voice Editorソフトウェアを使用してカスタマイズできます。独自のメッセージを記録して、それをデフォルトのメッセージの代わりに使用できます。

次は、デフォルトのPOSTメッセージと対応するアクションの一覧です。

POST メッセージ	アクション
CPUが取り付けられてされていません	<ul style="list-style-type: none">Intel Pentium 4プロセッサをCPUソケットに取り付けます。
システムがCPUテストに失敗しました	<ul style="list-style-type: none">CPUが正しく取り付けられているかチェックします。ASUSの技術サポートに電話してアドバイスを求めてください。xページの「ASUSサポート情報」をご覧ください。
システムがメモリテストに失敗しました	<ul style="list-style-type: none">DIMMソケットに184ピンバッファなしPC3200/2700/2100 DIMMsを取り付けます。DIMMソケットのDIMMが正しく取り付けられているかチェックします。DIMMsに欠陥がないか確認します。DIMMを取り付ける指示については、「2.5システムメモリ」を参照してください。
システムがVGAテストに失敗しました	<ul style="list-style-type: none">PCI VGAカードをPCIスロットのどれかに、または+0.8V/1.5V AGPカードをAGPスロットに取り付けます。VGA/AGPカードに欠陥がないか確認します。
CPUオーバークロッキングのためにシステム	<ul style="list-style-type: none">BIOSでCPU設定をチェックし、推奨される設定エラーが発生しましたのみに設定していることを確認します。

POSTメッセージ	アクション
キーボードが検出されません	<ul style="list-style-type: none"> ・ キーボードが紫色のPS/2コネクタまたはリアパネルに正しく接続されているかチェックします。 ・ コネクタの位置については、「1.4.1 主なコンポーネント」をご覧ください。
フロッピーディスクが検出されません	<ul style="list-style-type: none"> ・ フロッピーディスクをマザーボードのフロッピーディスクコネクタに接続していることを確認します。 ・ 「2.8コネクタ」をご覧ください。
IDEハードディスクが検出されません	<ul style="list-style-type: none"> ・ IDEハードディスクドライブをマザーボードのIDEコネクタのどれかに接続しているか確認します。 ・ 「2.8コネクタ」をご覧ください。
CPU温度が高すぎます	<ul style="list-style-type: none"> ・ CPUファンが正しく作動しているかチェックします。
CPUファンエラーです	<ul style="list-style-type: none"> ・ CPUファンをチェックして、電源をシステムに取り付けた後オンになるか確認します。 ・ CPUファンがファン速度検出機能をサポートしているか確認します。
CPU 電圧が範囲外です	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電源装置をチェックして、欠陥がないことを確認します。 ・ Call ASUS技術サポートに電話をしてアドバイスを求めてください。x ページの「ASUSサポート情報」をご覧ください。
システムが電源オンセルフテストを完了しました	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクションを取る必要はありません
コンピュータはオペレーティングシステムから	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクションを取る必要はありません 起動中です



BIOSセットアップでASUS POST Reporter™を無効にすることができます。「4.4 スピーチ構成」をご覧ください。

3.3 コンピュータの電源をオフにする

電源をオフにする前に、まずオペレーティングシステムを終了し、システムをシャットダウンする必要があります。ATX電源装置の場合、オペレーティングシステムを終了またはシャットダウンした後に、ATX電源スイッチを押すことができます。Windows ME/2000/XPをお使いの場合、[スタート]ボタンをクリックし、[シャットダウン]をクリックし、[OK]ボタンをクリックしてから、コンピュータをシャットダウンします。Windowsをシャットダウンした後、電源装置をオフにする必要があります。



- ・ ATX電源装置でシャットダウンしているとき、「コンピュータの電源を安全にオフにすることができます」というメッセージは表示されません。
- ・ OSがコンピュータをシャットダウンできない場合、電源ボタンを4秒間押し下げると、コンピュータがシャットダウンします。

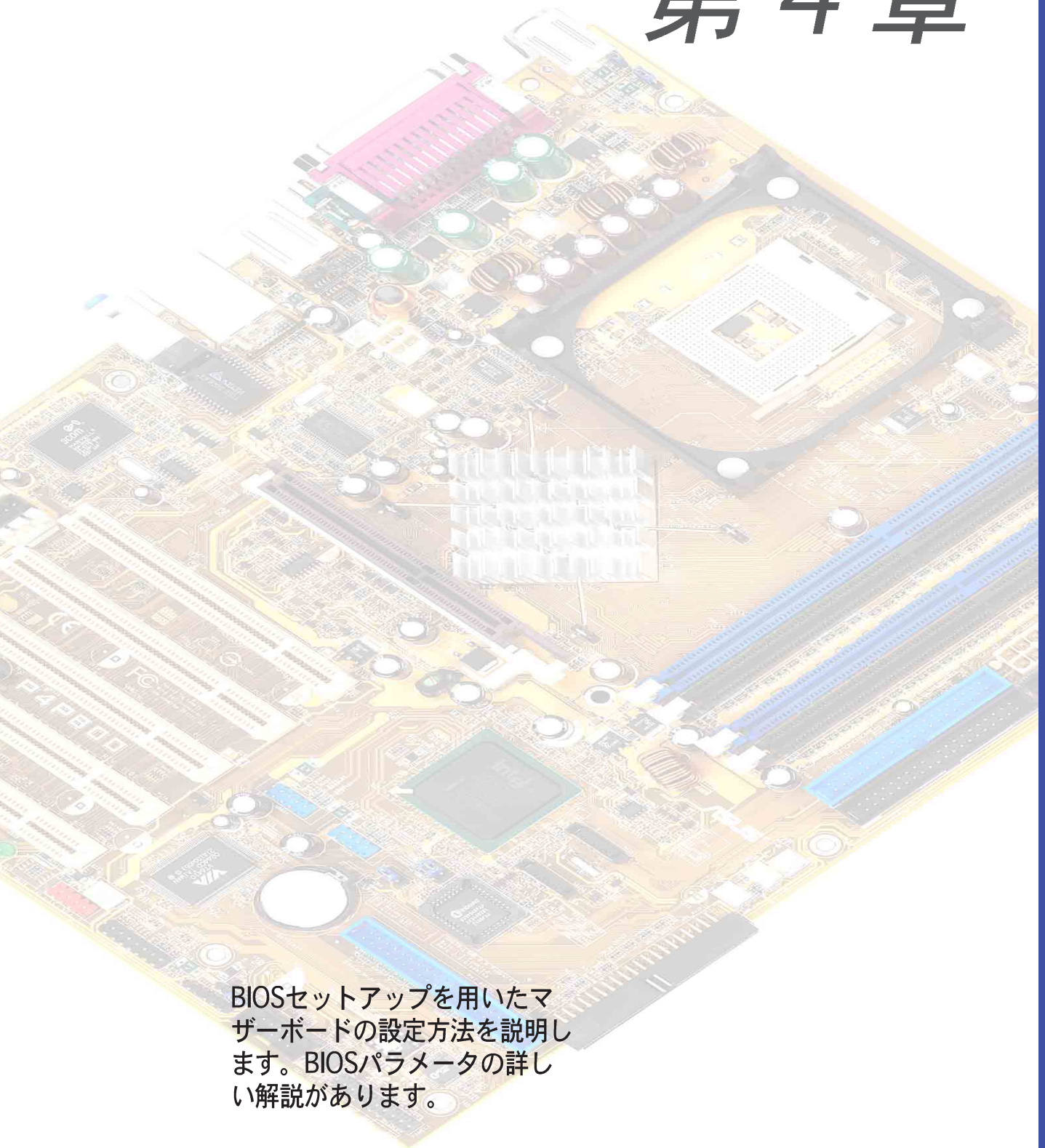
デュアル機能電源スイッチを使用する

システムの電源がオンになっている間電源スイッチを4秒以下押すと、システムはBIOS設定に従って、スリープモードまたはソフトオフモードに入ります。電源スイッチを4秒以上押すと、システムはBIOS設定に関わらずソフトオフモードに入ります。第4章の「4.5電源メニュー」をご覧ください。

OSシャットダウン機能を使用する

Windows 98SE/ME/2000/XPを使用している場合、[スタート]、[シャットダウン]ボタンを順にクリックし、次に[OK]ボタンをクリックして、コンピュータをシャットダウンします。電源装置の電源は、Windowsをシャットダウンした後にオフにする必要があります。

第4章



BIOSセットアップを用いたマザーボードの設定方法を説明します。BIOSパラメータの詳しい解説があります。

BIOSセットアップ

本章の内容

4.1	BIOSの管理と更新	4-1
4.2	BIOSセットアッププログラム	4-6
4.3	メインメニュー	4-9
4.4	詳細メニュー	4-14
4.5	電源メニュー	4-26
4.6	ブートメニュー	4-31
4.7	メニューの終了	4-36

4.1 BIOSの管理と更新



本マザーモードのオリジナルのBIOSファイルはサポートCDに入っています。

将来BIOSを復元する必要がある場合、オリジナルのBIOSをブート可能なフロッピーディスクにコピーしてください。

4.1.1 ブート可能なフロッピーディスクを作成する

1. 次のどれかを実行して、ブート可能なフロッピーディスクを作成します。

DOS環境

1.44 MBフロッピーディスクをドライブに挿入します。DOSプロンプトで、次を入力します。

```
format A:/S <Enter>
```

Windows環境

- a. Windowsデスクトップから、[スタート]をクリックし、[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックします。
 - b. [コントロールパネル]ウィンドウから[プログラムの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。
 - c. [スタートアップディスク]タブをクリックして、[ディスクの作成]ボタンをクリックします。
 - d. 要求されたら、1.44 MBフロッピーディスクを挿入します。次の画面指示に従って、プロセスを完了します。
2. オリジナルの（または最新の）マザーボードBIOSをブート可能なフロッピーディスクにコピーします。

4.1.2 AFUDOSを使用してBIOSを更新する

DOS環境でAFUDOS.EXEユーティリティを使用してBIOSを更新します。

1. ASUSのWebサイト(www.asus.com)にアクセスして、マザーボードの最新のBIOSファイルをダウンロードしてください。BIOSファイルは、ブート可能なフロッピーディスクに保存してください。



BIOSファイル名を紙に書き留めてください。プロンプトで正確なBIOSファイル名を入力する必要があります。

2. サポートCDからBIOSファイルを含むブート可能なフロッピーディスクにAFUDOS.EXEユーティリティをコピーします。
3. フロッピーディスクからシステムをブートします。

4. DOSプロンプトで、コマンドラインを入力します。

```
afudos /i<filename.rom>
```

"filename.rom"は、ブート可能なフロッピーディスクにコピーした最新の（またはオリジナルの）BIOSファイルを意味します。

画面は更新プロセスのステータスを表示します。



画面のBIOS情報は参照のためのものです。画面に表示される情報は、次の情報と異なっていることがあります。

```
A:\>afudos /ip4p800.rom
AMI Firmware Update Utility - Version 1.10
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

Reading file ..... done
Erasing flash .... done
Writing flash .... 0x0008CC00 (9%)
```



BIOSを更新している間、システムをシャットダウンまたはリセットしないでください! システムのブートエラーの原因となります!

BIOSの更新プロセスが完了したら、ユーティリティはDOSプロンプトに戻ります。

```
A:\>afudos /ip4p800.rom
AMI Firmware Update Utility - Version 1.10
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

Reading file ..... done
Erasing flash .... done
Writing flash .... 0x0008CC00 (9%)
Verifying flash .. done

A:\>
```

5. ハードディスクからシステムをリブートします。

4.1.3 ASUS EZフラッシュを使用して、BIOSを更新する

ASUS EZフラッシュ機能により、ディスクから長い起動プロセスを行ったりDOSベースのユーティリティを使用しなくても、BIOSを簡単に更新できます。EZフラッシュはBIOSファームウェアに組み込まれているため、電源オンセルフテスト(POST)の間に<Alt> + <F2>を押すだけでアクセスできます。

ASUS EZを使用してBIOSを更新するには、次の手順を実行します。

1. ASUSのWebサイト(www.asus.com)にアクセスしてマザーボードの最新のBIOSファイルをダウンロードし、そのファイル名をP4P800.ROMに変更します。BIOSファイルをフロッピーディスクに保存します。
2. システムをリブートします。
3. EZフラッシュを起動するには、POSTの間に<Alt> + <F2>を押して次を表示します。

```
User recovery requested. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
```



ドライブにフロッピーディスクが見つからない場合、「フロッピーが見つかりません」というエラーメッセージが表示されます。

フロッピーディスクに正しいBIOSファイルが見つからない場合、「P4P800.ROMが見つかりません!」というエラーメッセージが表示されます。

4. BIOSファイルを含むフロッピーディスクを挿入します。P4P800.ROM ファイルがフロッピーディスクに見つからない場合、EZフラッシュはBIOS更新プロセスを実行し、プロセスが完了したらシステムを自動的にリブートします。



BIOSを更新している間、システムをシャットダウンまたはリセットしないでください! システムのブートエラーが発生する原因となります!

```
User recovery requested. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
Floppy found!
Reading file "p4p800.rom". Completed.
Start flashing...
Flashed successfully. Rebooting.
```

4.1.4 CrashFree BIOS 2でBIOSを回復する

CrashFree BIOS 2自動回復ツールにより、マザーボードの現在のBIOSがエラーを起こしたり破損した場合、マザーボードのサポートCDから、またはBIOSファイルを含むフロッピーディスクからBIOSを自動的に回復できます。



1. BIOS更新プロセスを続行する前に、マザーボードに付属するサポートCDまたはマザーボードBIOS (P4P800.ROM) を含むフロッピーディスクを準備します。
2. オリジナルのマザーボードBIOSのコピーをブート可能なフロッピーディスクに保存している場合、このディスクを使用してBIOSを回復することもできます。「4.1.1 ブート可能なフロッピーディスクを作成する」をご覧ください。

フロッピーディスクからBIOSを回復するには、次の手順を実行します。

1. システムをブートします。
2. 破損したBIOSが検出された場合、次のメッセージが表示されます。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...  
Checking for floppy...
```

3. このマザーボードのオリジナルの、または最新のBIOSファイル (P4P800.ROM)を含むフロッピーディスクを挿入します。ASUSのWebサイトからダウンロードしたBIOSファイルが異なるファイル名 (例、P4P80011.ROM))を持っている場合、そのファイル名をP4P800.ROMに変更します。P4P800.ROMが見つかり、BIOS更新プロセスが続行します。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...  
Checking for floppy...  
Floppy found!  
Reading file ip4p800.rom. Completed.  
Start flashing...
```



BIOSを更新している間、システムをシャットダウンしたりリセットしないでください! システムのブートエラーの原因となります!

4. BIOSの更新プロセスが完了したら、システムをリブートしてください。

サポートCDからBIOSを回復するには、次の手順を実行します。

1. システムをブートします。
2. 破損したBIOSが検出されたら、次の画面メッセージが表示されます。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...  
Checking for floppy...
```



ドライブにフロッピーディスクが見つからない場合、システムはCD-ROM.を自動的にチェックします。

3. CD-ROM.にサポートCDを設置します。サポートCDには、このマザーボードのオリジナルBIOSが含まれています。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...  
Checking for floppy...  
Floppy not found!  
Checking for CD-ROM...  
CD-ROM found.  
Reading file ip4p800.rom. Completed.  
Start flashing...
```



BIOSを更新している間、システムをシャットダウンしたりリセットしないでください! システムのブートエラーの原因となります!

4. BIOSの更新プロセスが完了したら、システムをリブートしてください。



回復されたBIOSは、このバイオスの最新のBIOSバージョンでないことがあります。ASUSのWebサイト(www.asus.com)にアクセスして、最新のBIOSファイルをダウンロードしてください。

4.2 BIOSセットアッププログラム

本マザーボードはプログラム可能なファームウェアハブ(FWH)をサポートしており、「4.1 BIOSの管理と更新」で述べた付属ユーティリティを使用して更新できます。

マザーボードを取り付けているとき、システムを再構成しているとき、または「セットアップの実行」を指示されたとき、BIOSセットアッププログラムを使用してください。本項では、このユーティリティを使用して構成する方法を説明します。

セットアッププログラムを使用するように指示されない場合でも、将来コンピュータの構成を変更する必要がある場合もあります。例えば、セキュリティパスワード機能を有効にしたり、電源管理設定を変更する必要があるかもしれません。この場合、コンピュータがこれらの変更を認識してファームウェアハブのCMOS RAMでそれらの変更を記録できるように、BIOSセットアッププログラムを使用してシステムを再構成する必要があります。

マザーボードのファームウェアハブには、セットアップユーティリティが格納されています。コンピュータを起動するとき、システムはこのプログラムを実行する機会を提供します。電源オンセルフテスト(POST)の間、<Delete>を押してセットアップユーティリティに入ってください。<Delete>を押さないと、POSTはテストルーチンを続行します。

POST後にセットアップに入る場合、<Ctrl> + <Alt> + <Delete>を押して、システムシャーシのリセットボタンを押して、システムを再起動してください。システムの電源をオフにしてから再びオンにすることも、再起動できます。これは、最初の2つが失敗した場合に、最後の選択肢としてのみ行ってください。

セットアッププログラムは、できるだけ使いやすいように設計されています。これは、メニュー制御のプログラムです。これによって、さまざまなサブメニューをスクロールし、ナビゲーションキーを使用して利用可能なオプションから選択できることになります。



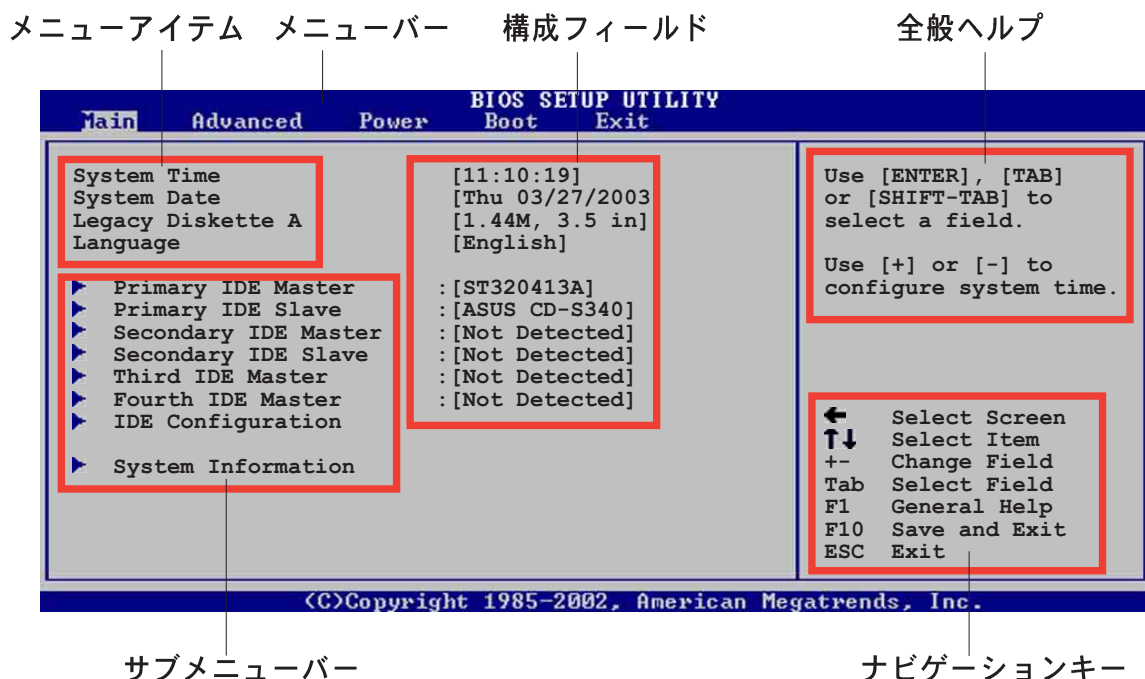
BIOS設定を変更した後、システムが不安定になった場合、デフォルトの設定をロードしてシステムの安定性を確認してください。終了メニューの下で、デフォルト設定のロードを選択します。「4.7 終了メニュー」をご覧ください。



本章で示したBIOSセットアップ画面は、参照のためのものです。画面の表示と全く同じでないこともあります。

ASUSのWebサイト(www.asus.com)にアクセスして、最新の製品とBIOS情報をダウンロードしてください。

4.2.1 BIOSメニュー画面



4.2.2 メニューバー

画面上部のメニューには、次のメインアイテムがあります。

- | | |
|-----|--------------------------|
| メイン | 基本構成システムを変更 |
| 詳細 | システムの詳細設定を変更 |
| 電源 | 拡張電源管理(APM)構成を変更 |
| ブート | システムブート構成を変更 |
| 終了 | 終了オプションを選択し、デフォルトの設定をロード |

メニューバーのアイテムを選択するには、希望するアイテムが強調表示されるまで、キーボードの右または左矢印キーを押します。

4.2.3 ナビゲーションキー

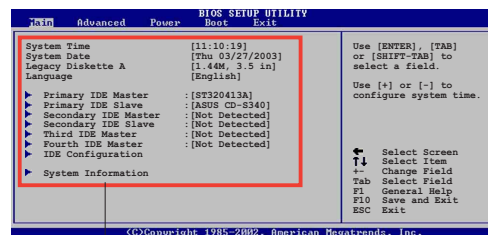
メニュー画面の右下隅にはその特定メニューのナビゲーションキーがあります。ナビゲーションキーを使用すると、メニューのアイテムを選択して設定を変更できます。



一部のナビゲーションキーは、画面ごとに異なります。

4.2.4 メニューアイテム

メニューバーの強調表示されたアイテムは、そのメニューに特定のアイテムを表示します。例えば、メインを選択すると、メインのメニューアイテムが表示されます。



メニューバーのその他のアイテム（詳細、電源、ブート、終了）には、それぞれ別のメニューアイテムがあります。

4.2.5 サブメニューアイテム

全てのメニュー画面でサブメニューのあるアイテムは、アイテムの前の黒三角で区別されています。サブメニューを表示するには、アイテムを選択してEnterを押します。

4.2.6 構成フィールド

これらのフィールドは、メニューアイテムの値を表示します。アイテムがユーザー構成可能である場合、アイテムの反対のフィールドの値を変更できます。ユーザー構成可能でないアイテムは、変更することができません。

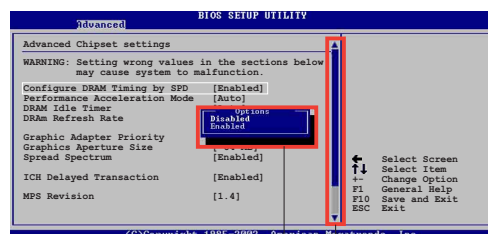
構成可能なフィールドはカッコで囲まれ、選択すると強調表示されます。フィールドの値を変更するには、その値を選択してからEnter押し、オプションの一覧を表示します。「4.2.7 ポップアップウィンドウ」を参照してください。

4.2.7 ポップアップウィンドウ

メニューアイテムを選択してからEnterを押すと、そのアイテムの構成オプションの付いたポップアップウィンドウが表示されます。

4.2.8 スクロールバー

スクロールバーは、画面に収まりきらないアイテムがあるとき、メニュー画面の右側に表示されます。上/下矢印キーまたはPageUp/PageDownキーを押すと、画面に他のアイテムが表示されます。



ポップアップ
ウィンドウ スクロールバー

4.2.9 全般ヘルプ

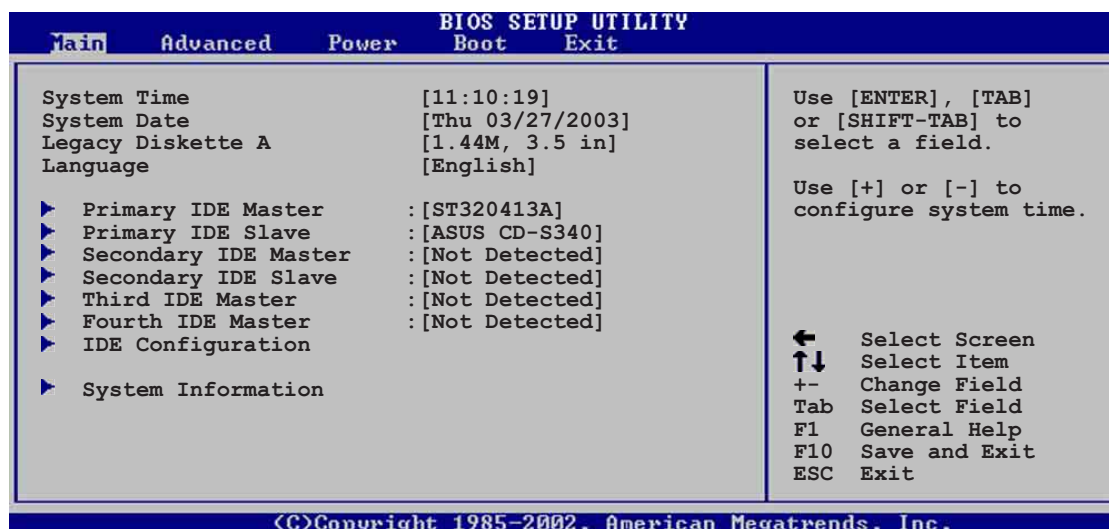
メニュー画面の右上隅には、選択したアイテムの簡単な説明が表示されます。

4.3 メインメニュー

BIOSセットアッププログラムに入るとき、メインのメニュー画面が表示され、基本システム情報の概要が提供されます。



メニュー画面アイテムの情報およびその情報をナビゲートする方法については、「4.2.1 BIOSメニュー画面」を参照してください。



4.3.1 システムの時間[xx:xx:xxxx]

このアイテムによって、システム時間を設定できます。

4.3.2 システムの日付 [日 xx/xx/xxxx]

このアイテムによって、システムの日付を設定できます。

4.3.3 古いタイプのディスク A [1.44M, 3.5 in.]

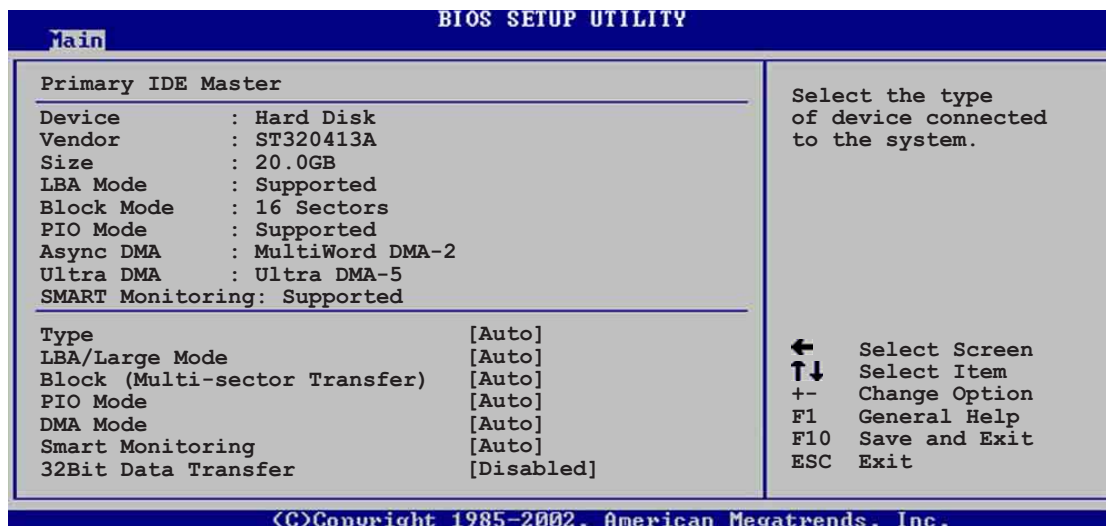
取り付けられているフロッピードライブのタイプを設定します。構成オプション: [無効] [360K, 5.25 in.] [1.2M, 5.25 in.] [720K, 3.5 in.] [1.44M, 3.5 in.] [2.88M, 3.5 in.]

4.3.4 言語 [英語]

このフィールドによって、利用可能なオプションからBIOS言語バージョンを選択できます。

4.3.5 1次および2次IDE マスタ/スレーブ

セットアップに入っている間、BIOSはIDEデバイスの存在を自動検出します。それぞれのIDEデバイスに対して個々のサブメニューがあります。デバイスのアイテムを選択してからEnterを押すと、IDEデバイス情報が表示されます。



淡色表示されたアイテム（デバイス、ベンダー、サイズ、LBAモード、PIOモード、Async DMA、Ultra DMA、SMART監視）の反対側にある値はBIOSによって自動検出され、ユーザーの側で構成することはできません。これらのアイテムは、IDEがシステムに取付けられていなければ、N/Aを表示します。

タイプ [Auto]

IDEドライブのタイプを選択します。CD-ROMドライブを特別に構成しているとき、Autoを設定することによって、適切なIDEデバイスタイプを自動選択することができます。お使いのデバイスがZIP、LS-120、MOドライブのどれかである場合、ARMD (ATAPIリムーバブルメディアデバイス)を選択してください。構成オプション: [Not Installed] [Auto] [CDROM] [ARMD]

LBA/ラージモード [Auto]

LBAモードの有効/無効を切り替えます。デバイスがこのモードをサポートしていればLBAモードを自動有効に設定します。また、デバイスがLBAモードで前もってフォーマットされていない場合、無効に設定します。構成オプション: [Disabled] [Auto]

ブロック(マルチセクタ転送) [Auto]

マルチセクタ転送の有効/無効を切り替えます。自動に設定されているとき、デバイスからのまたはデバイスへのデータ転送は、デバイスがマルチセクタ機能をサポートしている場合、一度で複数のセクタを発生します。無効に設定されている場合、デバイスからのまたはデバイスへのデータ転送は、一度で1つのセクタを発生します。構成オプション: [Disabled] [Auto]

PIO モード [Auto]

PIOモードを選択します。構成オプション: [Auto] [0] [1] [2] [3] [4]

DMA モード [Auto]

DMAモードを選択します。構成オプション: [Auto] [SWDMA0] [SWDMA1] [SWDMA2] [MWDMA0] [MWDMA1] [MWDMA2] [UDMA0] [UDMA1] [UDMA2] [UDMA3] [UDMA4] [UDMA5]

SMART モニタリング [Auto]

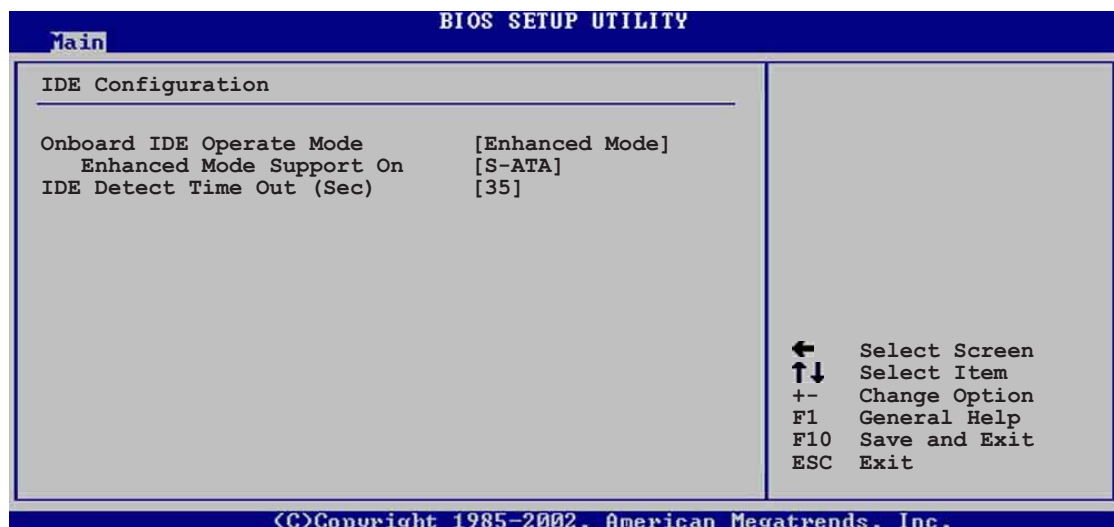
Smartモニタリング、分析、リポータリングテクノロジーを設定します。構成オプション: [Auto] [Disabled] [Enabled]

32ビットデータ転送 [Disabled]

32ビットデータ転送の有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

4.3.6 IDE構成

このメニューのアイテムによって、システムに取付けられているIDEデバイスの構成を設定または変更できます。アイテムを選択したい場合、アイテムを選択してから、Enterを押してください。



オンボードIDE操作モード [Enhanced Mode]

インストールされているオペレーティングシステム(OS)に従って、IDE操作モードを選択できます。Windows 2000/XPなどのネイティブOSを使用している場合、詳細モードに設定します。MS-DOS、Windows ME/98/NT4.0などの古いタイプのOSを使用している場合、互換モードに設定します。

構成モード: [Compatible Mode] [Enhanced Mode]



異なるオペレーティングシステムの下における、IDE構成アイテムの適切な設定については、2-24ページの「パラレルATAとシリアルATAデバイス構成」を参照してください。

[S-ATA]でのエンハnstモードのサポート

デフォルトS-ATA設定により、シリアルATAおよびパラレルATAポートでネイティブのOSを使うことができます。OS互換性を損なう原因となるので、デフォルトの設定を変更しないようにお勧めします。この設定で、シリアルATAデバイスを一切取り付けていない場合のみ、パラレルATAポートで古いタイプのOSを使用できます。

P-ATA+S-ATA とP-ATA オプションは上級ユーザー専用です。これらのオプションのどれかを設定して問題が発生した場合、デフォルト設定S-ATAに戻ってください。

構成オプション: [P-ATA+S-ATA] [S-ATA] [P-ATA]



エンハnstモードサポートオンは、アイテムオンボードIDE操作モードがエンハnstモードに設定されている場合のみ、表示されます。

RAID [No]としてS-ATA を構成する

このフィールドはS-ATAを構成してコントローラまたはRAIDとして機能します。構成オプション: [Yes] [No]

シリアルATA BOOTROM [Enabled]

このフィールドは、シリアルATAブートROMの有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]



シリアルATA BOOTROM アイテムは、RAIDとしてS-ATAを構成するが[Yes]に設定されているときのみ、表示されます。

IDE ポート設定[Primary P-ATA+S-ATA]

古いタイプのオペレーティングシステムを使用している場合、IDEポートの選択をアクティブにできます。1次パラレルATAとシリアルATAポートを使用したい場合、[Primary P-ATA+S-ATA]に設定します。または、その代わりに2次P-ATAポートを有効にするには、[Secondary P-ATA+SATA]に設定します。[P-ATA Ports Only]に設定すると、ICH5によってサポートされる2つのシリアルATAポートを無効にします。構成オプション: [Primary P-ATA+S-ATA] [Secondary P-ATA+S-ATA] [P-ATA Ports Only]



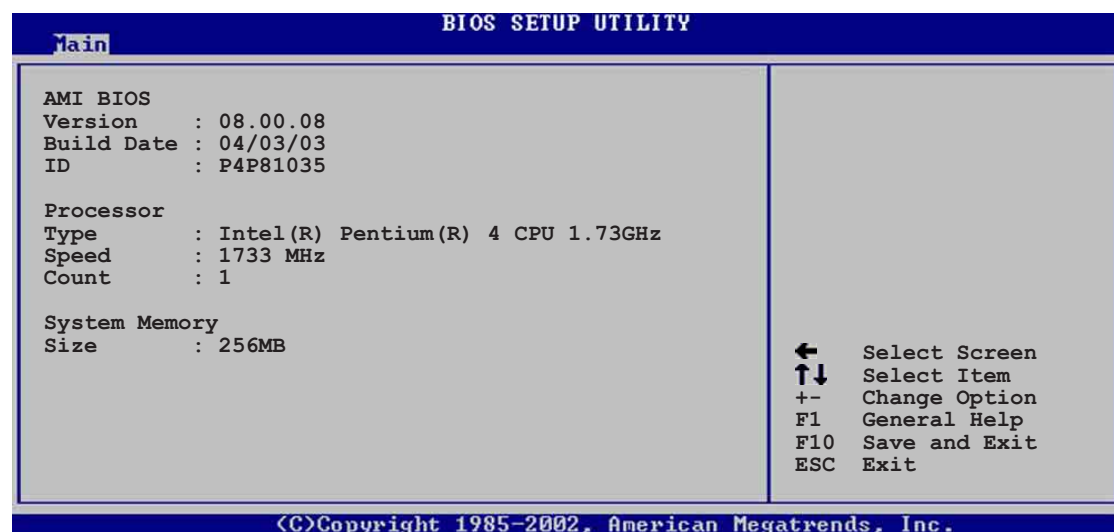
IDEポート設定は、アイテムオンボードIDE操作モードが互換モードに設定されている場合のみ表示されます。

IDE 検出タイムアウト [35]

ATA/ATAPIデバイスを検出するためのタイムアウト値を選択します。構成オプション: [0] [5] [10] [15] [20] [25] [30] [35]

4.3.7 システム情報

このメニューは、全般的システム仕様の概観を提供します。メニューのアイテムはBIOSにより自動検出されます。



AMI BIOS

このアイテムは、自動検出されたBIOS情報を表示します。

プロセッサ

このアイテムは、自動検出されたCPU仕様を表示します。

システムメモリ

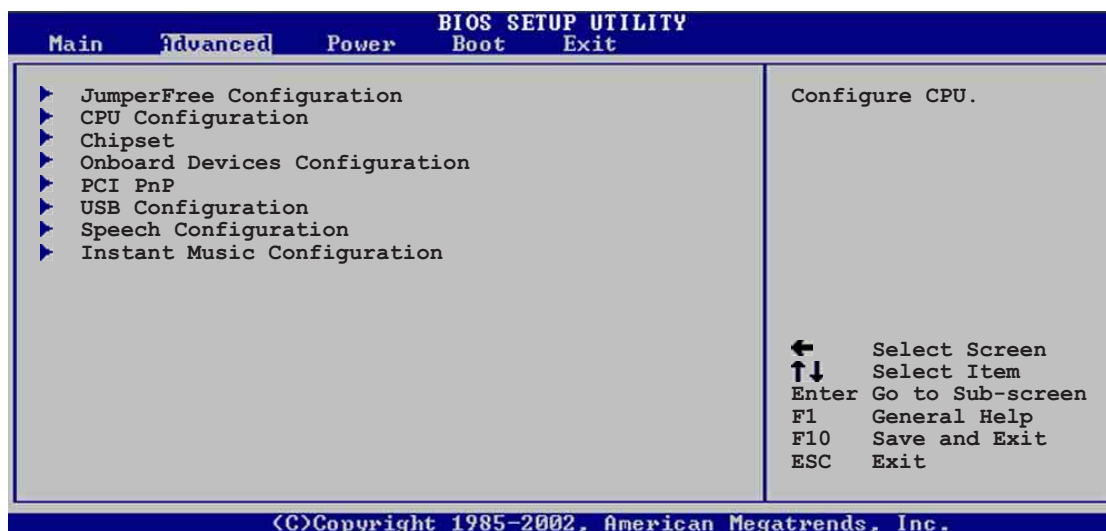
このアイテムは、自動検出されたシステムメモリを表示します。

4.4 詳細メニュー

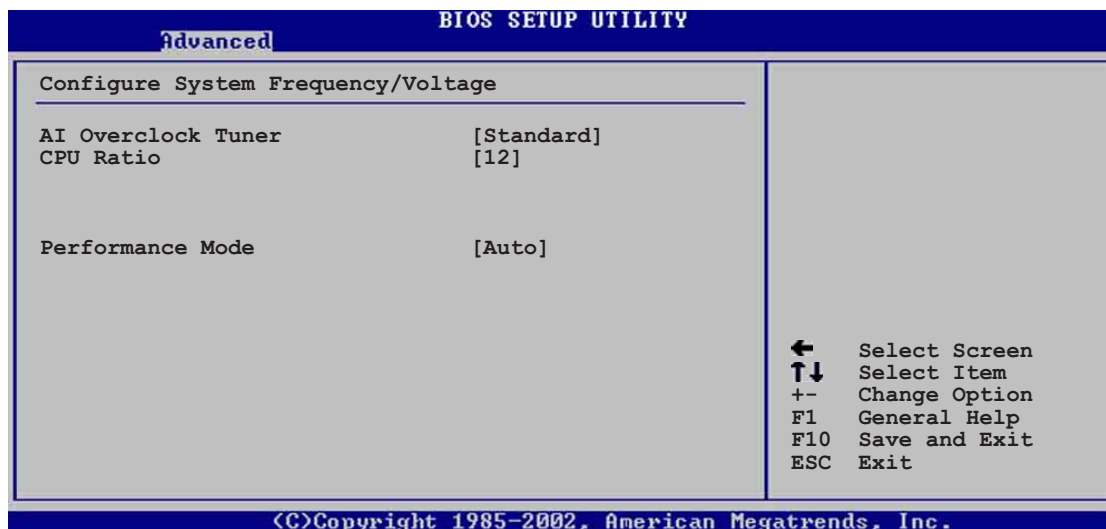
詳細メニューアイテムにより、CPUおよびその他のシステムデバイス用の設定を変更できます。



詳細メニューアイテムの設定を変更するときは、注意してください。フィールド値を間違えると、システムが誤作動する原因となります。



4.4.1 ジャンプフリー構成



AIオーバークロックチューナー [Standard]

希望する内部CPU周波数を達成するために、CPUオーバークロックオプションを選択できるようにします。現在のオーバークロックオプションのどれかを選択してください。構成オプション: [Manual] [Standard] [Overclock 5%] [Overclock 10%] [Overclock 20%] [Overclock 30%]



きわめて高いCPU周波数を選択すると、システムが不安定になります! この場合、デフォルト設定に戻してください。



ロックされていないCPUを使用している場合、アイテムCPU比がAIオーバークロックチューナーアイテムの下に表示されます。利用可能なオプションから、希望する比を選択することができます。

CPU 比 [12]

このフィールドは、CPUコアクロックとフロンとサイドバス(FSB)周波数の間の比を設定します。

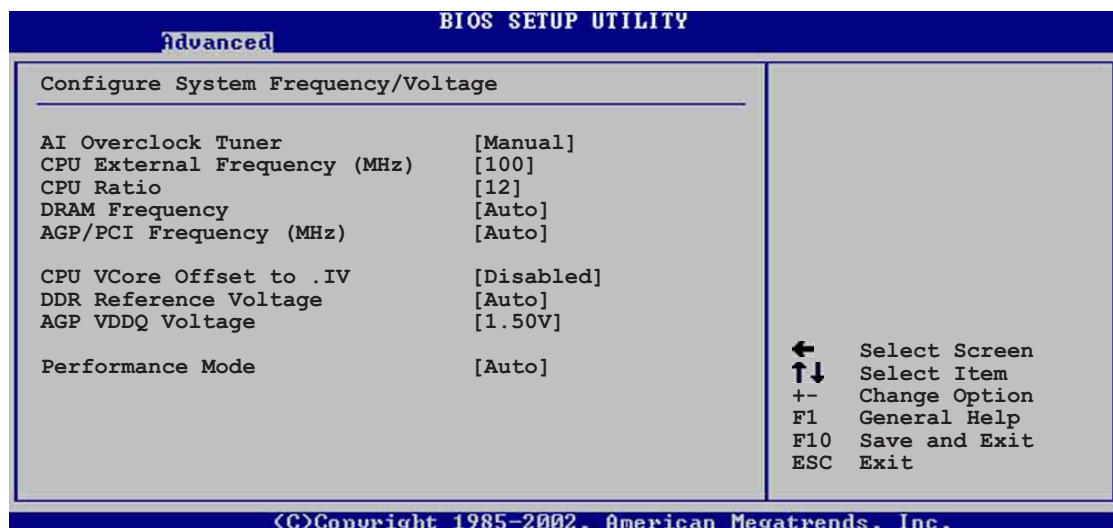


無効な比がCMOSで設定されていると、実際の値と設定値は異なります。

パフォーマンスモード [Auto]

エンハンスドシステムパフォーマンスを可能にします。[Turbo]に設定すると、システムは不安定になります。この場合、デフォルトの設定 [Auto]に戻してください。構成オプション: [Auto] [Standard] [Turbo]

AIオーバークロックチューナーアイテムを[Manual]に設定すると、関連するオーバークロックアイテムが表示されます。



CPU外部周波数 (MHz) [XXX] (値は自動検出されます)

クロックジェネレータにより、システムバスとPCIバスに送信された周波数を指示します。バス周波数(外部周波数)に複数のバスを掛けると、CPU速度になります。このアイテムの値はBIOSにより自動検出され、手動で構成することはできません。値は、100から400までです。

Table 4.4.1 FSB/CPU 外部同期周波数

正面バス	CPU 外部周波数
FSB 800	200 MHz
FSB 533	133 MHz
FSB 400	100 MHz

DRAM 周波数 [Auto]

DDR操作周波数を設定できます。構成オプション: [266 MHz] [333 MHz] [400 MHz] [Auto]

AGP/PCI周波数 (MHz) [Auto]

高いAGP/PCI周波数に調整すると、システムパフォーマンスとオーバークロック機能を高めることができます。構成オプション: [Auto] [66.66/33.33] [72.73/36.36] [80.00/40.00]



きわめて高いAGP/PCI周波数を選択すると、システムが不安定になります! この場合、デフォルト設定に戻してください。

CPU VCore電圧 [Auto]

CPU VCore電圧を選択できるようになります。構成オプション: [Auto] [1.6000V] ... [1.4750V]



CPU VCore電圧を設定する前に、CPUマニュアルを参照してください。Vcore電圧を高くすると、CPUをひどく損傷することがあります。

DDR 参照電圧 [Auto]

DDR SDRAM 操作電圧を選択できるようになります。構成オプション: [2.85V] [2.75V] [2.65V] [2.55V] [Auto]

AGP VDDQ 電圧 [1.50V]

AGP操作電圧を選択できるようになります。構成オプション: [1.80V] [1.70V] [1.60V] [1.50V]

パフォーマンスモード [Auto]

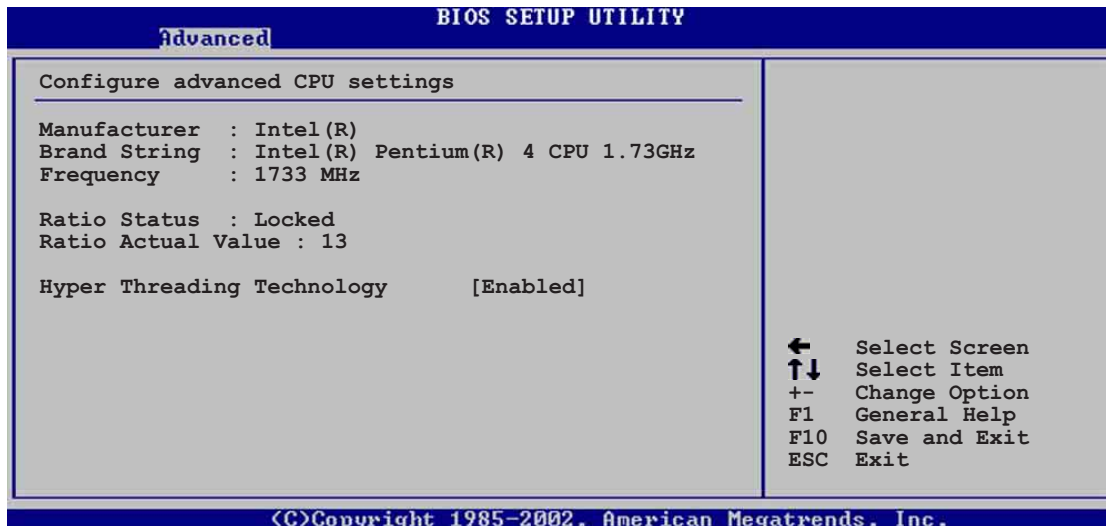
システムパフォーマンスを高めることができます。構成オプション: [Auto] [Standard] [Turbo]



ターボに設定すると、システムが不安定になります! この場合、デフォルトの設定を自動に戻してください。

4.4.2 CPU 構成

このメニューのアイテムは、BIOSによって自動検出されたCPU関連情報を表示します。



ハイパースレッドテクノロジー [Enabled]

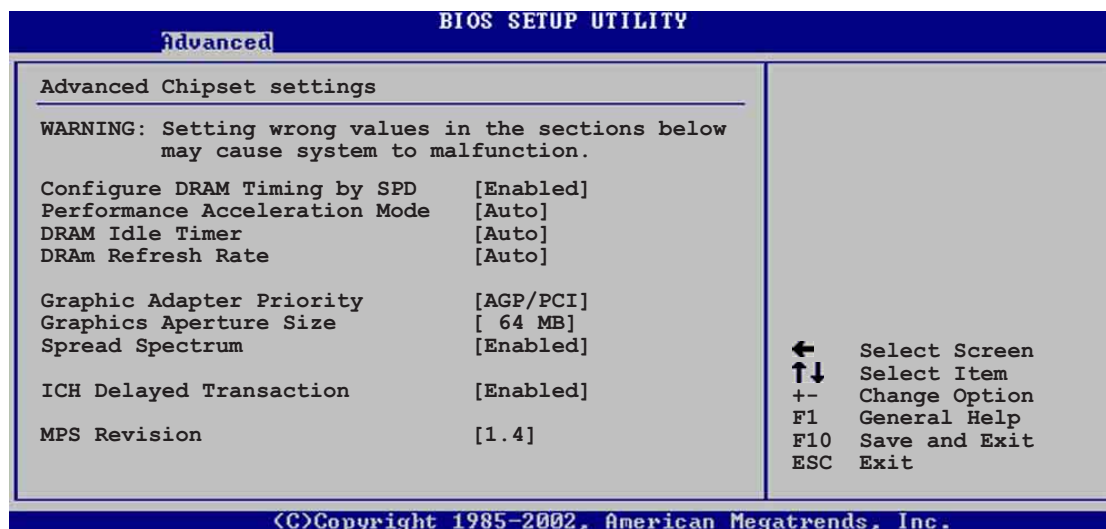
このアイテムによって、プロセッサの有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]



アイテムハイパースレッドテクノロジーは、この機能をサポートする Intel Pentium 4 CPUを取付けている場合のみ表示されます。

4.4.3 チップセット

チップセットメニューでは、詳細なチップセット設定の変更が可能です。アイテムを選択してからEnterを押すと、サブメニューが表示されます。



SPDによりDRAMタイミングを構成する [Enabled]

このアイテムが有効になっているとき、DRAMタイミングパラメータはDRAM SPD（シリアルプレゼンスディクト）に従って設定されます。無効になっているとき、DRAMサブアイテムを通してDRAMタイミングパラメータを手動で設定できます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

メモリアクセラレーションモード [Auto]

このフィールドは[Enabled]に設定されているとき、CPUからメモリへの待ち時間を最小限にして、システムパフォーマンスを高めます。構成オプション: [Auto] [Enabled]



[Enabled]に設定すると、システムが不安定になります! この場合、デフォルトの設定[Auto]に戻ってください。

DRAM アイドルタイマー [Auto]

構成オプション: [Infinite] [0T] [8T] [16T] [64T] [Auto]

DRAM リフレッシュモード [Auto]

構成オプション: [Auto] [15.6 uSec] [7.8 uSec] [64 uSec] [64T]



上のアイテムのどれかの設定を変更した後システムが不安定になったら、デフォルトの設定に戻してください。



次のサブアイテムは、アイテムSPDによるDRAMタイミングの構成が無効に設定されているときのみ、表示されます。

DRAM CAS# Latency [2.5 Clocks]

このアイテムは、SDRAMのリードコマンドとデータを実際に利用できるようになる時間のレイテンシを制御します。構成オプション: [2.0 Clocks] [2.5 Clocks] [3.0 Clocks]

DRAM RAS# Precharge [4 Clocks]

このアイテムは、DDR SDRAMにprechargeコマンドを発行した後のアイドルクロックを制御します。構成オプション: [4 Clocks] [3 Clocks] [2 Clocks]

DRAM RAS# to CAS# Delay [4 Clocks]

このアイテムは、DDR SDRAMアクティブコマンドと読み込み/書き込みコマンドの間のレイテンシを制御します。構成オプション: [4 Clocks] [3 Clocks] [2 Clocks]

DRAM Precharge Delay [8 Clocks]

構成オプション: [8 Clocks] [7 Clocks] [6 Clocks] [5 Clocks]

DRAM Burst Length [4 Clocks]

構成オプション: [4 Clocks] [8 Clocks]

グラフィックスアダプタの優先順位 [AGP/PCI]

1次ブートデバイスを使用するための、グラフィックスコントローラを選択できます。構成オプション: [AGP/PCI] [PCI/AGP]

グラフィックスアパチャーサイズ [64MB]

AGPグラフィックデータ用にマップされたメモリのサイズを選択できます。構成オプション: [4MB] [8MB] [16MB] [32MB] [64MB] [128MB] [256MB]

スペクトラム拡散 [Enabled]

このフィールドは、クロックジェネレータのスペクトラム拡散の有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

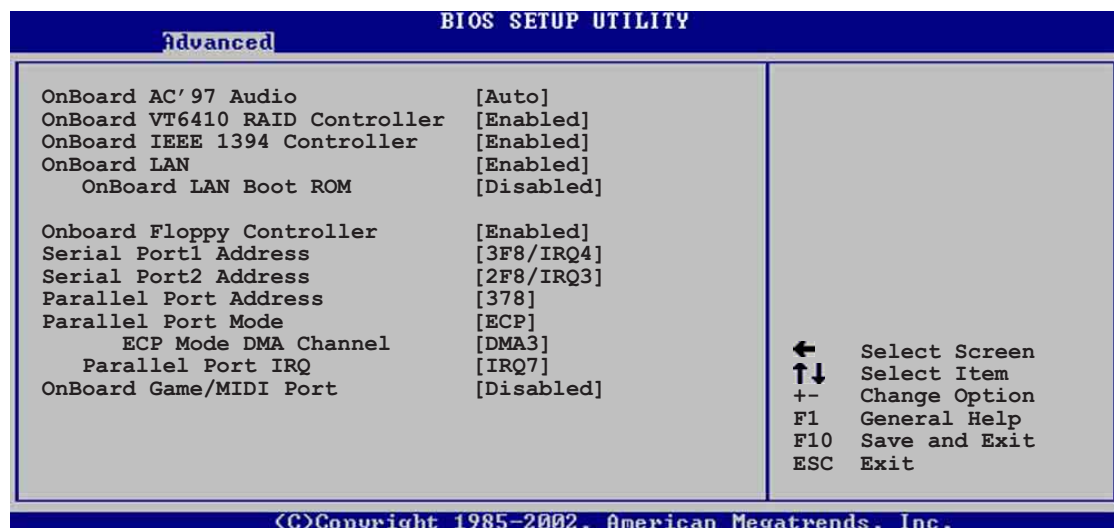
ICH 遅延トランザクション [Enabled]

構成オプション: [Disabled] [Enabled]

MPS リビジョン [1.1]

構成オプション: [1.1] [1.4]

4.4.4 オンボードデバイス構成



オンボード AC' 97 オーディオ [Auto]

[Auto]によって、BIOSはオーディオデバイスが使用されているかどうかを検出できます。オーディオデバイスが検出されれば、オンボードオーディオコントローラは有効になり、オーディオデバイスが検出されなければ、コントローラは無効になります。構成オプション: [Disabled] [Auto]

オンボードVT6410 RAIDコントローラ [Enabled]

オンボードVIA[®] VT6410 RAIDコントローラの有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

オンボード IEEE 1394 コントローラ [Enabled]

オンボードIEEE 1394コントローラの有効/無効の切り替えが可能です。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

オンボード LAN [Enabled]

オンボードLANコントローラの有効/無効の切り替えが可能です。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

オンボードLAN Boot ROM [Disabled]

オンボードLANコントローラで、オプションROMの有効/無効の切り替えが可能です。このアイテムは、オンボードLANアイテムが有効に設定されている場合のみ表示されます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

オンボードフロッピーコントローラ [Enabled]

フロッピーディスクコントローラの有効/無効の切り替えが可能です。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

シリアルPort1 アドレス [3F8/IRQ4]

シリアルPort1ベースアドレスを選択できます。構成オプション: [Disabled] [3F8/IRQ4] [3E8/IRQ4] [2E8/IRQ3]

シリアルPort2 アドレス [2F8/IRQ3]

シリアルPort2ベースアドレスを選択できます。構成オプション: [Disabled] [2F8/IRQ3] [3E8/IRQ4] [2E8/IRQ3]

パラレルポートアドレス [378]

パラレルポートベースアドレスを選択できます。構成オプション: [Disabled] [378] [278] [3BC]

パラレルポートモード [ECP]

パラレルポートモードの選択を可能にします。構成オプション: [Normal] [Bi-directional] [EPP] [ECP]

ECP モードDMA チャンネル [DMA3]

構成オプション: [DMA0] [DMA1] [DMA3]

パラレルポート IRQ [IRQ7]

構成オプション: [IRQ5] [IRQ7]

オンボードゲーム/MIDIポート [Disabled]

ゲームポートアドレスを選択したり、ポートを無効にできます。構成オプション: [Disabled] [200/300] [200/330] [208/300] [208/330]

4.4.5 PCI PnP

PCI PnPメニューアイテムによって、PCI/PnPデバイスの詳細設定を変更できます。メニューには、PCI/PnPまたは古いタイプのISAデバイスに対してはIRQとDMAチャンネルリソースの設定が、また古いタイプのISAデバイスに対してはメモリサイズブロックの設定が含まれます。



PCI PnPメニューアイテムの設定を変更するときは、注意してください。フィールド値を間違えると、システムが誤作動を起こす原因となります。



プラグアンドプレイO/S [No]

[No]に設定されていると、BIOSはシステムの全てのデバイスを構成します。[Yes]に設定されているときにプラグアンドプレイオペレーティングシステムをインストールしていると、オペレーティングシステムはブートに必要なでないプラグアンドプレイデバイスを構成します。構成オプション: [No] [Yes]

PCIレイテンシタイマ [64]

PCIデバイスレイテンシタイマレジスタに対して、PCIクロックの値を選択できます。構成オプション: [32] [64] [96] [128] [160] [192] [224] [248]

IRQ をPCI VGAに割り当てる [Yes]

[Yes]に設定されていると、BIOSはPCI VGAカードがIRQを要求している場合、カードにIRQを割り当てます。[No]に設定されていると、BIOSはたとえ要求されても、PCI VGA カードにIRQを割り当てません。構成オプション: [No] [Yes]

パレットスヌープ [Disabled]

[Enabled]に設定されていると、パレットスヌープ機能はISAグラフィックスデバイスが正しく機能するように、このデバイスがシステムに取り付けられていることをPCIデバイスに通知します。[Disabled]に設定されていると、この機能を無効にします。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

PCI IDE バスマスタ [Enabled]

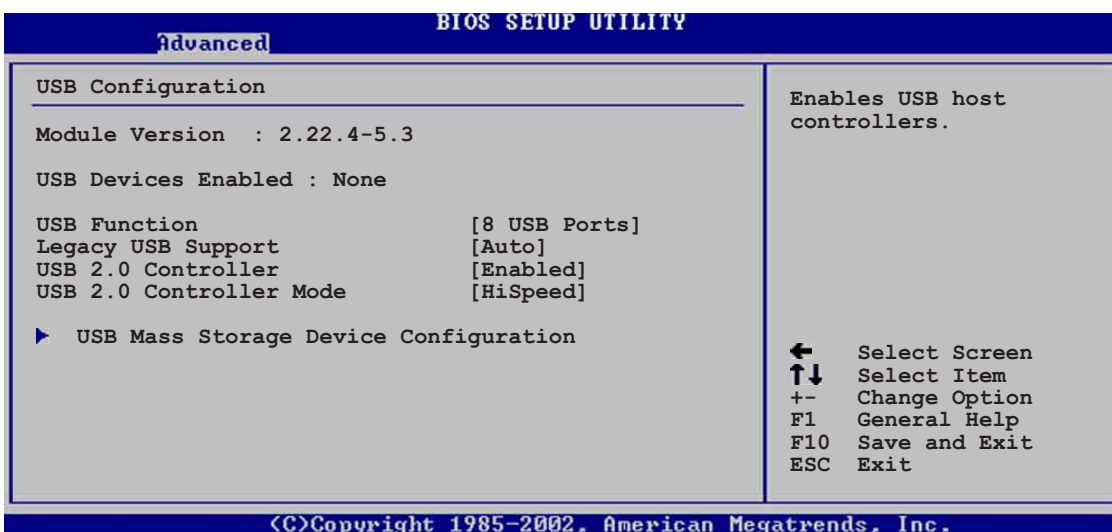
BIOSは、IDEデバイスに読み込み/書き込みを行っているとき、バスマスタリングを使用できます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

IRQ xx [Available]

[Available]に設定されていると、特定のIRQはPCI/PnPデバイスを自由に使用できます。[Reserved]に設定されていると、IRQは古いタイプのISAデバイス用に割り当てられます。構成オプション: [Available] [Reserved]

4.4.6 USB 構成

このメニューのアイテムによって、USB関連機能を変更できます。アイテムを選択してからEnterを押すと、構成オプションが表示されます。



モジュールバージョンとUSBデバイスEnabledアイテムは、自動検出された値を表示します。USBデバイスが検出されると、アイテムは「なし」を表示します。

USB 機能 [8 USB Ports]

アクティブにするUSBポートの数を設定できます。構成オプション:
[Disabled] [2 USB Ports] [4 USB Ports] [6 USB Ports] [8 USB Ports]

古いタイプのUSBのサポート [Auto]

古いタイプのUSBデバイスのサポートの有効/無効の切り替えが可能です。自動的に設定すると、システムは起動時にUSBデバイスの存在を検出できます。検出されると、USBコントローラレガシーモードは有効になります。USBデバイスが検出されないと、古いタイプのUSBサポートは無効になります。構成オプション: [Disabled] [Enabled] [Auto]

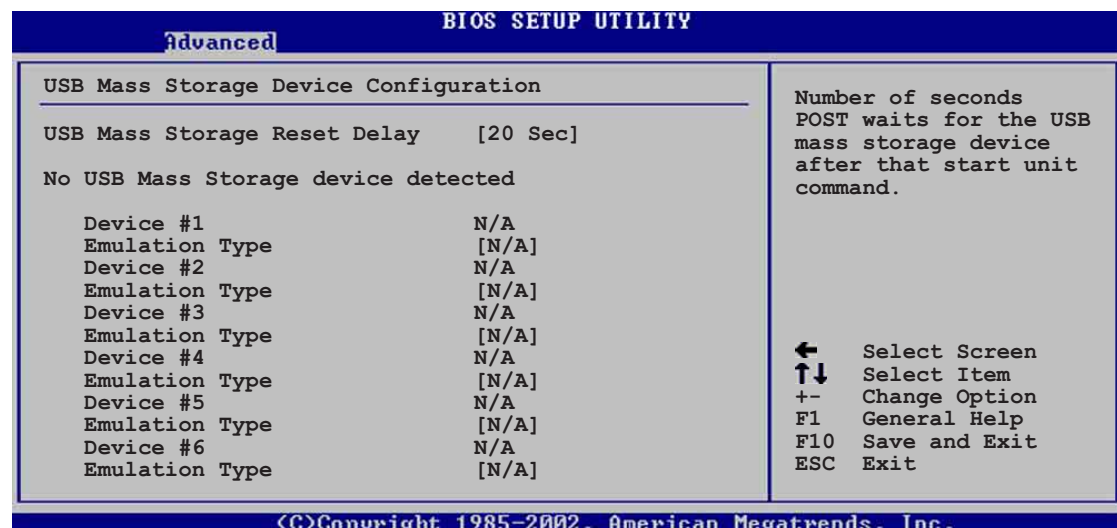
USB 2.0 コントローラ [Enabled]

USB 2.0コントローラの有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

USB 2.0 コントローラモード [HiSpeed]

HiSpeed (480 Mbps)でまたはFull Speed (12 Mbps)で、USB 2.0コントローラを構成できます。構成オプション: [HiSpeed] [Full Speed]

USB大容量記憶装置構成



USB 大容量記憶装置リセット遅延 [20 Sec]

スタートユニットコマンドの後、USB大容量記憶装置に対するPOST待機の秒数を選択できます。システムに何もインストールされていなければ、「USB大容量記憶装置が検出されませんでした」というメッセージが表示されます。構成オプション: [10 Sec] [20 Sec] [30 Sec] [40 Sec]

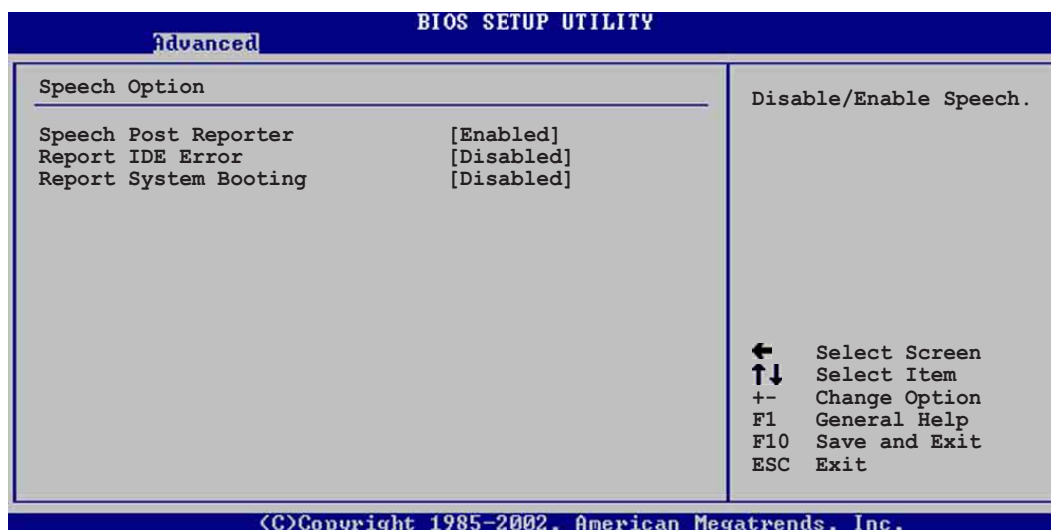
エミュレーションタイプ [N/A]

自動に設定されているとき、530MB以下の容量のUSBデバイスはフロッピードライブとして、残りのドライブはハードドライブとしてエミュレートされます。強制FDDオプションはHDDフォーマットされたドライブをFDDとして強制的にブートするために使用できます（例、ZIPドライブ）。



デバイスとエミュレーションタイプのアイテムは、取り付けられているUSBデバイスがある場合のみ表示されます。

4.4.7 スピーチ構成



Speech POST Reporter [Enabled]

ASUS Speech POST Reporter 機能の有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]



次のアイテムは、Speech POST Reporterが有効に設定されている場合のみ、表示されます。

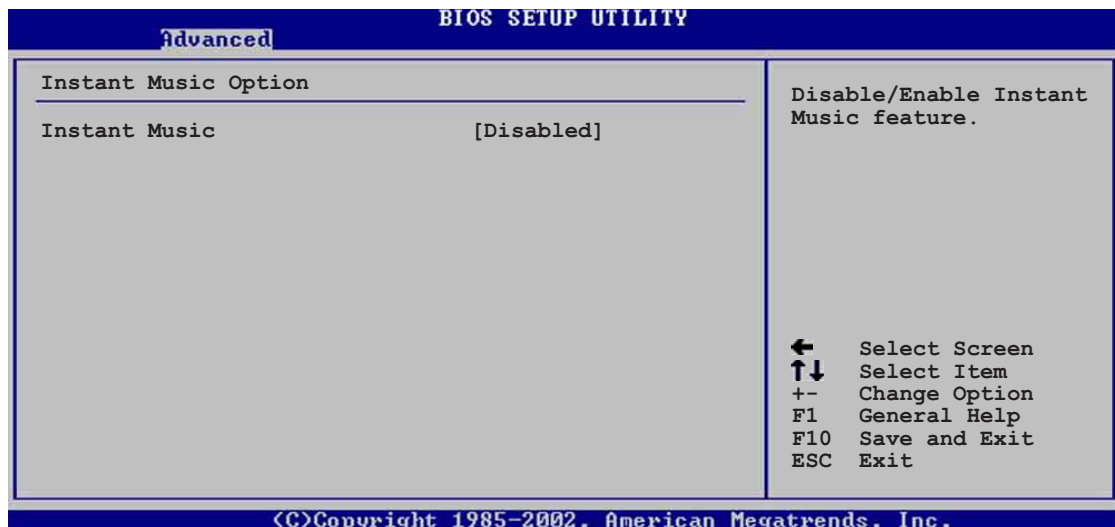
IDEエラーのレポート [Disabled]

構成オプション: [Disabled] [Enabled]

システムブートのレポート [Disabled]

構成オプション: [Disabled] [Enabled]

4.4.8 インスタントミュージック構成



インスタントミュージック [Disabled]

BIOSでインスタントミュージック機能の有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]



インスタントミュージックが有効になっていると、PS/2 キーボードの電源アップ機能は自動的に無効になります。

インスタントミュージックCD-ROMドライブ [IDE Secondary Master]

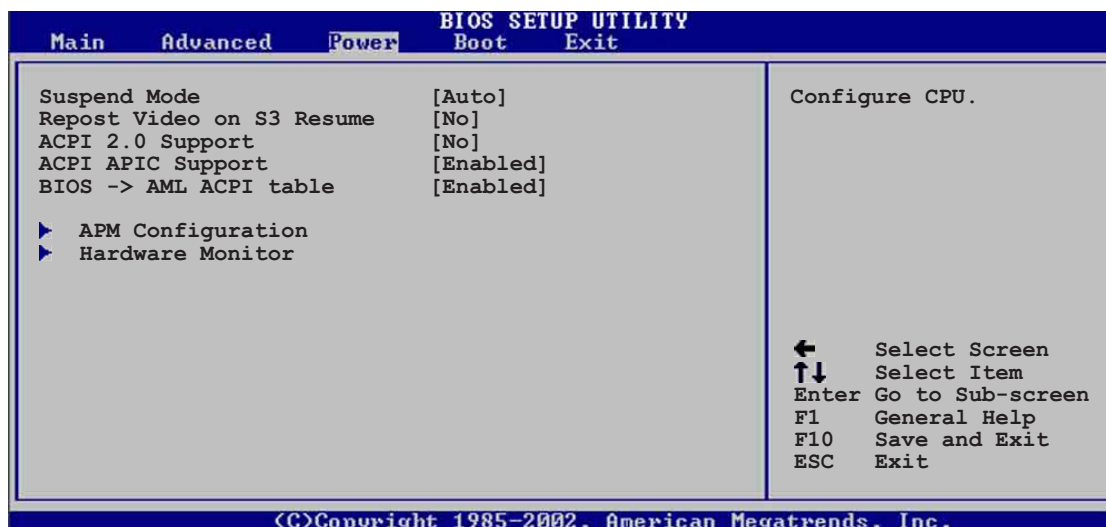
インスタントミュージックCD再生に対して使用するCD-ROMドライブを選択できます。構成オプション: [IDE Primary Master] [IDE Primary Slave] [IDE Secondary Master] [IDE Secondary Slave]



上のアイテムは、インスタントミュージックアイテムを有効にしている場合のみ表示されます。

4.5 電源メニュー

電源メニューアイテムによって、アドバンストパワーマネージメント (APM) の設定を変更できます。アイテムを選択してからEnterを押すと、構成オプションが表示されます。



4.5.1 サスペンドモード [Auto]

システムサスペンド用に使用するACPI状態を選択できます。構成オプション: [S1 (POS) Only] [S3 Only] [Auto]

4.5.2 Video on S3 Resumeの再ポスト [No]

VGA BIOS POST on S3/STR レジュームを呼び起こすかどうか決定します。構成オプション: [No] [Yes]

4.5.3 ACPI 2.0のサポート [No]

ACPI 2.0仕様に対してさらに表を追加できます。構成オプション: [No] [Yes]

4.5.4 ACPI APIC のサポート [Enabled]

ASICでACPIサポートの有効/無効を切り替えることができます。有効に設定されていると、ACPI APIC 表ポインタはRSDTポインタに含まれます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

4.5.5 BIOS -> AML ACPI 表 [Enabled]

BIOS ->AML変換ポインタの(X)RSDTポインター一覧への組み込みの有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

4.5.6 APM 構成

BIOS SETUP UTILITY	
Power	
APM Configuration	
Power Management/APM	[Enabled]
Video Power Down Mode	[Suspend]
Hard Disk Power Down Mode	[Suspend]
Suspend Time Out	[Disabled]
Throttle Slow Clock Ratio	[50%]
System Thermal	[Disabled]
Power Button Mode	[On/Off]
Restore on AC Power Loss	[Power Off]
Power On By RTC Alarm	[Disabled]
Power On By External Modem	[Disabled]
Power On By PCI Devices	[Disabled]
Power On By PS/2 Keyboard	[Disabled]
Power On By PS/2 Mouse	[Disabled]

Enabled or disable APM.

← Select Screen
↑↓ Select Item
+- Change Option
F1 General Help
F10 Save and Exit
ESC Exit

©Copyright 1985-2002, American Megatrends, Inc.

パワーマネージメント/APM [Enabled]

アドバンストパワーマネージメント(APM)機能の有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

ビデオのパワーダウンモード [Suspend]

ビデオのパワーダウンモードを選択できます。構成オプション: [Disabled] [Standby] [Suspend]

ハードディスクのパワーダウンモード [Suspend]

ハードディスクのパワーダウンモードを選択できます。構成オプション: [Disabled] [Standby] [Suspend]

サスペンドのタイムアウト [Disabled]

システムがサスペンドに入る指定時間を選択できます。構成オプション: [Disabled] [1-2 Min] [2-3 Min] [4-5 Min] [8-9 Min] [10 Min] [20 Min] [30 Min] [40 Min] [50 Min] [60 Min]

スロットルスロークロック比 [50%]

スロットルモードでデューティサイクルを選択できます。構成オプション: [87.5%] [75.0%] [62.5%] [50%] [37.5%] [25%] [12.5%]

システムサーマル [Disabled]

パワーマネージメントイベントを生成するための、システムサーマル機能の有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

電源ボタンモード [On/Off]

電源ボタンを押したとき、システムはオン/オフモードにまたはサスペンドモードに入ることができます。構成オプション: [On/Off] [Suspend]

AC電源損失の復元 [Power Off]

電源オフに設定されていると、AC電源損失の後システムはオフ状態に入ります。電源オンに設定されていると、AC電源損失の後システムはオン状態に入ります。最後の状態に設定されていると、AC電源損失の後のシステムの状態には関わらず、システムはオンまたはオフ状態に入ります。構成オプション: [Power Off] [Power On] [Last State]

RTCアラームによる電源オン [Disabled]

呼び起こしイベントを生成するために、RTCの有効/無効を切り替えることができます。このアイテムが有効に設定されていると、アイテムRTCアラーム日、RTCアラーム時間、RTCアラーム分、RTCアラーム秒が設定値で表示されます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

外部モデムによる電源オン [Disabled]

これによって、コンピュータがソフトオフモードに入っている間に外部モデムが呼び出しを受信すると、コンピュータの電源を入れるかどうかの [Enabled] または [Disabled] の設定をできるようになります。構成オプション: [Disabled] [Enabled]



コンピュータとアプリケーションが完全に実行されるまで、コンピュータはデータの送受信を行うことができません。従って、一度で接続を行うことはできません。コンピュータがオフになっている間に、外部モデムをオフにしてからオンにすると、初期化ストリングによりシステムの電源はオンになります。

PCIデバイスによる電源オン [Disabled]

[Enabled] に設定されているとき、このパラメータにより、PCI LAN またはモデムカードを通してシステムの電源をオンにできます。この機能は、+5VSB リードで少なくとも1Aを提供するATX電源装置を必要とします。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

PS/2キーボードによる電源オン [Disabled]

このパラメータにより、キーボードの特定のキーを使用してシステムの電源をオンにできます。この機能は、+5VSB リードで少なくとも1Aを提供するATX電源装置を必要とします。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

PS/2マウスによる電源オン [Disabled]

[Enabled]に設定しているとき、このパラメータにより、PS/2マウスを使用してシステムの電源をオンにできます。この機能は、+5VSB リードで少なくとも1Aを提供するATX電源装置を必要とします。構成オプション:
[Disabled] [Enabled]

4.5.7 ハードウェアモニタ

BIOS SETUP UTILITY	
Power	
Hardware Monitor	CPU temperature
CPU Temperature [44°C/111°F]	
MB Temperature [36°C/96.5°F]	
Power Temperature [N/A]	
Q-Fan Control [Disabled]	
Fan Speed Ratio [11/16]	
CPU Fan Speed [2250RPM]	
Chassis Fan Speed [XXX RPM]	
Power Fan Speed [XXX RPM]	
VCORE Voltage [1.550V]	← Select Screen
3.3V Voltage [3.386V]	↑↓ Select Item
5V Voltage [4.890V]	+ - Change Option
12V Voltage [11.900V]	F1 General Help
	F10 Save and Exit
	ESC Exit

©Copyright 1985-2002, American Megatrends, Inc.

MB 温度 [xxxC/xxxF]

CPU 温度 [xxxC/xxxF]

POWER 温度 [N/A]

オンボードのハードウェアモニタは、マザーボード、CPU、電源装置の温度を自動的に検出して表示します。検出された温度を表示したくない場合は、無効を選択してください。

Q-Fan コントロール [Disabled]

このアイテムにより、ASUS Q-Fan機能の有効/無効を切り替え、システムをより効率的に操作するためにファン速度をスマートに調整できます。このフィールドを[Enabled]に設定すると、ファン速度比アイテムが表示されて、適切なファン速度比を選択できます。構成オプション:
[Disabled] [Enabled]

ファン速度比 [11/16]

このアイテムによって、システムの適切なファン速度比を選択できます。デフォルト[11/16]は最小のファン速度比です。追加デバイスを取り付ける場合、またはシステムがさらに強力な換気を要求する場合、もっと高い比を選択してください。構成オプション:[11/16][12/16][13/16][14/16][15/16]



上のアイテムは、Q-Fanコントロールアイテムが有効に設定されている場合のみ、表示されます。

CPU ファン速度 [xxxxRPM] または [N/A]

シャーシファン速度 [xxxxRPM] または [N/A]

電源ファン速度 [xxxxRPM] または [N/A]

オンボードハードウェアモニタは、CPU、シャーシ、電源ファンの毎分の回転速度(RPM)を自動的に検出して表示します。ファンのどれかがマザーボードに接続されていない場合、特定のフィールドがN/Aを表示します。

VCORE 電圧、 +3.3V 電圧、 +5V 電圧、 +12V 電圧

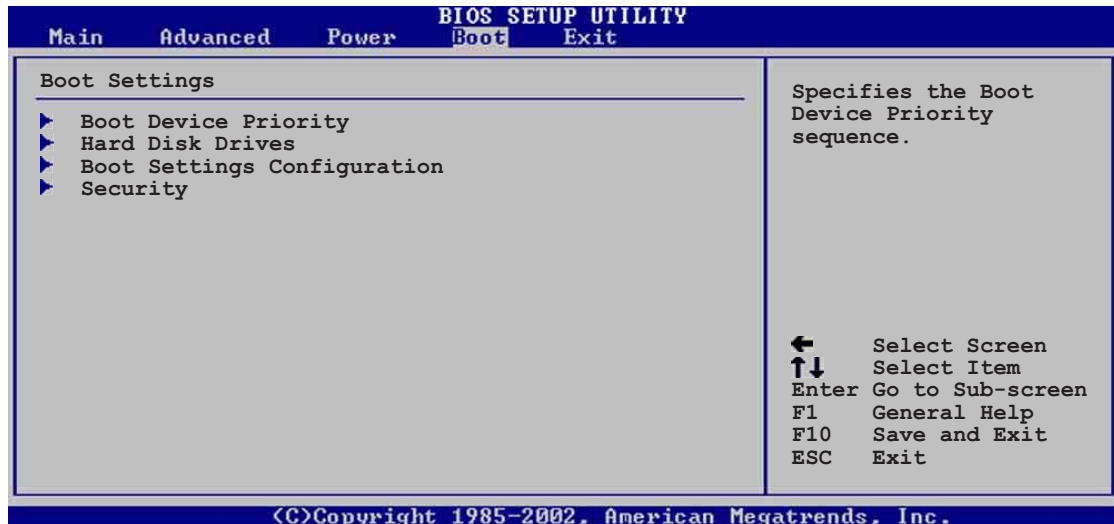
オンボードハードウェアモニタは、オンボード電圧レギュレータを通して電圧出力を自動的に検出します。



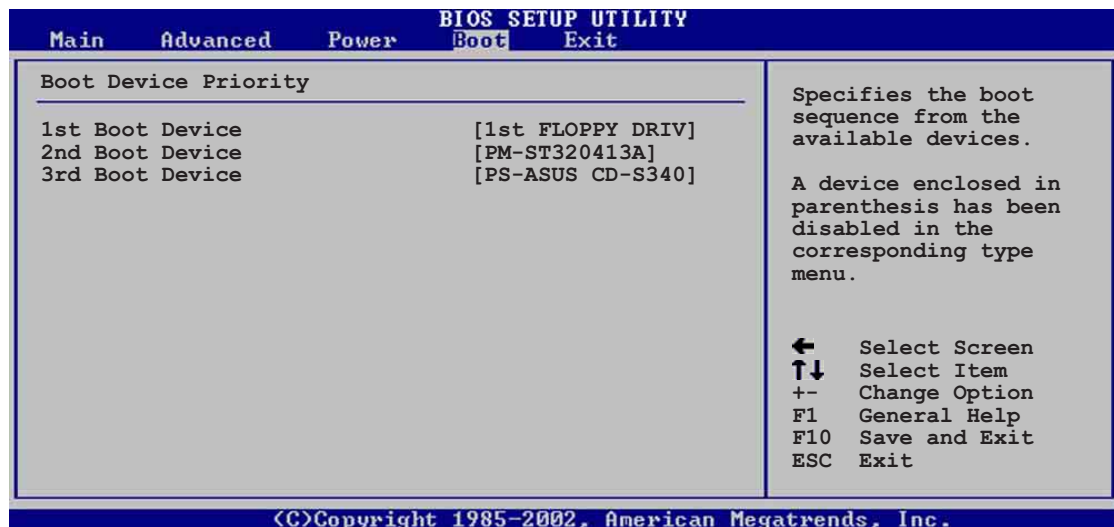
マザーボードアイテムのどれかが範囲から外れていると、次のエラーメッセージが表示されます:「ハードウェアモニタがエラーを検出しました。詳細は、電源セットアップメニューに入ってください」。次に、「F1を押して続行するか、DELを押してセットアップに入ってください」という指示メッセージが表示されます。

4.6 ブートメニュー

ブートメニューアイテムによって、システムのブートオプションを変更できます。アイテムを選択しEnterを押すと、サブメニューが表示されます。



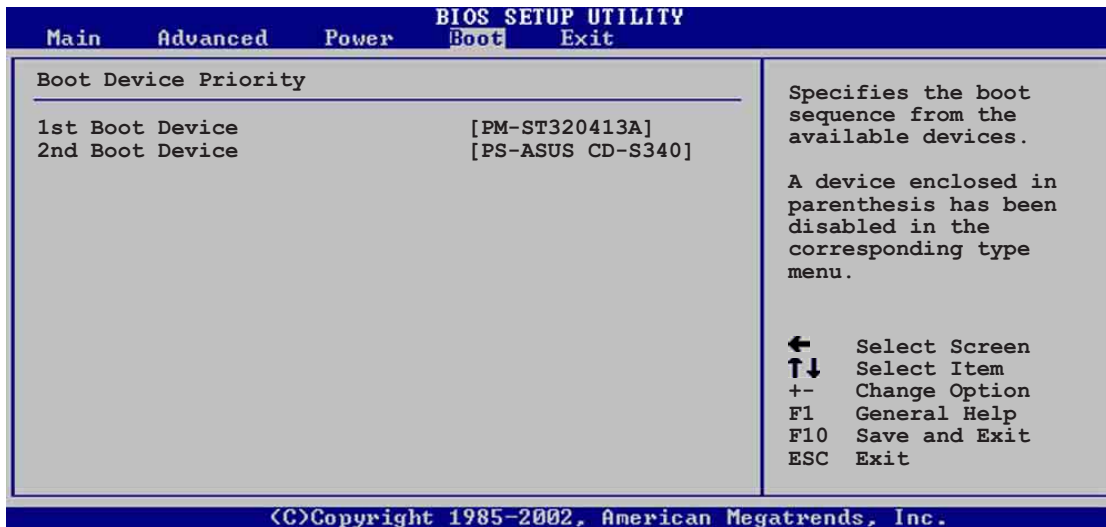
4.6.1 ブートデバイスのプライオリティ



1st ~ xxth ブートデバイス [1st Floppy Drive]

これらのアイテムは、利用可能なデバイスからブートデバイスの優先順位を指定します。画面に表示されるデバイスアイテムの数は、システムに取り付けられているデバイスの数によって異なります。構成オプション:
[xxxxx Drive] [Disabled]

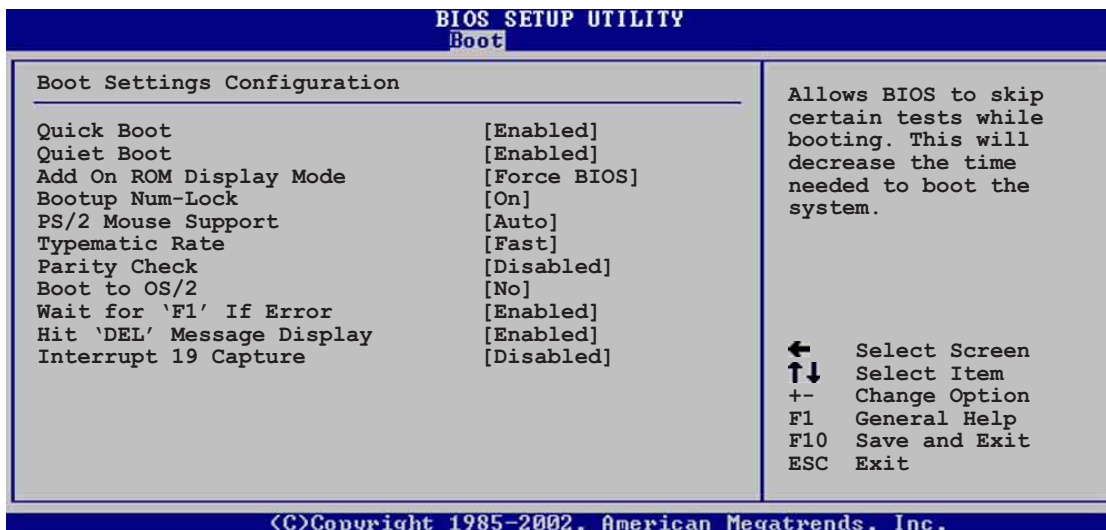
4.6.2 ハードディスクドライブ



1st ~ xxth ブートデバイス [(ハードディスクドライブのモデル名)]

これらのアイテムは利用可能なハードディスクドライブからブートデバイス優先順位のシーケンスを指定します。画面に表示されるアイテムの数は、システムに取り付けられているハードディスクドライブの数に依存します。構成オプション: [xxxxx Drive] [Disabled]

4.6.3 ブート設定構成



クイックブート [Enabled]

このアイテムを有効にすることによって、BIOSはブートしながら一部のパワーオンセルフテスト(POST)をスキップして、システムのブートに必要な時間を削減できます。[Disabled]に設定していると、BIOSは全てのPOSTアイテムを実施します。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

クワイエットブート [Enabled]

[Disabled]に設定すると、標準のPOSTメッセージが表示されます。
[Enabled]に設定すると、POSTメッセージの代わりにOEMロゴが表示されます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

アドオンROM 表示モード [Force BIOS]

オプションROMに対して、表示モードを設定します。構成オプション:
[Force BIOS] [Keep Current]

起動Num-Lock [On]

NumLockの電源オン状態を選択できます。構成オプション: [Off] [On]

PS/2 マウスサポート [Auto]

PS/2マウスのサポートの有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled] [Auto]

タイプマティックレート [Fast]

キーボードのタイプマティックレートを選択できます。構成オプション:
[Slow] [Fast]

パリティチェック [Disabled]

メモリのパリティエラーチェックの有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

OS/2にブート [No]

OS/2互換モードを指定できます。構成オプション: [No] [Yes]

エラー時に"F1"を待つ [Enabled]

有効に設定していると、システムはエラーが発生したときにF1が押されるのを待ちます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

"DEL" を押すというメッセージの表示 [Enabled]

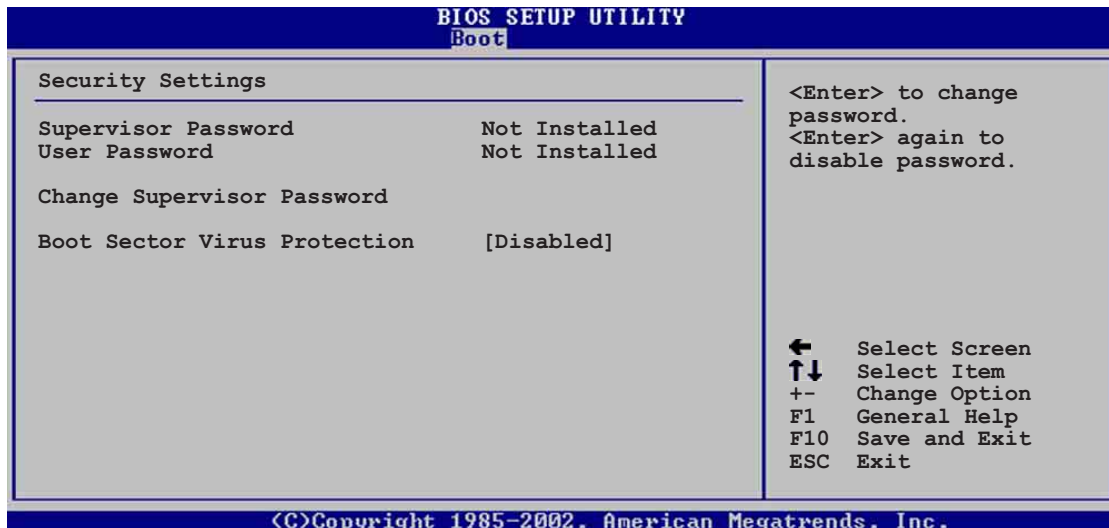
有効に設定されていると、システムはPOSTの間「DELを押してセットアップを実行」というメッセージを表示します。構成オプション:
[Disabled] [Enabled]

割り込み 19 のキャプチャ [Disabled]

[Enabled]に設定しているとき、この機能によってオプションROMは割り込み19にトラップできます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

4.6.4 セキュリティ

セキュリティメニューアイテムによって、システムのセキュリティ設定を変更できます。アイテムを選択してEnterを押すと、構成オプションが表示されます。



管理者パスワードの変更

この相手区を選択するか、管理者パスワードを変更します。画面の上部にある管理者パスワードは、デフォルトのインストールされていないを表示します。パスワードを設定した後、このアイテムはインストール済みを表示します。

管理者パスワードを設定するには、次の手順を実行します。

1. 管理者パスワードアイテムの変更を選択し、Enterを押します。
2. 表示されるパスワードボックスに、文字と数字から成るパスワードを入力し、Enterを押します。パスワードは6文字以上でなければなりません。
3. 要求されたら、パスワードを確認します。
パスワードが正常に設定されたら、「パスワードが設定されました」というメッセージが表示されます。

管理者パスワードアイテムが、これでインストールされたことを示します。

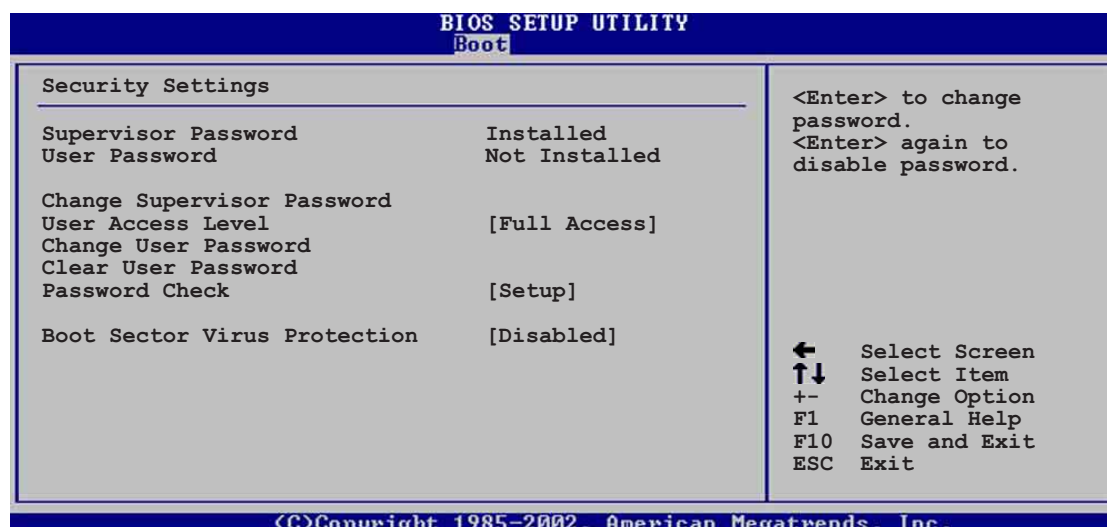
管理者パスワードを変更するには、ユーザーパスワードを設定するときと同じ手順を実行します。

管理者パスワードを消去するには、管理者パスワードの変更を選択し、Enterを押します。「パスワードが削除されました」というメッセージが表示されます。



BIOSパスワードを忘れた場合、CMOS リアルタイムクロック (RTC) RAMを消去することによって消去できます。RTC RAMを消去する方法については、「2.7 ジャンパ」をご覧ください。

管理者パスワードを設定すると、他のアイテムが表示され、他のセキュリティ設定を変更できるようになります。



ユーザーアクセスレベル (Full Access]

このアイテムによって、セットアップアイテムへのアクセス制限を選択できます。構成オプション: [No Access] [View Only] [Limited] [Full Access]

アクセスなしは、セットアップユーティリティへのユーザーアクセスを妨げます。

表示のみは、アクセスを許可しますが、フィールドの変更は一切許可しません。

制限付きは、日付や時間などの選択されたフィールドのみの変更を許可します。

フルアクセスは、セットアップユーティリティの全てのフィールドの表示と変更を許可します。

ユーザーパスワードの変更

このアイテムを選択すると、ユーザーパスワードを設定したり変更できます。画面上部のユーザーパスワードアイテムは、デフォルトの設定されていませんを表示します。パスワードを設定した後、このアイテムは設定されましたを表示します。

ユーザーパスワードを設定するには、次の手順を実行します。

1. ユーザーパスワードの変更アイテムを選択し、Enterを押します。
2. 表示されるパスワードボックスに、文字と数字から成るパスワードを入力し、Enterを押します。パスワードは6文字以上でなければなりません。
3. 要求されたら、パスワードを確認します。
パスワードが正常に設定されたら、「パスワードが設定されました」というメッセージが表示されます。
ユーザーパスワードアイテムは、設定されましたを表示します。

ユーザーパスワードを変更するには、ユーザーパスワードを設定するときと同じ手順を実行します。

ユーザーパスワードの消去

ユーザーパスワードを消去したい場合、このアイテムを選択します。

パスワードのチェック [Setup]

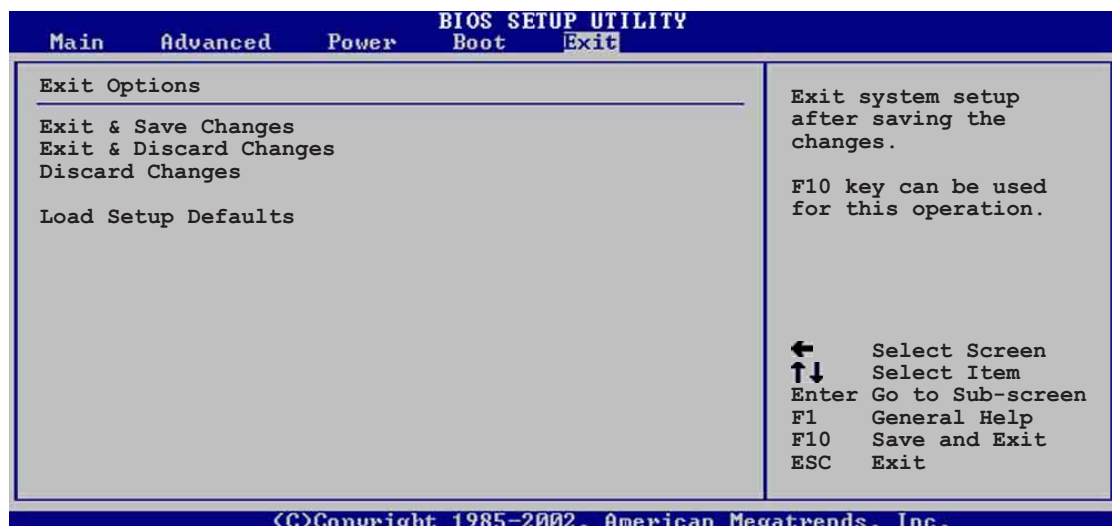
[Setup]に設定されていると、BIOSはセットアップユーティリティにアクセスするときユーザーパスワードをチェックします。[Always]に設定されているとき、BIOSはセットアップにアクセスしシステムをブートするとき、ユーザーパスワードをチェックします。構成オプション: [Setup] [Always]

ブートセクタウィルス保護 [Disabled]

ブートセクタウィルス保護の有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

4.7 メニューの終了

終了メニューアイテムによって、BIOSアイテムに対して最適のまたはフェールセーフのデフォルト値をロードし、BIOSアイテムへの変更を保存したり破棄できます。



<Esc>を押しても、このメニューは直ちに終了しません。このメニューからどれかのオプションを選択するか、ツールバーから<F10>を選択して終了します。

変更を保存して終了

選択を終了したら、終了メニューからこのオプションを選択して、選択した値がCMOS RAMに保存されていることを確認します。CMOS RAMはオンボードのバックアップバッテリーに保存され、PCの電源をオフにしても消えることはありません。このオプションを選択すると、確認ウィンドウが表示されます。[Yes]を選択すると、変更を保存して終了します。



変更を保存せずにセットアッププログラムを終了しようとする、プログラムは終了する前に変更を保存するかどうか尋ねるメッセージを表示します。<Enter>を押すと、終了するときに変更を保存します。

変更を破棄して終了

このオプションは、セットアッププログラムに行った変更を保存したくないときだけ、選択します。システムの日付やシステムの時間、パスワード以外のフィールドを変更すると、BIOSは終了する前に確認を求めます。

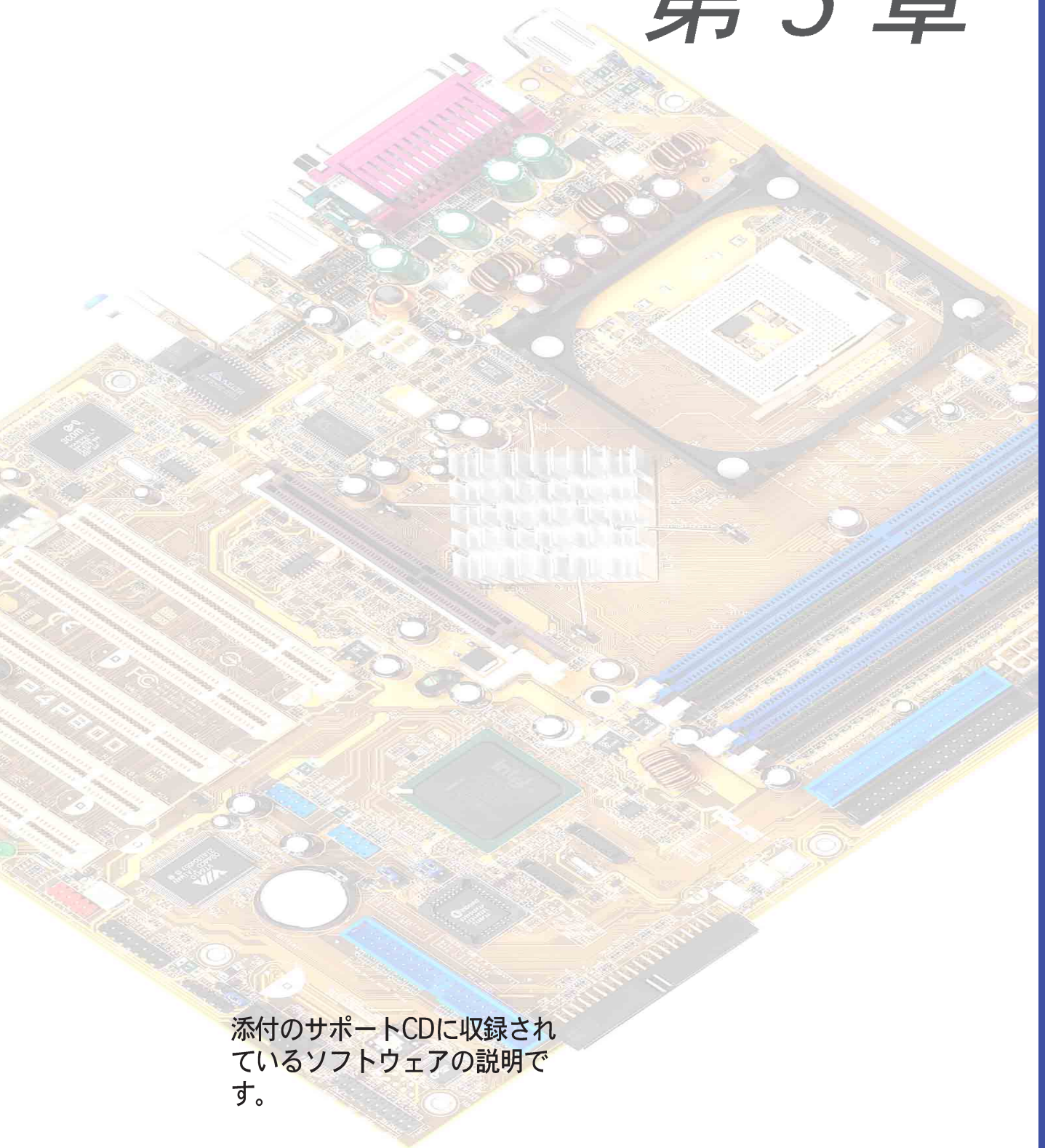
変更の破棄

このオプションによって、行った変更を破棄しそれまでに保存された値を復元します。このオプションを選択すると、確認が表示されます。[Yes]を選択すると、変更を破棄しそれまでに保存した値をロードします。

セットアップデフォルトのロード

このオプションによって、セットアップメニューのそれぞれのパラメータに関するデフォルト値をロードします。このオプションを選択すると、または<F5>を押すと、確認ウィンドウが表示されます。[Yes]を押すと、デフォルト値がロードされます。値を不揮発性RAMに保存する前に、変更を保存して終了を選択するか、他の変更を行ってください。

第5章



添付のサポートCDに収録されているソフトウェアの説明です。

サポートソフトウェア

本章の内容

5.1 OSのインストール	5-1
5.2 サポートCDについて	5-1
5.3 ソフトウェア情報	5-7
5.4 RAID 0 / RAID 1 / RAID 0+1 / JBOD 構成	5-25
5.5 シリアルATA構成用のIntel® RAID	5-34
5.6 Makedisk.exeの使用	5-38
5.7 3Com® Virtual Cable Tester™(VCT) テクノロジー	5-39

5.1 OSのインストール

本マザーボードは Windows 98SE/ME/2000/XP および OS/2 に対応しています。ハードウェアの最新機能を利用するために、各OSは最新バージョンのものを用いてください。



マザーボードの設定やオプション、拡張カードには様々な種類があります。次章からの説明は一般的な例で、お使いのシステムと異なる場合があります。

5.2 サポートCDについて

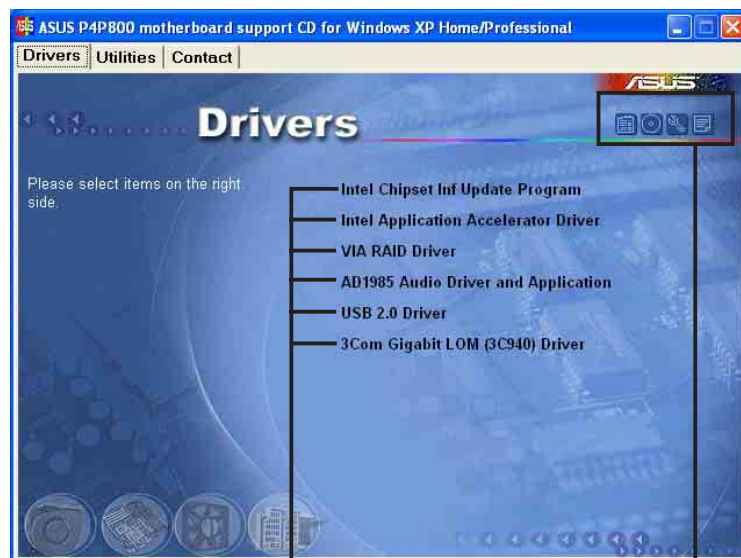
添付のサポートCDには、本マザーボードに必要なドライバ、ソフトウェアおよびユーティリティが含まれています。OSのインストール後に、必ずインストールしてください。



サポートCDの内容は、予告なしに変更される場合があります。最新情報についてはASUSのWEBサイトをご覧ください。

5.2.1 サポートCDの起動方法

サポートCDを使うには、CD-ROMドライブにCDを挿入します。ドライバメニューが自動起動します。



インストールしたい項目をクリックします。

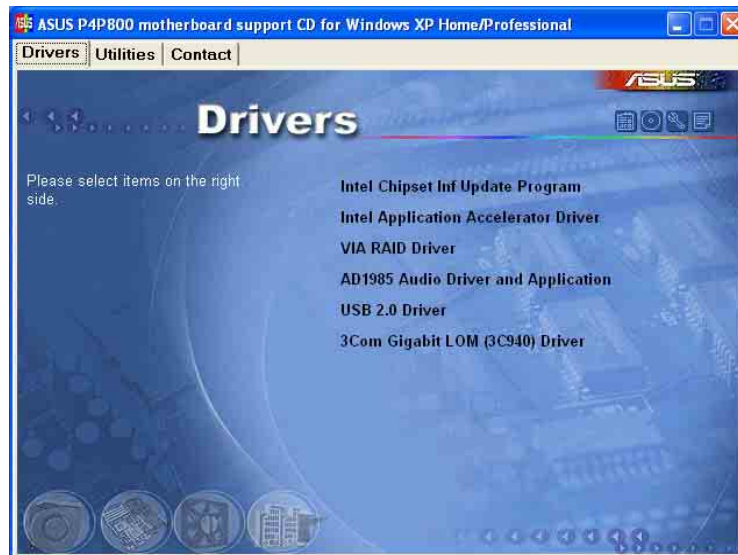
クリックすると詳細情報が表示されます。



メニューが起動しない場合は、BINフォルダ内の ASSETUP.EXE を実行してください。

5.2.2 ドライバメニュー

マザーボードに搭載されているデバイス用のドライバです。各デバイスの機能を有効にするために必要です。



Intelチップセット Inf 更新プログラム

このアイテムはIntelチップセットInf更新プログラムをインストールします。

Intelアプリケーションアクセラレータドライバ

このアイテムは、Intelアプリケーションアクセラレータドライバをインストールします。

VIA RAID ドライバ

このアイテムは、VIA RAID サポートドライバをインストールします。

AD1985 オーディオドライバとアプリケーション

このアイテムはウィザードを実行して、SoundMAXオーディオドライバとアプリケーションをインストールします。

USB 2.0 ドライバ

このアイテムは、ユニバーサルシリアルバス2.0ドライバをインストールします。

3Com Gigabit LOM (3C940) ドライバ

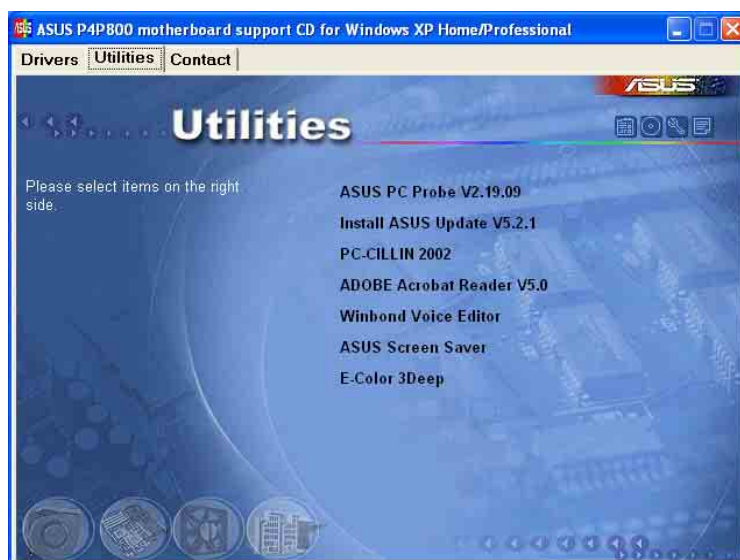
このアイテムは、3COM NICドライバと診断をインストールするために、ダイアログボックスインターフェイスを実行します。



画面の表示とドライバオプションは、他のオペレーティングシステムのバージョンと同じでないことがあります。

5.2.3 ユーティリティメニュー

本マザーボードでサポートされているユーティリティに関するメニューです。



ASUS PC Probe

コンピュータのファン回転数・温度・電圧などのハードウェア情報をモニターすることができるユーティリティです。システムの監視に役立ちます。

Install ASUS Update

最新バージョンのBIOSをWEBサイトから自動でダウンロードするユーティリティです。



ASUS Update を使用するには、あらかじめインターネットに接続しておく必要があります。

Microsoft Direct X 8.1 Driver

Microsoft Direct X 8.0a ドライバをインストールします。

PC-CILLIN 2002

PC-cillin 2002 アンチウィルスソフトウェアをインストールします。詳しくは、オンラインヘルプを参照してください。

Adobe Acrobat Reader V5.0

PDF形式のマニュアルを見るために必要な Adobe Acrobat Reader V5.0 をインストールします。最新および他言語のマニュアルが、PDF形式で ASUS のサイトにあります。

Winbond Voice Editor

ASUS POST Reporter™ 用の WAVE ファイルを記録・編集するユーティリティです。POST 音声メッセージを編集する場合に使います。詳しくは「3.2 ボーカルPOSTメッセージ」をご覧ください。

ASUS Screen Saver

ASUS 特製スクリーンセーバーをインストールします。

E-Color 3Deep

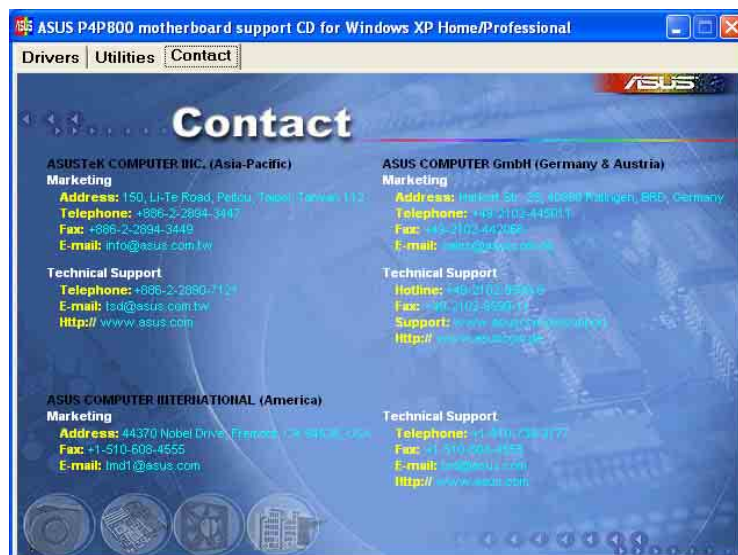
3Deep ソフトウェアをインストールします。マルチ対戦型オンラインゲームの画面のノイズを除去しクリアな画像を得ることができます。



スクリーンの表示と実用性選択は他のオペレーティングシステム版のための同じかもしれない。

5.2.4 ASUS サポート情報

ASUS のサポート情報です。本書にあるサポート情報とあわせてご利用ください。

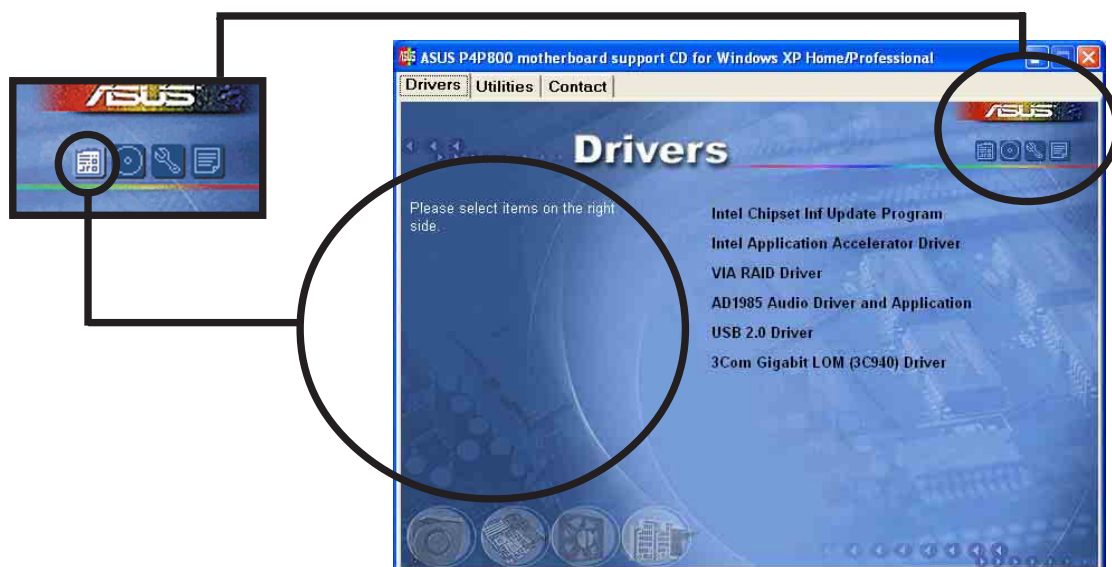


5.2.5 その他の情報

画面右上にあるアイコンをクリックすると、マザーボードおよびサポートCDに関する追加情報を見ることができます。各アイコンは以下の内容になっています。

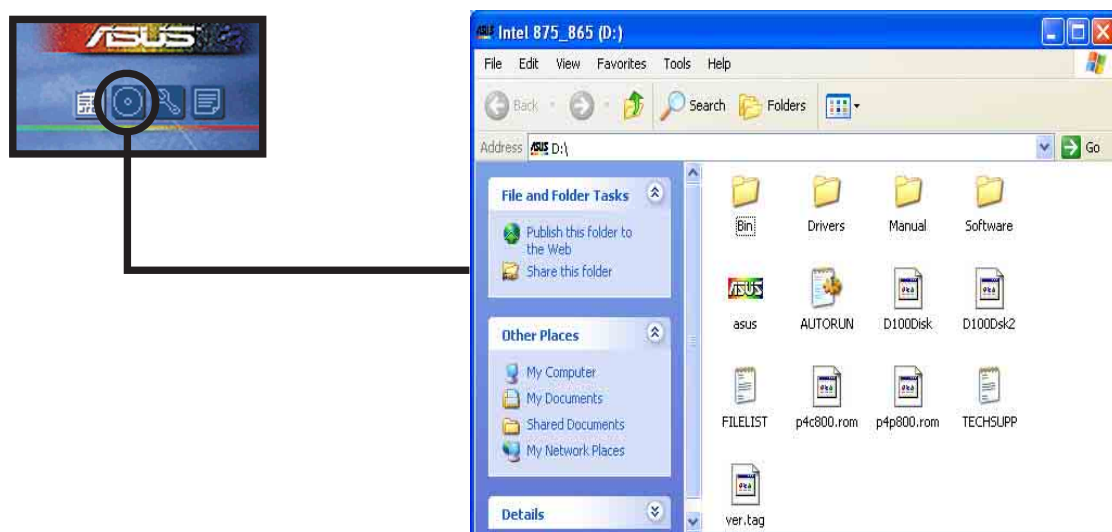
Motherboard Info

P4P800 マザーボードの仕様が一覧表示されます。



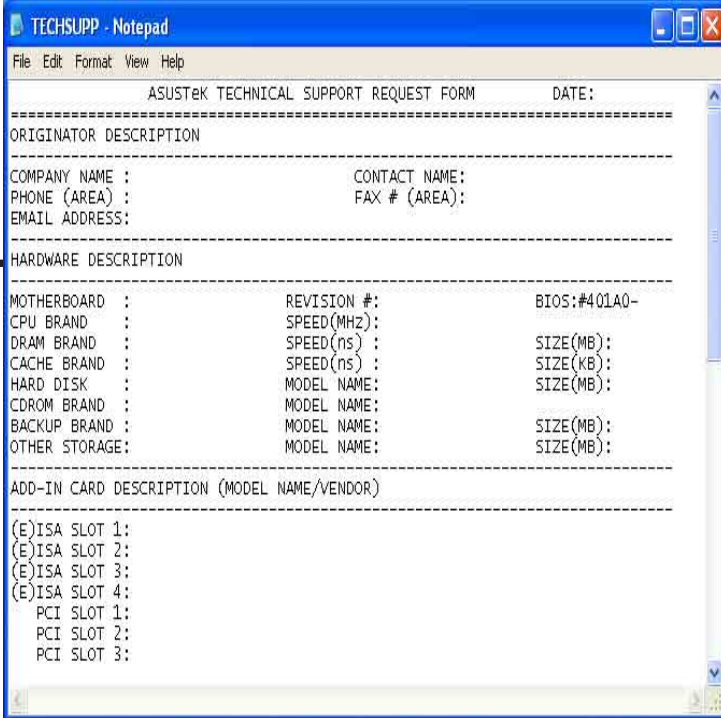

Browse this CD

サポートCDの内容を表示します。



Technical Support Form

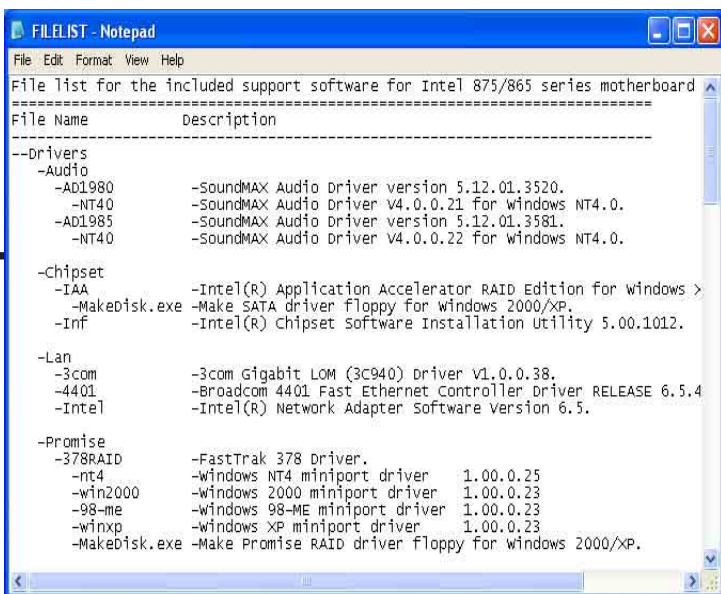

ASUSのテクニカルサポート用の書式です。テキスト形式になっていますので、サポートをうける場合、必要な項目を記入します。



```
ASUSTeK TECHNICAL SUPPORT REQUEST FORM      DATE:
-----
ORIGINATOR DESCRIPTION
-----
COMPANY NAME :                               CONTACT NAME:
PHONE (AREA) :                               FAX # (AREA):
EMAIL ADDRESS:
-----
HARDWARE DESCRIPTION
-----
MOTHERBOARD :                               REVISION #:           BIOS:#401A0-
CPU BRAND :                                  SPEED(MHz):
DRAM BRAND :                                 SPEED(ns) :           SIZE(MB):
CACHE BRAND :                               SPEED(ns) :           SIZE(KB):
HARD DISK :                                  MODEL NAME:           SIZE(MB):
CDROM BRAND :                                MODEL NAME:
BACKUP BRAND :                               MODEL NAME:           SIZE(MB):
OTHER STORAGE:                              MODEL NAME:           SIZE(MB):
-----
ADD-IN CARD DESCRIPTION (MODEL NAME/VENDOR)
-----
(E)ISA SLOT 1:
(E)ISA SLOT 2:
(E)ISA SLOT 3:
(E)ISA SLOT 4:
PCI SLOT 1:
PCI SLOT 2:
PCI SLOT 3:
```

Filelist

サポートCDの内容や簡単なドキュメントを記載したテキストファイルです。



```
FILELIST - Notepad
File list for the included support software for Intel 875/865 series motherboard
-----
File Name      Description
-----
--Drivers
--Audio
-AD1980        -SoundMAX Audio Driver version 5.12.01.3520.
-NT40         -SoundMAX Audio Driver v4.0.0.21 for windows NT4.0.
-AD1985        -SoundMAX Audio Driver version 5.12.01.3581.
-NT40         -SoundMAX Audio Driver v4.0.0.22 for windows NT4.0.
--Chipset
-IAA          -Intel(R) Application Accelerator RAID Edition for windows >
-MakeDisk.exe -Make SATA driver floppy for windows 2000/XP.
-Inf         -Intel(R) Chipset Software Installation Utility 5.00.1012.
--Lan
-3com        -3com Gigabit LOM (3C940) Driver v1.0.0.38.
-4401        -Broadcom 4401 Fast Ethernet Controller Driver RELEASE 6.5.4
-Intel       -Intel(R) Network Adapter Software version 6.5.
--Promise
-378RAID     -FastTrak 378 Driver.
-nt4         -windows NT4 miniport driver      1.00.0.25
-win2000     -windows 2000 miniport driver     1.00.0.23
-98-me      -windows 98-ME miniport driver    1.00.0.23
-winxp      -windows XP miniport driver       1.00.0.23
-MakeDisk.exe -Make Promise RAID driver Floppy for windows 2000/XP.
```

5.3 ソフトウェア情報

サポートCDのソフトウェアの多くはウィザード形式のインストーラーに対応しています。詳しい情報は各ソフトウェアのオンラインドキュメントを参照してください。

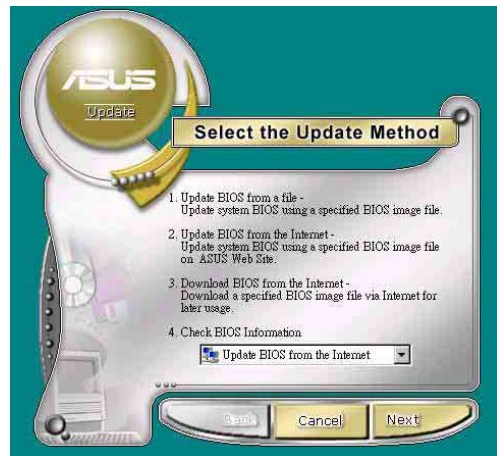
この章では、サポートCD内のいくつかのソフトウェアの詳しい使用方法を説明します。

5.3.1 ASUS Update

ASUS Update は、マザーボードのBIOSとドライバをアップデートするユーティリティです。アップデート作業を行う前にあらかじめインターネットに接続しておいてください。

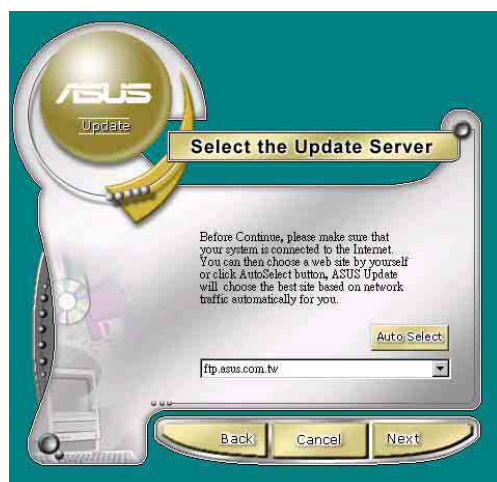
アップデート方法:

1. Windows のスタートメニューから以下を実行します:
プログラム / Asus Update
Vx.xx.xx / AsusUpdate
ASUS Update画面が表示されます。

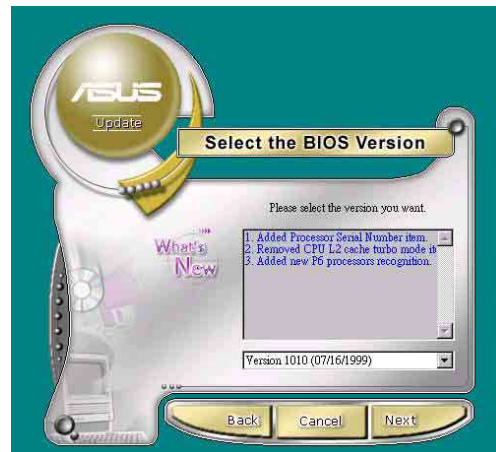


2. アップデート方法を選択し「Next」をクリックします。

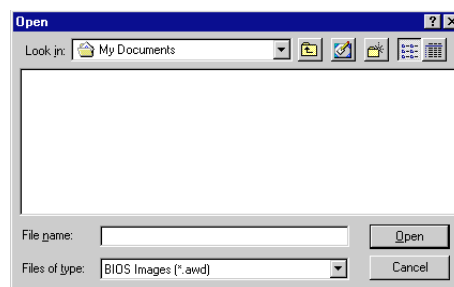
3. 「Updating/downloading from the Internet」を選択した場合、適当なASUS FTPサイトを選択するか「Auto Select(自動選択)」を選択します。「Next」をクリックします。



- FTPサイトから、希望のBIOSのバージョンを選択します。
- 画面の指示に従ってアップデートを行います。



ファイルからアップデートする場合、BIOSファイルが保存されている場所を選択します。BIOSファイルを選択し「保存」をクリックします。画面の指示に従ってアップデートを行います。



5.3.2 ASUS MyLogo2™

ASUS MyLogo2™ は ASUS Update と同時に自動でインストールされます。インストールについては「5.2.3 ソフトウェア メニュー」を参照してください。



ASUS MyLogo2™ を使用する前に、AFLASHなどを用いて現在のBIOSのバックアップをとっておいてください。

BIOSセットアップの「Full Screen Logo」を [Enabled] に設定してください(P.4-36参照)。

ASUS MyLogo2 の使い方 :

- ASUS Updateを起動します (5.3.1 ASUS Update 参照)。
- BIOSのアップデート方法で、「Update BIOS from a file」を選択します。
- BIOSファイルの場所(FDなど)を指定します。Next をクリックします。



4. ログイメージの選択画面になります。Next をクリックします。



自作のイメージ(GIF, JPG, BMP形式)を使用することもできます。



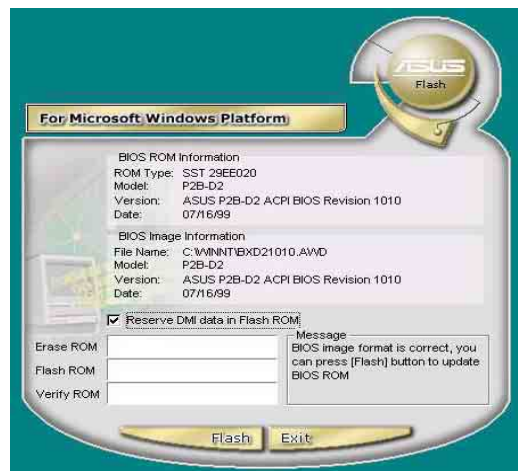
5. 選択したイメージは MyLogo2 スクリーンに拡大表示されます。



ロゴの画像をもっと小さくしたい場合、比率アイテムの矢印をクリックし、希望する縮尺を選択します。



6. BIOSイメージを新しいロゴイメージのものに書き換えます。Flash をクリックします。
7. 書き換えが完了したら、Exit をクリックします。コンピュータを再起動すると、起動時に新しいロゴが表示されるようになります。



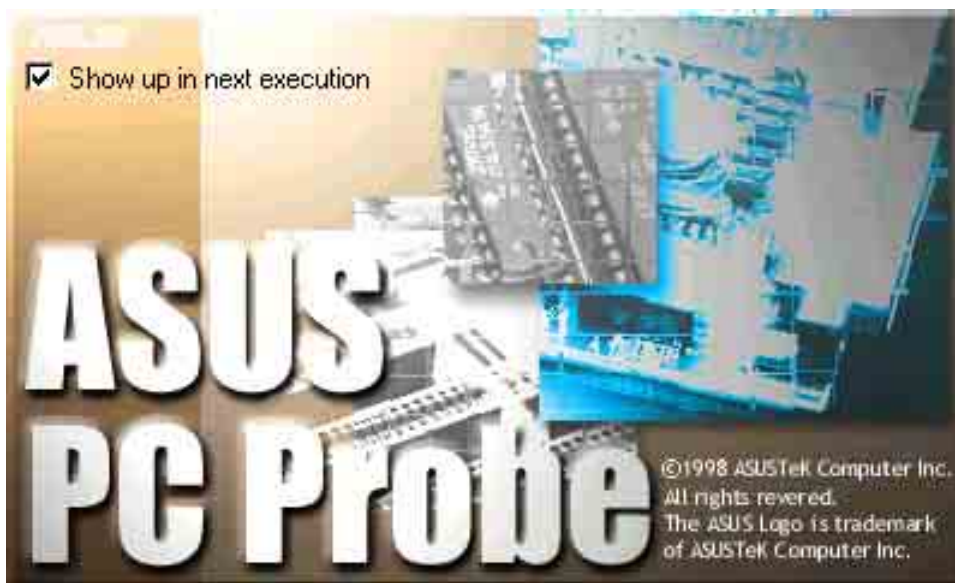
ASUS Update の代わりに ASUS MyLogo2 を直接起動して、ロゴイメージの書き換えを行うこともできます。この場合は、BIOSファイルを書き換えた後、ASUS Update を用いて、BIOSファイルをEEPROMに書き込む必要があります。

5.3.3 ASUS PC Probe


「ASUS PC Probe」は、コンピュータの重要な部品の電圧・温度およびファンの回転数をモニタできる便利なユーティリティです。さらに「DMI Explorer」を用いて、ハードディスクの空き量、メモリの使用状況、CPUの種類、内部/外部クロックを知ることができます。

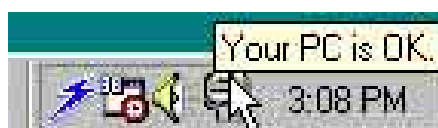
ASUS PC Probe をはじめよう

「ASUS PC Probe」を起動すると、オープニングビデオが始まります。これは次回の起動時に表示しないようにもできます。表示しないようにするには「Show up in next execution」のチェックを外します。



「ASUS PC Probe」を起動するには、Windowsの「スタート」 - 「プログラム」 - 「ASUS Utility」 - 「Probe Vx.xx」と選択します。

「PC Probe」のアイコン  がタスクバーに表示され「ASUS PC Probe」が動作していることを示します。このアイコンにマウスポインタを重ねると、コンピュータの状態を表示します。

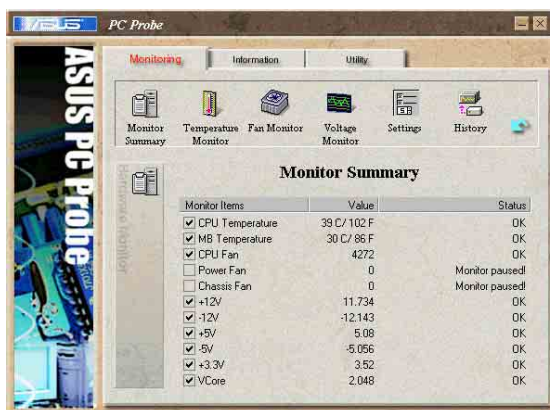


ASUS PC Probe を使う

Monitoring

Monitor Summary

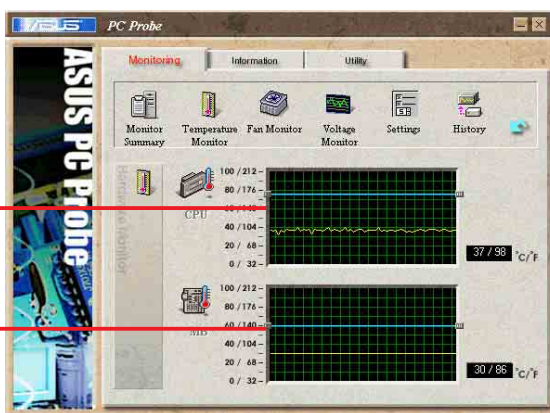
モニタ中のアイテムの概要を表示します。



Temperature Monitor

コンピュータ各所の温度です

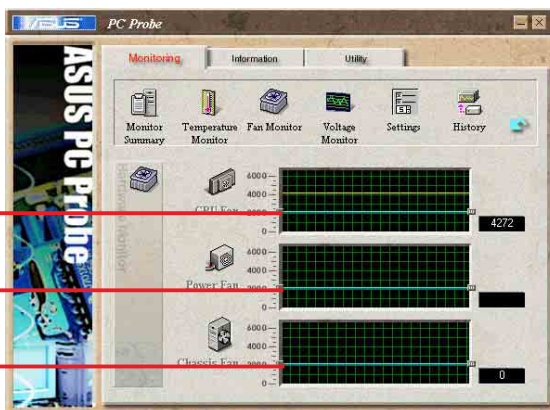
警告上下限値を調整できます。
(スライダをドラッグして、
上下限レベルを上下させま
す。)



Fan Monitor

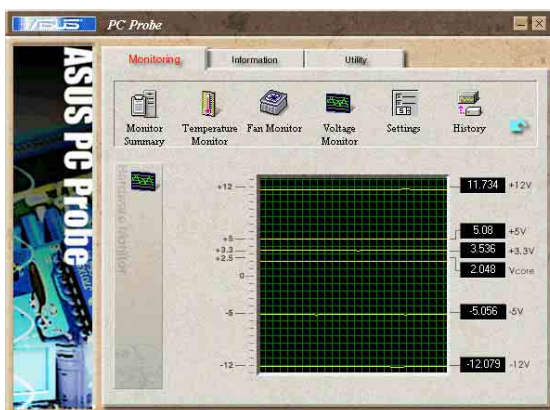
各ファンの回転数を表示します。

警告上下限値を調整できます。
(スライダをドラッグして、
上下限レベルを上下させます。)



Voltage Monitor

コンピュータ各所の電圧です。

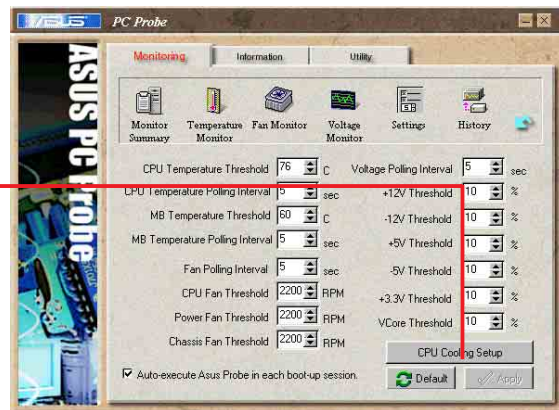


Settings

各上下限値を数値で設定できます。また、モニタリングの周期・表示の更新間隔を変更できます。

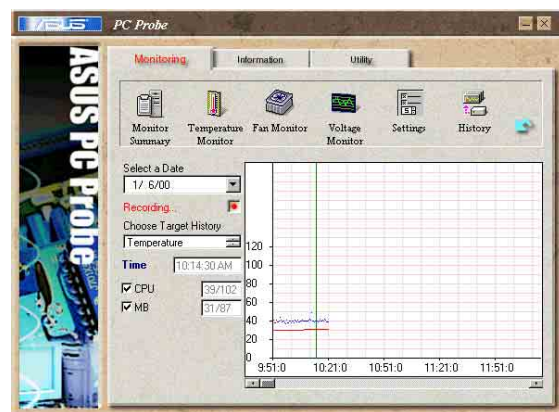


CPU Cooling System Setup
ソフトウェアによるCPU冷却の設定です。「CPU Overheated」が選択されると、CPU温度が上限を越えた場合、この機能が稼働を始めます。



History

現在の状況を保存します。参考値として保存しておく場合などに使います。



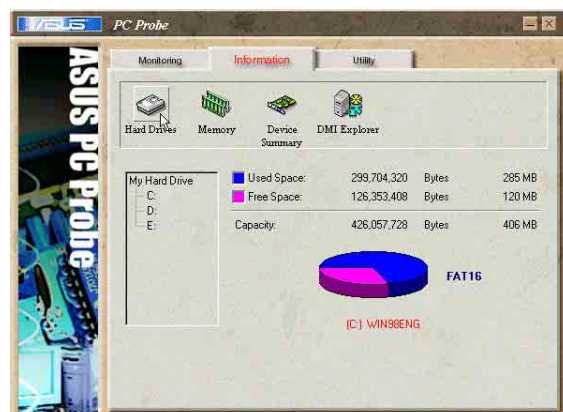
Fan Control

CPU温度により冷却ファンの回転数を自動制御します。回転数を制御する温度レベルを設定します。



Hard Drives

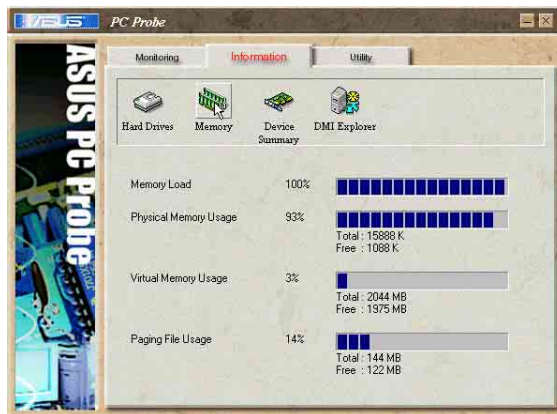
ハードディスクの使用状況・空き容量・ファイルアロケーションテーブル(FAT)の状態・ファイルシステムの種類などを表示します。



Information

Memory

メモリの使用状況、仮想メモリの状態などを表示します。



Device Summary

接続されているデバイスの概要を表示します。



DMI Explorer

CPUの種類・内部/外部クロック周波数、メモリ容量など、コンピュータに関する情報を表示します。

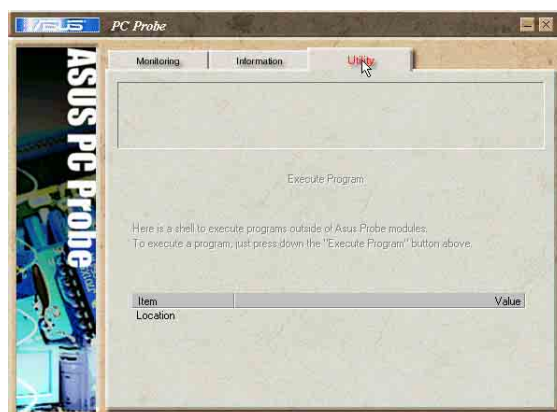
The screenshot shows the 'DMI Explorer' tab in ASUS PC Probe. It displays a table of system information:

Name	Property
BIOS	
System	Vendor: Award Software, Inc.
Motherboard	Version: ASUS P3B-F ACPI BIOS R1
Chassis	Starting Address: F000
Processor	Release Date: 08/07/1999
Memory Controller	ROM Size: 256K
Cache	ISA: Supported
Port Connector	MCA: Not Supported
System Slots	EISA: Not Supported
OEM Information	PCI: Supported
System Configuration	PCMCIA: Not Supported
BIOS Language	PhP: Supported
	APM: Supported
	BIOS is Upgradeable: Supported
	BIOS Shadowing: Supported
	VL/VESA: Not Supported

Utility

「ASUS Probe」から別のプログラムを起動する場合に用います。「Execute Program」をクリックします。

注：この機能は現バージョンでは無効になっています。



ASUS PC Probe タスクバーアイコン

「PC Probe」アイコンを右クリックするとメニューが現れ、ウィンドウを開いたり、プログラムとモニタリングを終了させたり、再開させたりできます。



「ASUS PC Probe」がコンピュータに異常を発見した場合は、アイコンの一部が赤く変わり、ビープ音が鳴り、モニタ画面が開きます。



5.3.4 ASUS インスタントミュージック

ASUS インスタントミュージックは、BIOSベースのオーディオ再生機能で、システム電源をオンにせずにオーディオCDの再生を可能にしています。この機能はオンボードオーディオAC 7 CODECによりサポートされ、光ドライブ (CD-ROM、DVD-ROMまたはCD-RW) を必要とします (CD-ROM, DVD-ROM, or CD-RW)。



1. インスタントミュージックは、オーディオフォーマットのCDのみをサポートします。
2. アドオンカードを取り付けて有効にしていると、インスタントミュージックは機能しません。
3. インスタントミュージックは、PS/2キーボードのみをサポートします。

ASUS Instant Musicを有効にする:

1. 光ドライブ (CD-ROM、DVD-ROMまたはCD-RW ドライブ) から出るアナログオーディオケーブルを、マザーボードの4ピンCDインコネクタ (CD1とラベル) に接続します。コネクタの位置に関しては、「2.8 コネクタ」をご覧ください。



CD-ROM オーディオケーブルを接続していることを確認してください。接続していないと、インスタントミュージック機能キーを使用して、オーディオボリュームをコントロールできません。

2. システムをオンにし、パワーオンセルフテスト(POST)の間にDeleteキーを押してBIOSに入ります。
3. 詳細メニュー → インスタントミュージック構成メニューで、アイテムインスタントミュージックを選択し、これをEnabledに設定します。

4. インスタントミュージックCDROMアイテムを強調表示してEnterに入り、CD-ROMオプションを表示します。この機能を使用したいCD-ROMドライブを選択します。

5. 変更を保存してBIOSセットアップを終了します。

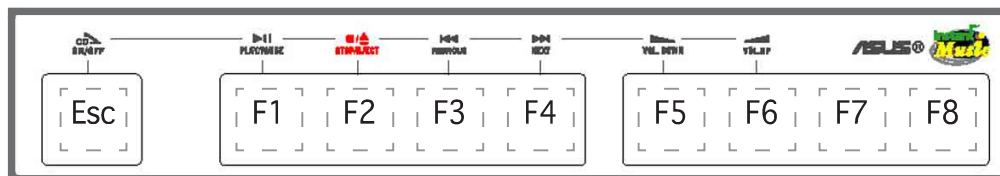


1. インスタントミュージックを有効にした後、スクロールロックLEDはオンに固定されます。
2. インスタントミュージックモードに設定されているとき、システムの呼び起こし機能 (LAN, キーボード、マウス、USB) は非アクティブになっています。この場合、電源スイッチを使用してシステムの電源をオンにします。
3. システムが接続を失ったり光ドライブを検出できない場合、インスタントミュージック機能は自動的にオフ (無効) になります。「ビープ」音はこの状態を示しています。

ASUS インスタントミュージックを使用する:

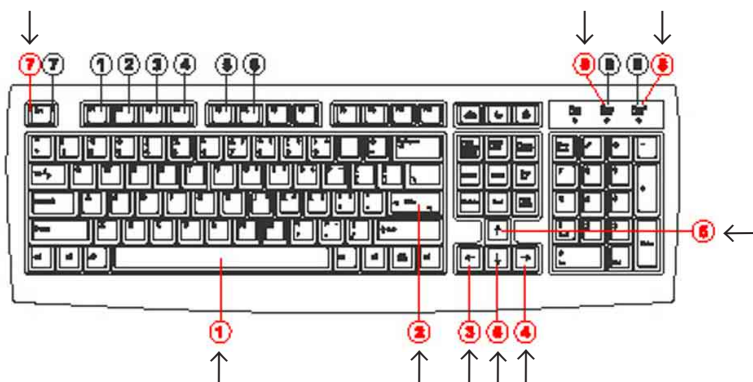
1. システムにスタンバイ電源が供給されるように、電源コードがアースされた電源に差し込まれていることを確認します。
2. インスタントミュージックキーボードラベルをEscの上に、キーボード (左上隅) の上にその他の機能キーを置きます。ラベルの付いたキーは、インスタントミュージックの特殊な機能キーを確認します。

インスタントミュージックの機能キー (セット 1)



インスタントミュージックの機能キー (セット2)

別の方法として、インスタントミュージックの機能キーとして、キーボード上の他のキーセットを使用することもできます。これらのキーは、下に図で示したように、キーボードにマークされた数字によって示されます。機能は、右の図で定義されています。



Instant Music		ASUS®	
① PLAY/PAUSE	② STOP/EJECT	③ PREVIOUS	④ NEXT
⑤ VOL DOWN	⑥ VOL UP	⑦ CD ON / OFF	⑧ CAPS LOCK * PAUSE
⑨ SCROLL ON LOCK * OFF			



これらのラベルは、全てマザーボードパッケージに付属しています。

3. スピーカーやヘッドフォンを、オーディオ出力用にリアパネルのラインアウト（ライム色）に接続します。



ヘッドフォンを、CD-ROMドライブのフロントパネルのヘッドフォンジャックに接続することもできます。

4. オーディオCDをドライブに置きます。
5. Escを押すと、インスタントミュージックがオンになります。
6. F1またはスペースバーを押すと、CDの最初のトラックが再生されます。



ドライブにCDがない場合、F1またはスペースバーを押すと、ドライブトレイが出てきます。

7. 前ページのインスタントミュージック機能キーの定義を参照して、他のトラックを選択したり、ボリュームを制御してください。
8. F2またはEnterを一度押すと、CDの再生が停止します。
F2またはEnterをもう一度押すと、CDが出てきます。

5.3.5 Winbond Voice Editor

Winbond Voice Editor は、POST音声メッセージを編集するユーティリティです。インストール方法は「5.2.3 ソフトウェア メニュー」をご覧ください。



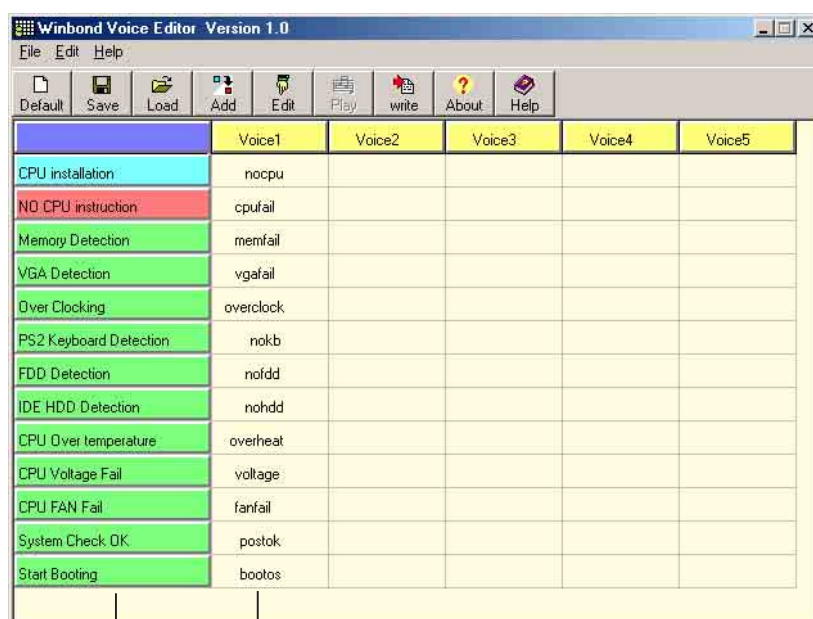
ASUS PC Probeの動作中に Winbond Voice Editor を使用しないでください。リソースの衝突が発生します。

Winbond Voice Editorの使用方法:

プログラムの起動方法

デスクトップ上の「Winbond Voice Editor」アイコンをダブルクリックするか、スタートメニューのプログラム / Winbond Voice Editor / Voice Editor を実行します。

Winbond Voice Editor画面が表示されます。



デフォルト
メッセージ
POST
イベント

Wave ファイルの再生

音声メッセージ(Waveファイル)を再生するには、画面左側の POST イベント欄から再生したいメッセージを選択し「Play」をクリックします。



初期設定ではメッセージは英語です。

使用する言語の変更

1. 「Load」をクリックすると有効な言語の一覧が表示されます。
2. 希望の言語を選択し「開く」をクリックします。Voice Editor画面のイベント欄に選択した言語が表示されます。



ファイルのサイズの制限のため、言語によっては、一部のメッセージが音声対応してない場合があります。

3. 「Write」をクリックします。変更した結果がBIOSのEEPROMに書き込まれます。
4. 確認画面が表示されますので「Yes」をクリックします。



次回の起動時から選択した言語が有効になります。

POST メッセージのカスタマイズ

希望の言語が一覧に表示されない場合や独自のメッセージを使用したい場合、以下の方法でメッセージをご自分で録音することができます。

POST音声メッセージのカスタマイズ方法

1. Voice Editor 画面の左側にあるイベント一覧の内容をメモ用紙などに控えてください。
2. 各イベントに対するメッセージを考えます。



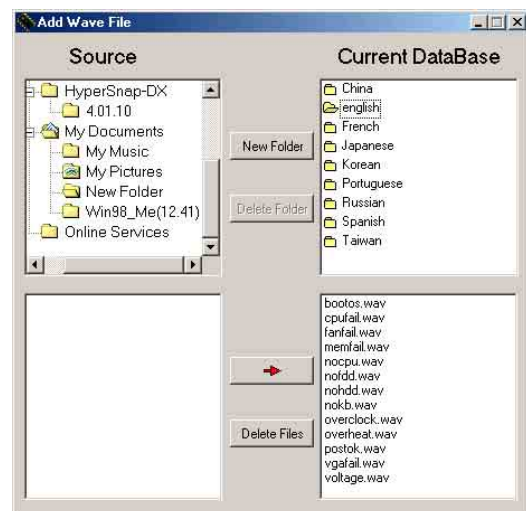
メッセージのサイズには制限があります。圧縮後のサイズでメッセージ全体の合計が1Mビット以下です。メッセージはなるべく短くしてください。

3. WAVEファイルを録音できるソフトウェア(Windowsのサウンドレコーダーなど)でメッセージを録音します。
4. メッセージはWAVE形式(.WAV)で保存してください。サイズを小さくするために音質が劣化しない程度に圧縮してください。例えば、8ビット、モノラル、サンプリングタイム 22kHz が適当です。

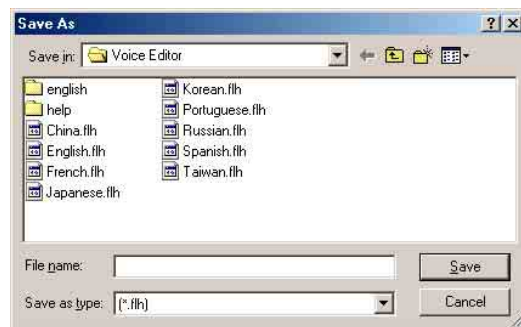
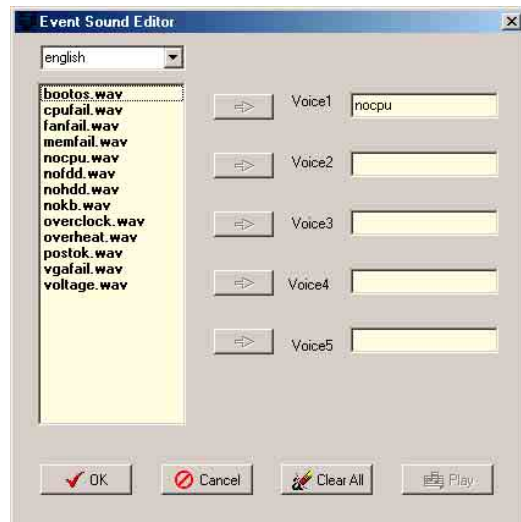


保存するファイルは、専用のフォルダを作成し、そこに保存することをお勧めします。

5. Voice Editor を起動します。
「Add」をクリックするとWAVEファイルの一覧が表示されます。
6. 作成したオリジナルのWAVEファイルを Voice Editor のデータベースにコピーします。



7. Voice Editor 画面に戻り、変更したいPOSTイベントを選択し「Edit」をクリックします。Event Sound Editor 画面が表示されます。
8. イベントに設定したいWAVEファイルを選択し「Voice1」の左側にある矢印をクリックします。選択したファイルが右側のボックス内に表示されます。
9. 「OK」をクリックし、もとの画面に戻ります。
10. 必要なだけ7項から9項を繰り返します。
11. 「Save」をクリックします。設定の保存画面になります。
12. 設定ファイルに名前をつけ保存します。拡張子は「.flh」になります。「Save」をクリックします。
13. 「Write」をクリックします。変更結果がBIOSのEEPROMに書き込まれます。
14. 確認画面が表示されますので「Yes」をクリックします。



ファイルサイズをオーバーした、というエラーメッセージが表示された場合は、以下の1つ、またはすべてを実行してみてください。

- ・ メッセージの録音時間を短くします。
- ・ WAVEファイルの品質を低くして保存します。
- ・ あまり発生することのないイベント(FDD Detection, IDE HDD Detectionなど)に対するメッセージは設定しないようにします。

5.3.6 SoundMAX® 4 XL ソフトウェア

ADI AD1985 AC' 97 オーディオ CODEC は、AudioESPTM ソフトウェアを組み込んだSoundMAX4 XLを通して6チャンネルのオーディオ機能を提供しながら、お使いのPCに究極のオーディオ体験を実現させています。ソフトウェアは高品質のオーディオ合成/レンダリング、3Dサウンドポジショニング、高度なボイス入力テクノロジーを実装しています。

次のインストールウィザードに従って、マザーボードパッケージに付属するサポートCDからSoundMAXオーディオドライバとアプリケーションをインストールして、6チャンネルのオーディオ機能をアクティブにしてください。



このセットアップでは、4チャンネルまたは6チャンネルのスピーカーを使う必要があります。

SoundMAX 4 XLでは、Microsoft Windows 98SE/ME/2000/XPが必要となります。SoundMAXをインストールする前に、これらのオペレーティングシステムのどれかがインストールされていることを確認してください。

SoundMAX4 XLソフトウェアが正しくインストールされれば、タスクバーにSoundMAX4 XLアイコンが表示されます。




SoundMAX4 XL
アイコン

タスクバーから、SoundMAX4 XLアイコンをダブルクリックすると、SoundMAX コントロールパネルが表示されます。

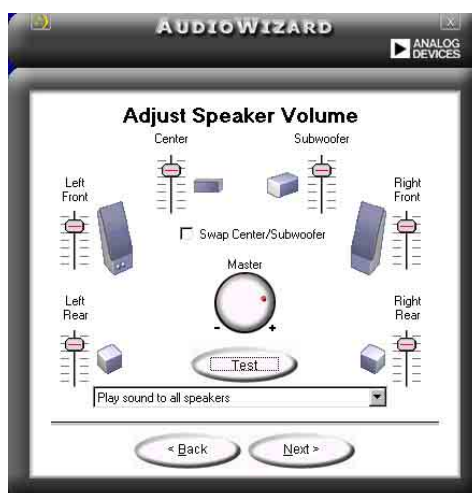


セットアップウィザード

スピーカーとマイクのセットアップウィザードを使用しながら、入出力の増幅/減衰を微調整して最適のオーディオ性能を引き出します。AudioESPが新しく接続された周辺装置を検出して確認したら、構成ボタンをクリックすることによって、またはSoundMAXコントロールパネルの  アイコンをクリックすることによってセットアップウィザードを起動できます。

スピーカーウィザード

画面の指示に従って、希望する設定にスピーカーを構成してください。



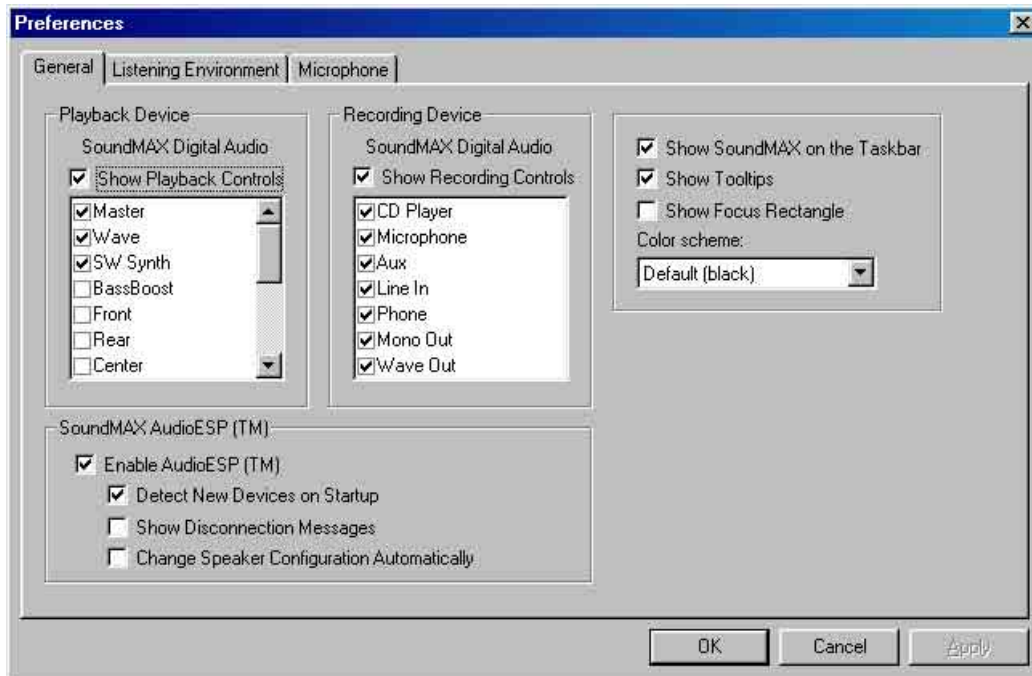
マイクウィザード

画面の指示に従って、希望する設定にマイクを構成してください。



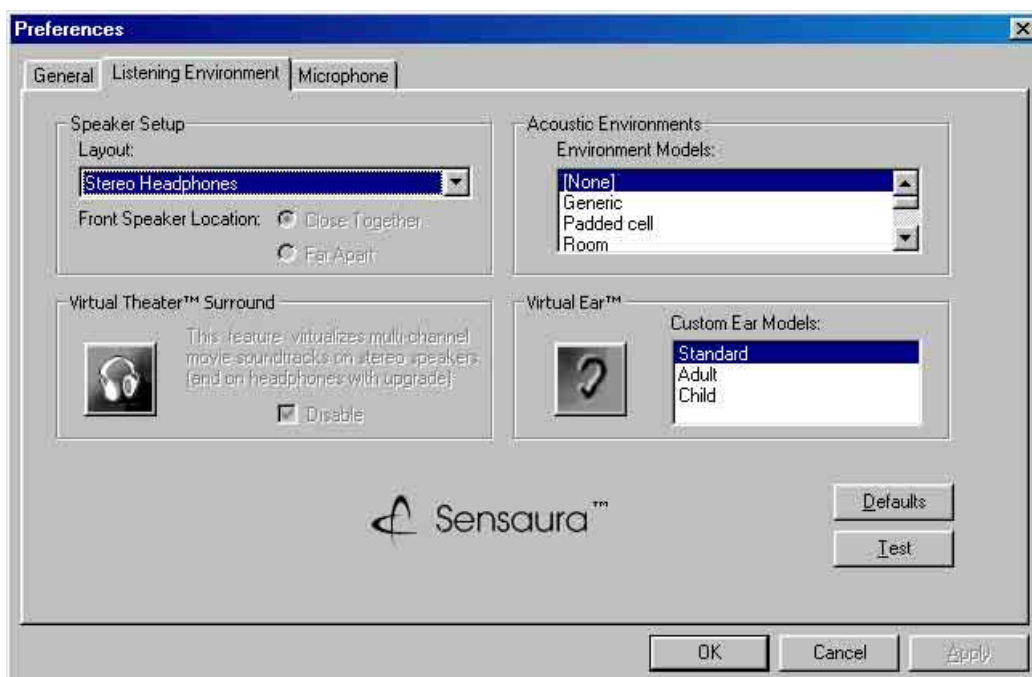
オーディオプレファランス

SoundMAX4 XLのプレファランスページによって、さまざまなオーディオ設定を変更できます。



リスニング環境オプション

SoundMAX4 XLはSoundMAX SPX™ Animated Audio、3DPA™ MultiDrive™ 5.1、EnvironmentFC™、MacroFX/ZoomFX™ 仮想シアターサラウンドなどのいくつかのオーディオテクノロジーをサポートしています。



リアパネルオーディオポート機能のバリエーション

リアパネルのラインアウト（ライム色）、ラインイン（青）、Mic（ピンク）の機能は、次の表で示すように、4チャンネルまたは6チャンネルのオーディオ構成を選択するときに、変更できます。

	ヘッドフォン/ 2スピーカー	4スピーカー	6スピーカー
ライトブルー	ラインイン	リアスピーカーアウト	低音/センター
ライム	ラインアウト	フロントスピーカー アウト	フロントス ピーカーアウト
ピンク	Micイン	Micイン	リアスピーカーアウト

5.4 RAID 0 / RAID 1 / RAID 0+1 / JBOD 構成

本マザーボードは、VIA® VT6410高性能IDE RAIDコントローラを組み込み、2つの独立したIDEチャンネルでRAID 0、RAID 1、RAID 0+1、JBODをサポートします。このコントローラは、「バスマスタIDEコントローラレビジョン1.0用プログラミングインターフェイスの分散/集積ホストDMAメカニズム」にも準拠し、64レベルのプリフェッチと内部書き込みバッファを構築して転送速度を向上させています。デュアルチャンネルマスタモードのハードディスクコントローラは、最大4つのエンハンスドIDEデバイスをサポートします。

RAID 0（データストライピングと呼ばれる）は2つの全く同一のハードディスクドライブを最適化して、パラレルな、インターリーブされたスタックにデータの書き込み/読み込みを行います。2つのハードディスクは単一ドライブとして同じ機能を果たしますが、持続的データ転送速度では、単一ディスクのみの場合の2倍の速度を実現して、データアクセスと格納を向上させています。

RAID 1（データミラリングと呼ばれる）は1つのドライブからもう1つのドライブに同じ画像データをコピーして保存します。1つのドライブが故障しても、他のドライブには、データの完全なコピーを保持されているので、ディスクアレイ管理ソフトウェアは全てのアプリケーションを、バックアップされているドライブに送ります。このRAID構成はデータ保護を実現して、システム全体に対するフォールとトレランスを増大しています。

RAID 0+1 は、パリティ（冗長データ）を計算したり書き込んだりすることなく、データストライピングとデータミラリングを結合しています。RAID 0+1の利点は（RAID 0と同様に）高速データアクセスですが、1つのドライブを切り離して完全なバックアップ用の複製ドライブまたはドライブのセット（RAID 1と同様）にする機能があります。

JBOD（“*just a bunch of disks*”または“*just a bunch of drives*”略語）は、公式には「スパン」と呼ばれています。この用語は、耐故障性を増しデータアクセスパフォーマンスを上げるためのRAIDシステムに従って構成されていない、コンピュータのハードディスクを呼ぶために使用されます。このRAIDシステムは、ドライブを1つの大きな論理ドライブに結合することによって、複数のドライブに同じデータを重複して格納します。



VIA® VT6410 RAIDコントローラの詳細については、サポートCDの「\Manual\IAA RAID Manual.doc」にあるVIA® VT6410, IDE RAIDコントローラユーザーマニュアルを参照してください。

5.4.1 ハードディスクの取り付け

VIA® VT6410チップセットは、UltraDMA/100/66ハードディスクドライブをサポートします。最適の性能を確保するために、RAIDセットを作成するときは、同じモデルと容量のドライブを取り付けてください。

- パフォーマンスを重視してRAID 0 (ストライピング)アレイを作成する場合、2台の新しいドライブを使用してください。
- 保護を重視してRAID 1 (ミラリング)を作成する場合、2台の新しいドライブまたは既存のドライブと新しいドライブ (新しいドライブは、既存のドライブと同じかまたは大きいサイズでなければなりません) を各1台、使用することができます。異なるサイズの2台のドライブを使用する場合、小さい容量のハードディスクが基本記憶サイズとなります。例えば、1台のハードディスクの記憶容量が80GBで、もう1台のハードディスクの記憶容量が60GBだとすると、RAID 1セットの最大記憶容量は60GBになります。

次の手順に従って、ハードディスクを取り付けてRAID構成を行ってください。



新しいRAIDアレイをセットアップする前に、ハードディスクのステータスを確認してください。マスタ/スレーブジャンパを正しく構成しているか確認してください。

1. IDEハードディスクをドライブベイに挿入します。
2. チャンネル0を使用する場合:
 - 2.a RAID IDE ケーブルコネクタ (青) をマザーボードの1次スロット(PRI_RAID1)に接続します。
 - 2.b RAID IDEケーブルコネクタ (黒) のもう一方の端をマスタハードディスクに接続します。
 - 2.c 残りのIDE RAIDコネクタ (グレイ) をスレーブハードディスクに接続します。
3. チャンネル1を使用する場合:
 - 3.a RAID IDEケーブルコネクタ (青) をマザーボードの2次IDE RAIDスロット(SEC_RAID1)に接続します。
 - 3.b RAID IDEケーブルコネクタ (黒) のもう一方の端をマスタハードディスクに接続します。
 - 3.c 残りのIDE RAIDコネクタ (グレイ) をスレーブハードディスクに接続します。

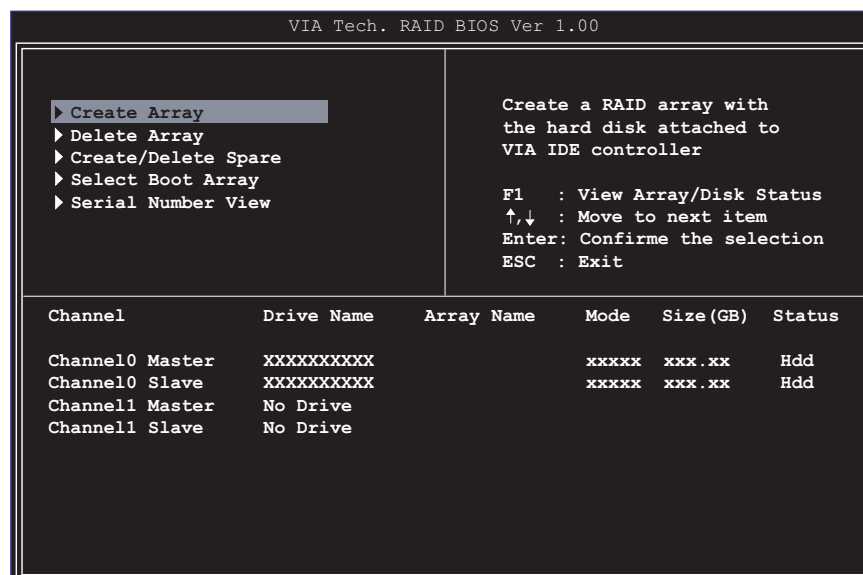
4. 電源ケーブルを各ドライブの電源コネクタに接続します。
5. 次の手順に関しては、5.4.2に進んでください。

5.4.2 VIA® Tech RAID BIOS ユーティリティに入る

1. コンピュータを起動します。
2. POSTの間、<Tab>を押してVIA RAID構成ユーティリティに入ります。次のメニューオプションが表示されます。



表示されるセットアップ画面のRAID BIOS情報は参照のためのものです。画面の表示はこれと異なっていることもあります。

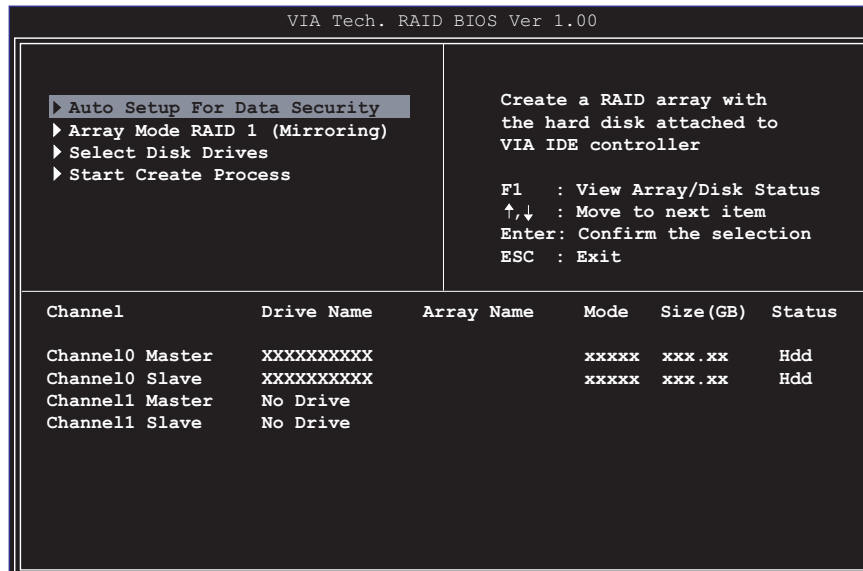


画面の右上には、メッセージと凡例ボックスがあります。凡例ボックスのキーにhによって、セットアップメニューオプションを移動することができます。メッセージは各メニューアイテムの機能を説明しています。次は、判例ボックスに表示されるキーとそれぞれに対応する機能の一覧です。

F1 : アレイ/ディスクステータスの表示
↑,↓ : 次のアイテムに移動
Enter : 選択の確認
ESC : 終了

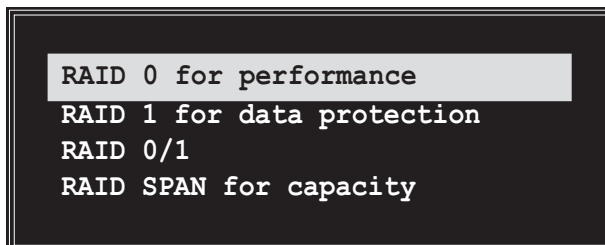
5.4.3 アレイの作成

1. VIA RAID BIOユーティリティメインメニューで、アレイの作成を選択し<Enter>キーを押します。画面の左上隅にあるメインメニューアイテムは、アレイの作成メニューオプションに代わります。

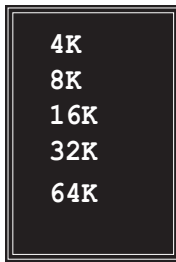


5.4.3.1 パフォーマンス用RAID 0

1. 2番目のオプションアイテムアレイモードを選択し、<Enter>キーを押します。RAIDシステム設定のポップアップメニューが表示されます。



2. メインメニューから パフォーマンス用RAID 0を選択し、<Enter>を押します。
この点から、パフォーマンス用自動セットアップを選択してRAIDアレイの自動構成を選択するか、ストライプされたセットに対してRAIDアレイを手動で構成することができます。RAIDアレイを手動で構成したい場合は次のステップを続行し、そうでない場合は、ステップ#5に進みます。
3. ディスクドライブの選択を選択し、<Enter>を押します。矢印キーを使用してディスクドライブを選択し、<Enter>を押して選択したドライブをマークします。選択したドライブの前に、アスタリスクが置かれます。
4. ブロックサイズを選択し、<Enter>を押してアレイブロックサイズを設定します。有効なアレイブロックサイズの一覧が、ポップアップメニューに表示されます。



ヒント: サーバースステムの場合、下の方のレイブロックサイズを使用するようにお勧めします。主にオーディオやビデオ設定で使用するマルチメディアコンピュータシステムの場合、最適の性能を発揮するためには、高い方のレイブロックサイズをお勧めします。

矢印キーを使用してアイテムの選択バーを移動し、<Enter>を押して選択します。

5. 作成プロセスの開始を選択し、<Enter>を押しRAIDシステム用にハードディスクをセットアップします。次の確認メッセージが表示されます。



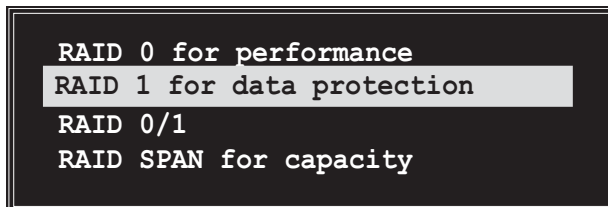
パフォーマンス用自動セットアップオプションを選択しても、同じ確認メッセージが表示されます。

```
The data on the selected disks will
be destroyed. Continue? Press Y/N
```

“Y”を押して確認するか、“N”を押して構成オプションに戻ります。

5.4.3.2 データ保護用RAID 1

1. 2番目のオプションアイテムレイモードを選択し、<Enter>キーを押します。RAID システム設定ポップアップメニューが表示されます。



2. メニューからデータ保護用RAID 1を選択し、<Enter>を押します。ポップアップメニューから、次のタスクを選択します。タスク作成のみは、バックアップを作成せずにミラーされたセットを作成します。作成と複製は、ミラーされたセットとバックアップを作成します。



3. タスクを選択し、<Enter>を押します。画面がレイの作成メニューアイテムに戻ります。この点から、データセキュリティ用の自動セットアップを選択してRAIDアレイの自動構成を選択したり、ミラーされたセットに対してRAIDアレイを手動で構成することができます。RAIDアレイを手動で構成したい場合は次のステップを続行し、そうでない場合は、ステップ#5に進みます。

4. ディスクドライブの選択を選択し、<Enter>を押します。矢印キーを使用してディスクあドライブ/sを選択し、<Enter>を押して選択したドライブをマークします（選択したドライブの前には、アスタリスクが置かれます）。
5. 作成プロセスのスタートを選択し、<Enter>を押してRAIDシステム用にハードディスクをセットアップします。次の確認メッセージが表示されます。



データセキュリティ用自動セットアップオプションを選択しても、同じ確認メッセージが表示されます。

```
The data on the selected disks will  
be destroyed. Continue? Press Y/N
```

“Y”を押して確認するか、“N”を押して構成オプションに戻ります。

5.4.3.3 RAID 0+1（安全とパフォーマンス）

1. 2番目のオプションアイテムアレイモードを選択し、<Enter>キーを押します。RAIDシステム設定ポップアップメニューが表示されます。

```
RAID 0 for performance  
RAID 1 for data protection  
RAID 0/1  
RAID SPAN for capacity
```

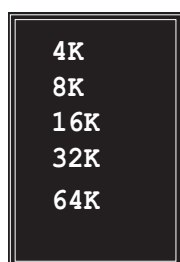
2. メニューからRAID 0/1を選択し、<Enter>を押します。ポップアップメニューから次のタスクを選択します。

タスク作成のみは、バックアップを作成せずにストライプされたセットとミラーされたセットの組み合わせを作成します。作成と複製は、バックアップしながら、ストライプされたセットとミラーされたセットの組み合わせを作成します。

```
Create only  
Create and duplicate
```

3. タスクを選択し、<Enter>を押します。画面はアレイの作成メニューアイテムに戻ります。この点から、自動セットアップ（安全、パフォーマンス）を選択してRAIDアレイの自動構成を選択するか、ミラーされたセットに対してRAIDアレイを手動で構成することができます。RAIDアレイを手動で構成したい場合は次のステップを続行します。データセキュリティ用自動セットアップの画面参照は、ステップ#6に表示できます。
4. ディスクドライブの選択を選択し、<Enter>を押します。矢印キーを使用してディスクドライブ/sを選択し、<Enter>を押して選択したドライブをマークします。

5. ブロックサイズを選択し、<Enter>を押してアレイのブロックサイズを設定します。有効なアレイのブロックサイズが、ポップアップメニューに表示されます。



ヒント: サーバースステムの場合、下の方のアレイブロックサイズを使用するようにお勧めします。主にオーディオやビデオ設定で使用するマルチメディアコンピュータシステムの場合、最適の性能を発揮するためには、高い方のアレイブロックサイズをお勧めします。

矢印キーを使用してアイテムの選択バーを移動し、<Enter>を押して選択します。

6. 作成プロセスの開始を選択し、<Enter>を押しRAIDシステム用にハードディスクをセットアップします。次の確認メッセージが表示されます。



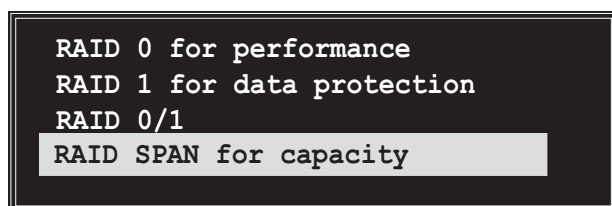
自動セットアップ (安全、パフォーマンス) オプションを選択しても、同じ確認メッセージが表示されます。

```
The data on the selected disks will  
be destroyed. Continue? Press Y/N
```

“Y”を押して確認するか、“N”を押して構成オプションに戻ります。

5.4.3.4 容量用RAID SPAN

1. 2番目のオプションアイテムアレイモードを選択し、<Enter>キーを押します。RAID システム設定ポップアップメニューが表示されます。



2. メニューから容量用RAID SPANを選択し、<Enter>を押します。この点から、容量用の自動セットアップを選択してRAIDアレイの自動構成を選択したり、スパンされたセットに対してRAIDアレイを手動で構成することができます。RAIDアレイを手動で構成したい場合は次のステップを続行します。容量用自動セットアップの画面参照は、ステップ#4に表示できます。
3. ディスクドライブの選択を選択し、<Enter>を押します。矢印キーを使用してディスクドライブ/sを選択し、<Enter>を押して選択したドライブをマークします(選択したドライブの前には、アスタリスクが置かれます)。

4. 作成プロセスのスタートを選択し、<Enter>を押してRAIDシステム用にハードディスクをセットアップします。次の確認メッセージが表示されます。



容量用自動セットアップオプションを選択しても、同じ確認メッセージが表示されます。

```
The data on the selected disks will  
be destroyed. Continue? Press Y/N
```

“Y”を押して確認するか、“N”を押して構成オプションに戻ります。

5.4.4 アレイの削除

1. VIA RAID BIOSユーティリティメインメニューで、アレイの削除を選択し、<Enter>キーを押します。IDE RAID用に使用されるチャンネルの一覧に焦点が向けられます。
2. <Enter>キーを押して、削除するRAIDアレイを選択します。次の確認画面が表示されます。

```
The selected array will be destroyed.  
Are you sure? Continue? Press Y/N
```

“Y”を押して確認するか、“N”を押して構成オプションに戻ります。

5.4.5 スペアの作成/削除

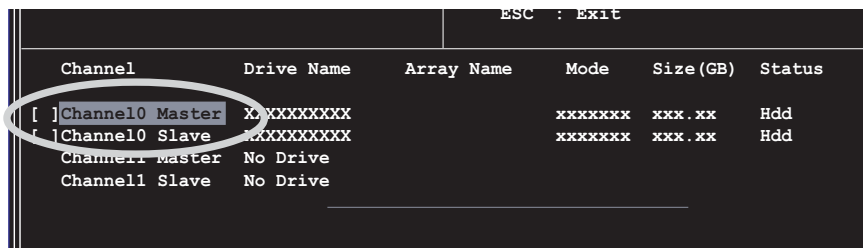
1. VIA RAID BIOSユーティリティメインメニューで、スペアの作成/削除を選択し、<Enter>キーを押します。IDE RAID用に使用されるチャンネルの一覧に焦点が向けられます。
2. <Enter>キーを押して、削除するまたはスペアの作成に使用するハードディスクドライブを選択します。次の確認画面が表示されます。

```
The selected drive will be destroyed.  
Are you sure? Continue? Press Y/N
```

“Y”を押して確認するか、“N”を押して構成オプションに戻ります。

5.4.6 ブートアレイの選択

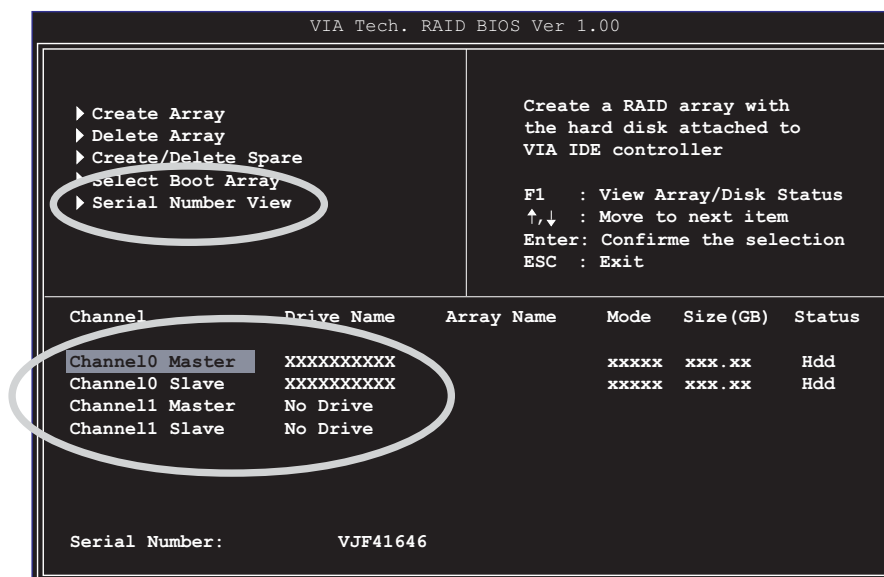
1. VIA RAID BIOSユーティリティメインメニューで、ブートアレイの選択を選択し、<Enter>キーを押します。IDE RAID用に使用されるチャンネルの一覧に焦点が向けられます。
2. <Enter>キーを押してブートするRAIDアレイを選択します。選択したアレイのステータスがブートに変わります。<ESC>キーを押すと、メニューアイテムに戻ります。同じ手順に従って、ブートアレイの選択を解除します。



Channel	Drive Name	Array Name	Mode	Size(GB)	Status
[] Channel0 Master	XXXXXXXXXX		xxxxxxx	xxx.xx	Hdd
[] Channel0 Slave	XXXXXXXXXX		xxxxxxx	xxx.xx	Hdd
Channel1 Master	No Drive				
Channel1 Slave	No Drive				

5.4.7 シリアル番号の表示

1. VIA RAID BIOSユーティリティメインメニューで、シリアル番号の表示を選択し、<Enter>キーを押します。IDE RAID用に使用されるチャンネルの一覧に焦点が向けられます。各アイテムに選択バーを移動すると、画面の下部にシリアル番号が表示されます。このオプションは、同じモデルディスクを識別する上で役に立ちます。



VIA Tech. RAID BIOS Ver 1.00

▶ Create Array
▶ Delete Array
▶ Create/Delete Spare
▶ Select Boot Array
▶ Serial Number View

Create a RAID array with the hard disk attached to VIA IDE controller

F1 : View Array/Disk Status
↑,↓ : Move to next item
Enter: Confirm the selection
ESC : Exit

Channel	Drive Name	Array Name	Mode	Size(GB)	Status
Channel0 Master	XXXXXXXXXX		xxxxx	xxx.xx	Hdd
Channel0 Slave	XXXXXXXXXX		xxxxx	xxx.xx	Hdd
Channel1 Master	No Drive				
Channel1 Slave	No Drive				

Serial Number: VJF41646

5.5 シリアルATA構成用のIntel® RAID

本マザーボードはIntel® ICH5Rチップセットを通して、シリアルATAドライブ用のIntel® RAID 0をサポートします。RAIDとしてのシリアルATAオプションは、システムがIntel® RAID用Intel® RAID Option ROMコードをロードする前に、BIOSで有効にされる必要があります。Intel® RAID Option ROMは標準のPnP (プラグアンドプレイ)オプションで、Intel® RAID実装に対してプリオペレーティングシステムユーザーインターフェイスを提供します。これはまた、BIOSセットアップユーティリティ内からブートオーダーの選択を可能にします。



Intel® RAID for SATAの詳細については、サポートCDの“\Manual\IAA RAID Manual.doc”にあるユーザーズマニュアルの、Intelアプリケーションアクセラレータ、RAID版を参照してください。

5.5.1 BIOS 構成

1. パワーオンセルフテスト(POST)メモリテストを開始した後にキーを押すことによって、BIOSセットアッププログラムに入ります。
2. メインメニュー、次にIDE構成メニューを選択します。
3. 必要に応じて、[Legacy Mode]から[Enhanced Mode]に**オンボードIDE操作モードオプション**を切り替えます。
4. **S-ATAをRAIDとして構成オプション**を[Yes]に切り替えます。
5. <F10>を押してBIOS設定を保存し、BIOSセットアッププログラムを終了します。

5.5.2 シリアルATA (SATA) ハードディスクを取り付ける

シリアルATA (SATA)ハードディスクの取り付けには、シリアルATAプロトコルとSATA電源ケーブルをサポートする新しいSATAデータケーブル(4コンダクタ)が必要となります。SATAデータケーブルのどちらかの端を、SATAハードディスクまたはマザーボードのSATAコネクタに接続することができます。



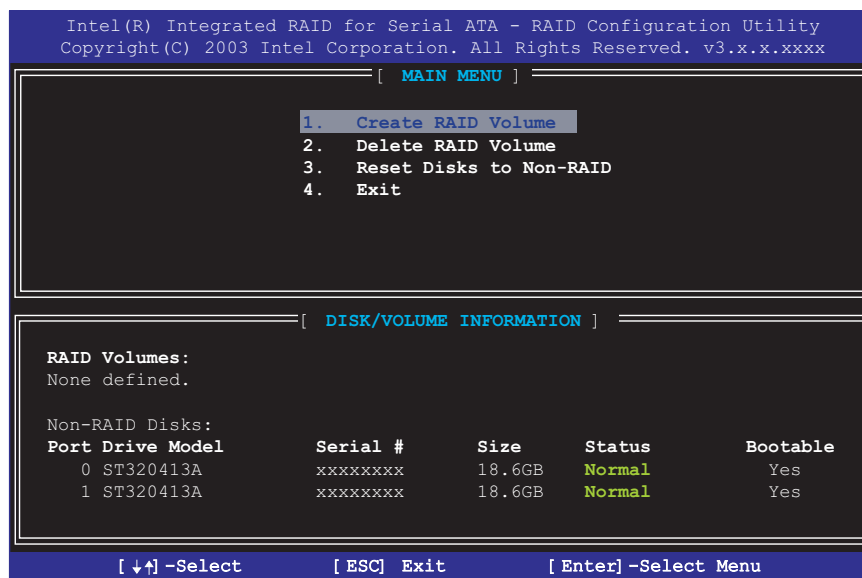
- データケーブルも電源SATAケーブルも、新しいケーブルです。SATAハードドライブには、古い40ピン80コンダクタIDEまたは通常のIDE電源ケーブルを使用することはできません。
- ハードディスクメーカーが提供する技術上の指示に、従ってください。

正しいケーブルの取り付けについては、指定した手順に従ってください。

1. ケーブルのどちらかの端をマザーボードのSATAコネクタに接続します。
2. ケーブルのもう一方の端をSATAハードディスクに接続します。

5.5.3 RAIDセットの作成、削除、再設定

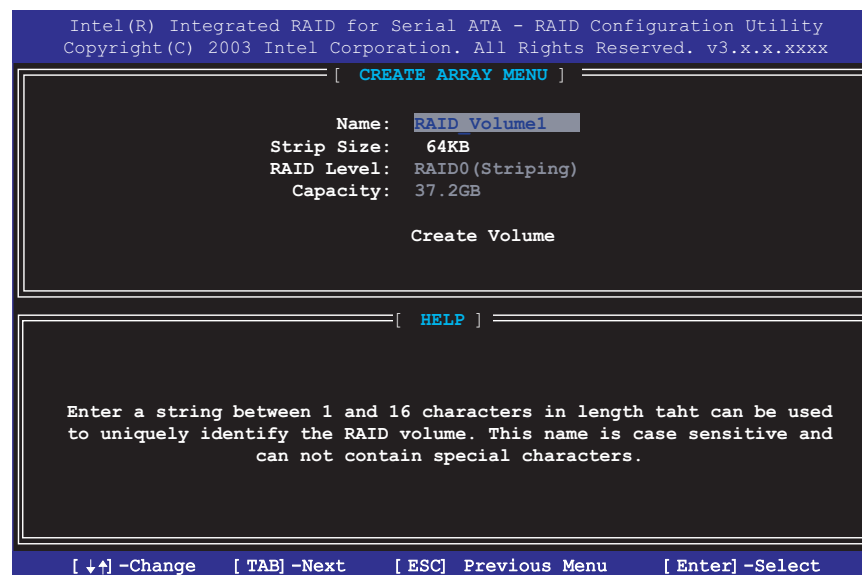
シリアルATA RAID セットは、RAID構成ユーティリティで構成される必要があります。この構成は、Intel® RAID Option ROMによって実行できます。パワーオンセルフテスト(POST)の間、数秒間次のメッセージが表示されます。<Ctrl-I>を押してRaid構成ユーティリティに入ります。このメッセージが表示されたら、<Ctrl>と<I>キーを同時に押します。次の画面画面メニューが表示されます。



5.5.4 RAID ボリュームの作成

指示された手順に従って、RAID 0 ボリュームを作成します。

1. オプション1 RAID ボリュームの作成 を選択し、<Enter>キーを押します。



2. 上または下矢印キーを使用したり<Enter>キーを押すことによって、利用できる値をスクロールさせて、RAID 0アレイのストライプ値を選択します。
3. 利用可能な値は8 KB から 128 KBまでに渡っています。ストライプ値は計画されたドライブ使用量に基づいて選択される必要があります。一部の推奨される選択を次に一覧表示します。デフォルトの選択は64 KBです。
 - 16 KB - 低いディスク使用量
 - 64 KB - 標準的なディスク使用量
 - 128 KB - 性能重視のディスク使用量
4. <Enter>キーを再び押すと、アレイを作成するように促すボリュームの作成が表示されます。表示が出たら、<Y>キーを押してこの選択を確認します。

```
Are you sure you want to create this volume (Y/N)
```

5. オプション4 終了までスクロールして<Enter>キーを押し、RAID構成ユーティリティを終了します。<Y>キーを押して、終了を確認します。

5.5.5 RAID ボリュームの削除

```
Intel(R) Integrated RAID for Serial ATA - RAID Configuration Utility
Copyright(C) 2003 Intel Corporation. All Rights Reserved. v3.x.x.xxxx

[ DELETE ARRAY MENU ]

Name          Level          Drives    Capacity  Status    Bootable
RAID_Volume1  RAID0(Stripe)  2         37.2GB   Normal    Yes

[ HELP ]

Deleting a volume will destroy the volume data on the drive(s) and
cause any member disks to become available as non-RAID disks.

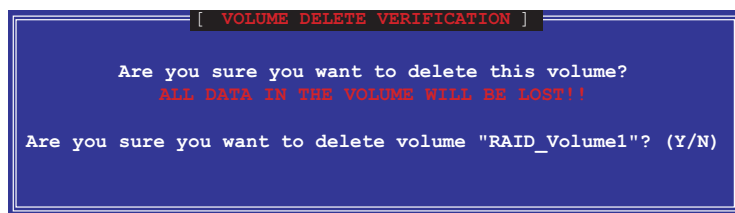
WARNING: EXISTING DATA WITHING THIS VOLUME WILL BE LOST AND NON-RECOVERABLE

[ ↓↑ ] -Change  [ TAB ] -Next  [ <ESC> ] -Previous Menu  [ <DEL> ] -Delete Volume
```



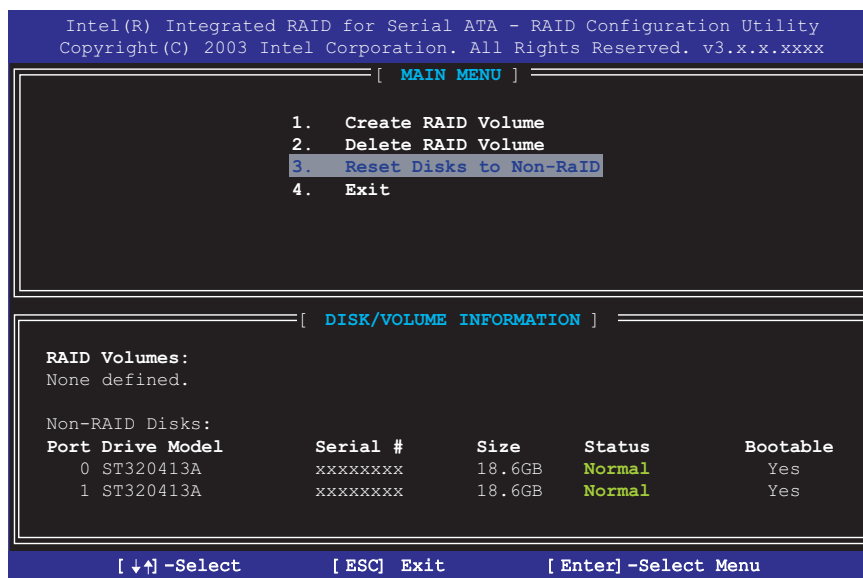
このオプションを使用するときは注意してください。RAIDドライブの全てのデータが失われます!

1. オプション2 RAID ボリュームの削除を選択し、<Enter>キーを押してRAIDセットを削除します。
2. <Delete>キーを押して、RAIDボリュームを削除します。



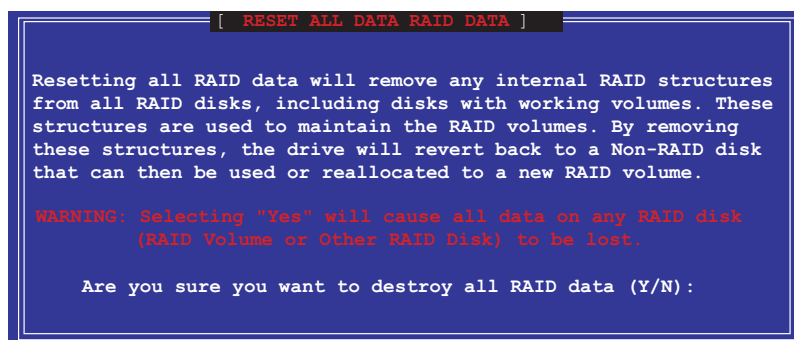
3. <Y>キーを押して、ボリュームの削除を確認します。

5.5.6 RAID データのリセット



このオプションを使用するときは注意してください。RAIDドライブの全てのデータや内部RAID構成が失われます!

1. オプション3 RAID データのリセットを選択し<Enter>キーを押してRAIDセットを削除し、ドライブからRAID構造を取り除きます。



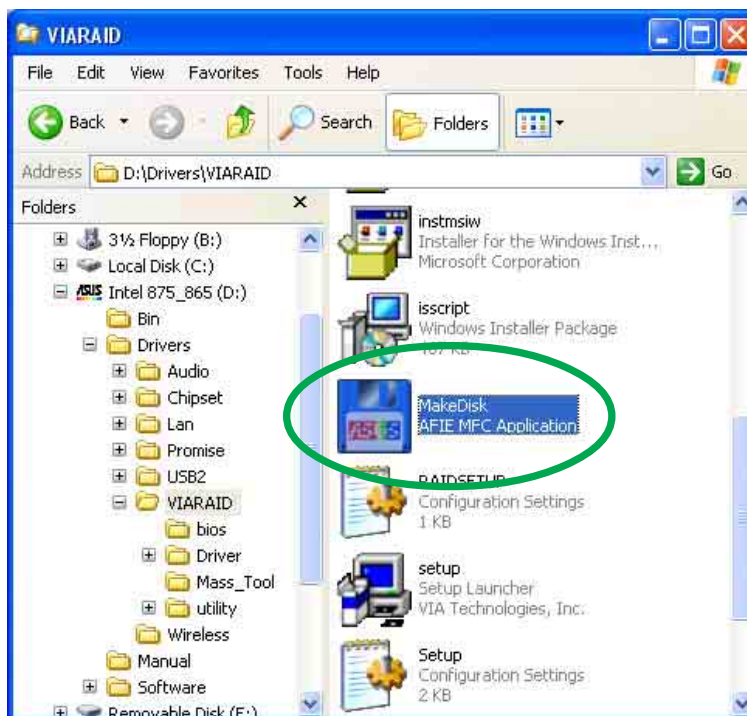
2. <Y>キーを押して、ボリュームの削除を確認します。

5.6 Makedisk.exeの使用

ブート可能なフロッピーが必要になったが、ブート可能なフロッピーディスクが利用できない場合、またはセットアップ中にブート可能なフロッピーが作成できなかった場合、ブート可能なフロッピーを異なるコンピュータに作成する必要があります。ユーティリティ(Makedisk.exe)により、システムをセットアップするときまたはRAIDインストールを構成するとき、ブート可能なフロッピーを作成できます。

次の手順に従い、Makedisk.exeを使用してブート可能なフロッピーを作成します。

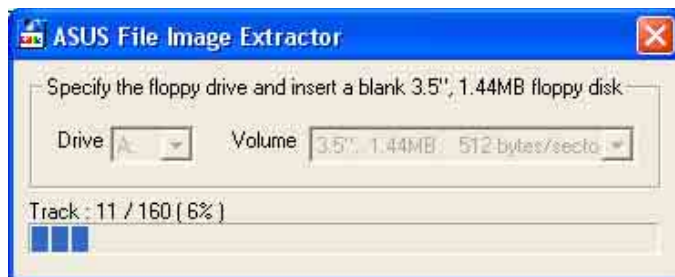
1. 異なるコンピュータを使用して、マザーボードサポートCDの“Drivers\VIARAID”でMakedisk.exeを探します。そのアイテムをダブルクリックすると、プログラムが実行されます。



2. フロッピードライブの場所を選択し、指定したドライブに空のフロッピーディスクを挿入します。展開ボタンをクリックします。



3. プログラムがファイル画像展開プロセスを表示します。手順が終了したら、終了ボタンをクリックします。



4. これで、フロッピーディスクを使用できるようになりました。



コンピュータウィルスに感染しないように、フロッピーディスクが書き込み禁止になっていることを確認してください。

5.7 3Com® Virtual Cable Tester™ (VCT) テクノロジ

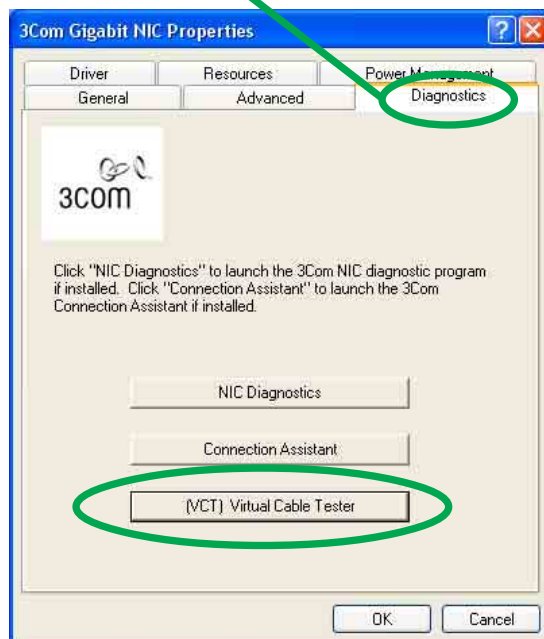
P4P800 Deluxeマザーボードは、3Com Virtual Cable Tester(VCT) テクノロジをサポートします。VCTはタイムドメイン反射計(TDR)を使用して、ケーブル障害を診断し報告します。この必須ツールがあれば、インストールとネットワーク診断はこれ以上ないほど簡単になります。VCTテクノロジは、最大1メートルの精度で、開いたケーブルと短いケーブルを検出し報告します。さらに、インピーダンスの不一致、ペアスワップ、ペア極性の問題、64nsまでのペアスキュー問題も検出します。

VCTは、きわめて扱いやすく制御しやすいネットワークシステムを補足することによって、ネットワークとサポートコストを大幅に削減しています。さらに、このツールをネットワークシステムソフトウェアに組み込むと、フィールドサポートだけでなく開発診断にとって理想的なツールとなります。

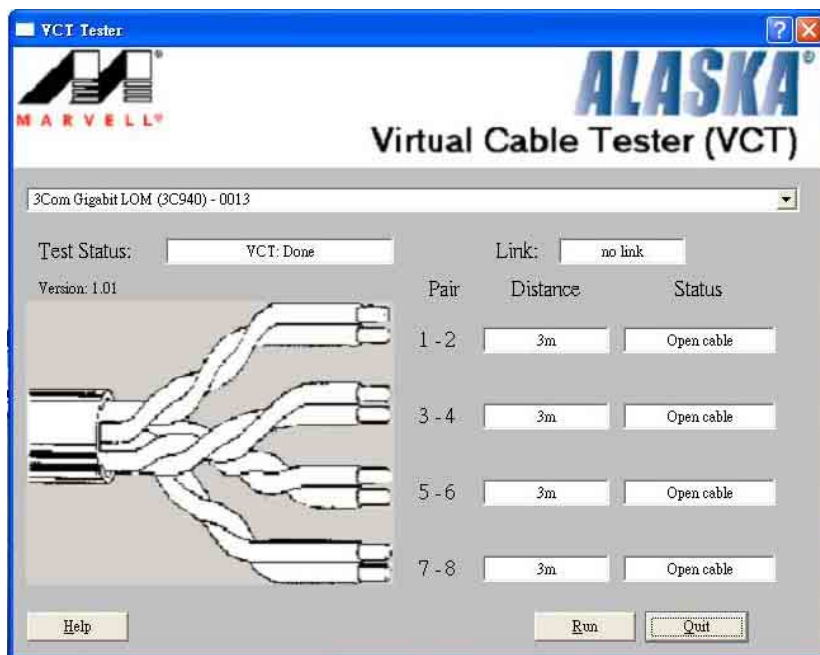
Virtual Cable Tester™の使用

1. ポップアップメニューで、デスクトップの [マイコンピュータ] アイコンを右クリックし、 [プロパティ] をクリックすると、 [システムプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
2. [ネットワークアダプタ] を検索し、一覧から 3Com Gigabit LOM (3C940) を選択します。 [プロパティ] ボタンをクリックします。

3. [3Com Gigabit LOM (3C940)プロパティ] ダイアログボックスから、[診断]タブを選択します。



4. [(VCT) Virtual Cable Tester] ボタンをクリックします。次の画面ディスプレイが表示されます。



5. [ファイル名を指定して実行] をクリックして、テストを実行します。



- Virtual Cable Tester™(VCT) 機能は、Windows® XP™とWindows® 2000™オペレーティングシステムでのみサポートされています。
- [VCT Tester] ダイアログボックスの [ファイル名を指定して実行] は、ネットワークに問題が検出されなければ、無効にされます。